

Ⅲ. アクティブ・ラーニングの普及

1. SIH道場パフォーマンス科目

1-1. 目的

全学的なアクティブ・ラーニングの推進、主体的な学びの育成に繋がる科目として、SIH道場を実施し平成30年から4年目を迎える。これまでSIH道場は1年次必修科目として開講されてきたが、今後はさらに、学士課程教育全体におけるアクティブ・ラーニングの拡大を目指す必要がある。そこで、SIH道場で学んだプレゼンテーション力・文章力・協働力等のスキルを活用する既存の科目をSIH道場パフォーマンス科目として位置づけ、その科目へのSIH道場の波及効果を検証するとともに、両者の連携の強化をはかることで、学士課程教育全体における主体的な学びの機会を更に拡張する。

1-2. 科目設定条件

内 容 : SIH道場パフォーマンス科目とは、既存の科目においてSIH道場で学んだ内容（プレゼンテーション力・文章力・協働力）を活用する科目

開 講 時 期 : 2年次～3年次に開講される専門教育科目

科 目 条 件 : 必修科目又は選択必修科目

対 象 科 目 数 : 別紙1を参照

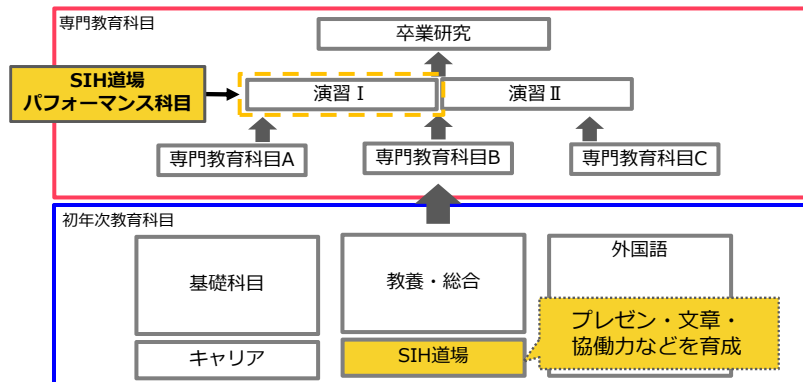
対 象 期 間 : 平成31年度まで（平成31年度以降の継続は随時検討）

設 定 期 日 : 平成30年4月27日（金）まで

SIH道場パフォーマンス科目(案)

課題：今後の課題は、専門教育へのALの普及である。具体的には、学生が入学年度に道場で学んだことを2年次以降の学習において確実に生かすことができるよう、各教員が意識して専門科目の授業設計を行うかが問われることになる。（外部評価委員総評）

学部・学科のカリキュラムマップとSIH道場の関連（例）



【SIH道場パフォーマンス科目】

SIH道場で学習したプレゼン・文章・協働などのスキルが専門教育科目のなかでどのように活用されているのか検証する科目

SIH道場パフォーマンス科目申請条件

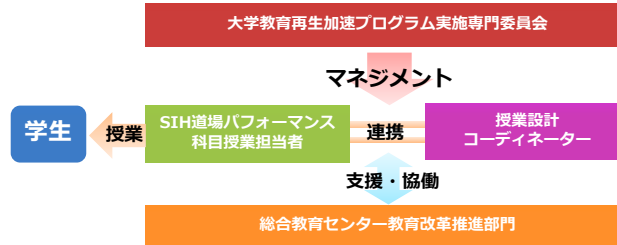
【SIH道場パフォーマンス科目】

- 内 容：SIH道場で学んだ内容（プレゼン・文章・協働）を活用する科目
- 開 講 時 期：2年次-3年次に開講される専門教育科目
- 科 目 条 件：必修科目又は選択必修科目
- 対象科目数：別紙1を参照
- 対 象 期 間：平成31年度迄（平成31年度以降の継続は随時検討）
- ※上記の条件から外れる場合は、相談下さい。

【科目への依頼事項】

- 既存情報の提供
 - シラバス・過去5年間のGPC
- 学生への課題
 - アンケートへの回答
 - 学習ポートフォリオへの記入（共通の課題又は科目独自の課題）

SIH道場パフォーマンス科目実施に関わる 各アクターの関係・役割



- **大学教育再生加速プログラム実施専門委員会**
SIH道場パフォーマンス科目実施に関する全体統括、全体像の把握を行う。
- **授業設計コーディネーター**
自身が所属する学科・専攻・コースの教員と連携して**SIH道場パフォーマンス科目を選定する。**
- **SIH道場パフォーマンス科目授業担当者**
SIH道場パフォーマンス科目で実施する**振り返り課題の設定**、授業の最終回において**学生アンケート**、**振り返り課題を実施する。**
- **総合教育センター教育改革推進部門**
SIH道場パフォーマンス科目の授業担当者を支援する。SIH道場パフォーマンス科目の過去5年間GPCの検証、学生アンケート・振り返り共通課題の集計・分析を担う。

学生への課題

| 種類 | 手段 | 対象 | 内容 | 実施時期 |
|---------|--------------------|-------|---|-----------------|
| アンケート | WEB | 対象科目 | 対象となる科目に関する設問 | 原則として 授業の最終回 |
| | | SIH道場 | SIH道場で学んだ内容に関する設問 | |
| | | 学習全般 | 大学での学習経験・価値観に関する設問 | |
| 振り返り | mahara 又は 用紙 | 対象科目 | 対象となる科目で学習・経験した内容に関する 振り返り 科目内で作成した課題に関する振り返り | |
| | | SIH道場 | SIH道場で学んだ内容に関するスキル (プレゼン・文章・協働)に関する振り返り | |
| | | 学習全般 | これまで大学で学んできた学習経験に 関する振り返り・今後大学での学習計画 | |
| 科目独自の課題 | | | 科目独自の振り返り課題を実施する場合は、 担当教員に振り返りの内容・実施方法を一任する | |

SIH道場パフォーマンス科目設定から実施・検証の流れ

| 年度 | 時期 | 内容 |
|------|-------|--|
| H29年 | 2月 | SIH道場パフォーマンス科目設定の依頼 |
| H30年 | 3月中旬 | 各学部・学科SIH道場パフォーマンス科目の申請〆切 |
| | 4月-3月 | SIH道場パフォーマンス科目の対象科目GPCの提出 (各学部事務から提出) 過去5年間(H25-H29)のGPC遷移の検証 |
| | | H30年前期・後期から学生課題を実施できる パフォーマンス科目を随時実施 SIH道場パフォーマンス科目を担当する教員へのFD(予定) |
| H31年 | 4月-3月 | SIH道場パフォーマンス科目を継続実施 取り組みの効果を検証し、継続の有無をAP実施専門委員会で検討 |

1-3. SIH道場パフォーマンス科目一覧

| 学部 | 学科・コース等 | SIH道場パフォーマンス科目対象科目名 | 対象学年 |
|-------------------------|---------------|-----------------------|------|
| 総合科学部 /社会総合科学科 | 国際教養コース | 実践プロジェクトB(サマープログラム協力) | 2 |
| | 心身健康コース | 実践プロジェクトC(心身健康維持) | 2 |
| | 公共政策コース | 実践プロジェクトF(政策実践) | 2 |
| | 地域創生コース | 実践プロジェクトG(アート創生) | 2 |
| 医学部 | 医学科 | 医学研究実習 | 3 |
| | 医科栄養学科 | 臨床栄養学実習 | 3 |
| | 保健学科(看護) | 高齢者看護学概論 | 2 |
| | 保健学科(放射) | 制御システム工学 | 3 |
| | 保健学科(検査) | 生理検査学 I | 3 |
| 歯学部 | 歯学科 | 歯科英語 | 3 |
| | 口腔保健学科 | オーラルヘルスプロモーション | 2 |
| 薬学部 | 薬学科 | 薬理学実習 | 2 |
| | 創製薬科学科 | | |
| 理工学部 /理工学科 | 社会基盤デザインコース | 社会基盤実験実習 | 3 |
| | 機械科学コース | 機械科学実験3 | 3 |
| | 応用化学システムコース | 基礎化学実験 | 2 |
| | 電気電子システムコース | 電気電子工学基礎実験 | 2 |
| | 情報光システムコース | システム設計及び実験 | 3 |
| | 応用理数コース 数理科学系 | プログラミング演習2 | 2 |
| | 応用理数コース 自然科学系 | 物理学実験1 | 2 |
| | | 化学実験2 | 3 |
| | | 生命科学実験1 | 2 |
| | | 地球科学実験1 | 2 |
| 生物資源産業界学部 /生物資源産業界学科 | 応用生命コース | 生物資源産業界学実験 | 2 |
| | 食料科学コース | | |
| | 生物生産システムコース | | |

1-4. SIH 道場パフォーマンス科目学生アンケート調査の結果

「SIH 道場パフォーマンス科目」は2年次学生または3年次学生が受講する科目であり、SIH 道場で学んだラーニングスキル（文章力・プレゼン力・協働力・振り返り）を実践する場である。SIH 道場を受講した学生たちが、高学年次においてどのような学修を実践しているのかを検証するために、SIH 道場パフォーマンス科目受講後の学生を対象にアンケート調査を実施した。

平成30年度のSIH 道場パフォーマンス科目における学生アンケート回答者数は以下の通りである。

1,146名中 634名 (55%)

以下に、SIH 道場受講前学生アンケートとの比較をしつつ、大学全体の傾向について概観する。

SIH 道場受講前学生アンケートの結果と比較して10%以上の大幅な変化が見られた項目は、次の通りである。()内の数値について、割合はSIH 道場パフォーマンス科目における結果を表し、<+○%>はSIH 道場受講前学生アンケートの結果と比較した場合の差を表す。

- 1-1. A.あまり興味がなくても、単位を楽にとれる授業がよい (62%<+18%>)
- 1-5. B.大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけた方がよい (51%<+10%>)
- 1-13. B.大学では既にある学問の知識について、体系的に修得する学びが重要だ (39%<+18%>)
- 1-14. A.学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、大学の教育の責任だ (33%<+17%>)

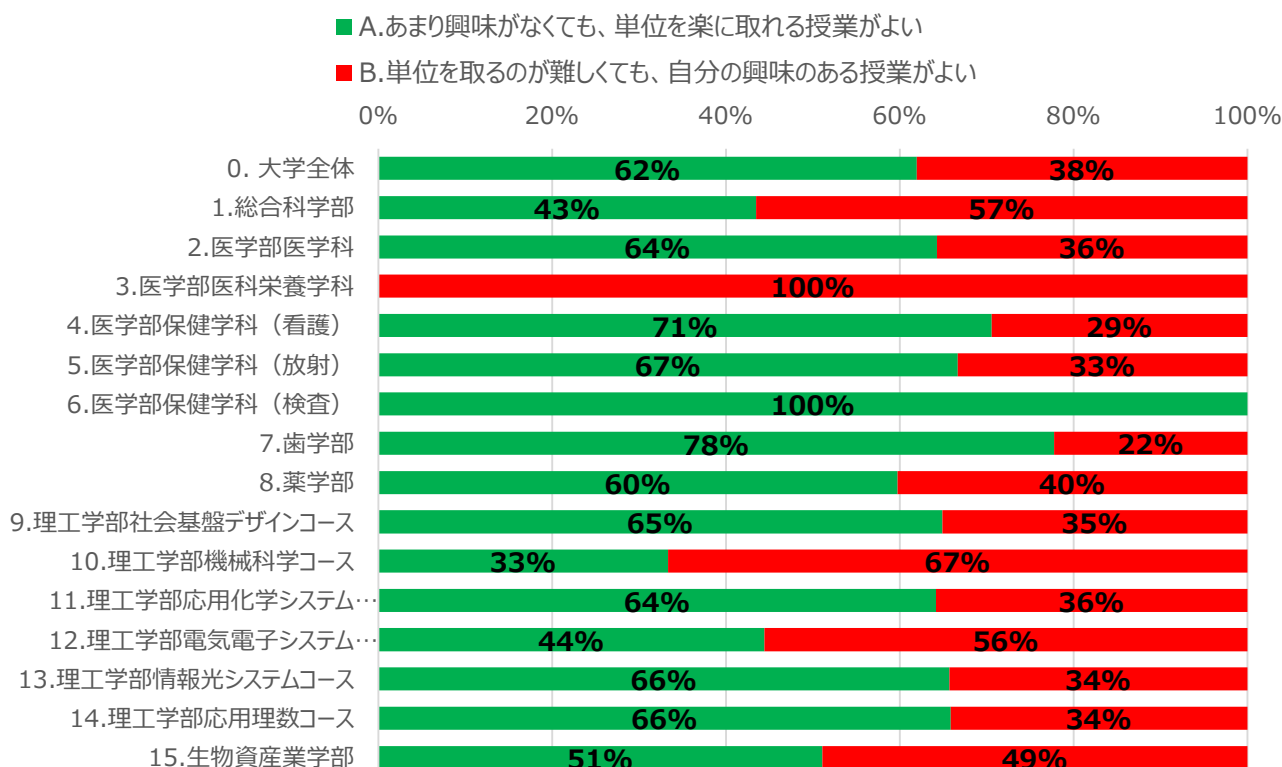
2年次・3年次学生の学修に対する意識として、単位取得は楽に行える方がよいとしつつも、専門分野の知識や技能の習得や、学問の体系的な学びを重視するようになった様子が窺える。さらに、こうした学修目標を達成できるかどうかについては大学の教育にその責任を認める方向に変化していることが分かる。

また、SIH 道場を受講する1年次前期と比較してラーニングスキルが向上したかどうかを問う設問では、文章力・プレゼン力・協働力のすべての項目において約8割以上の学生が「向上した」とする結果が得られた。具体的な割合は、文章力88%、プレゼン力79%、協働力87%であり、全体的に高いことが分かる。

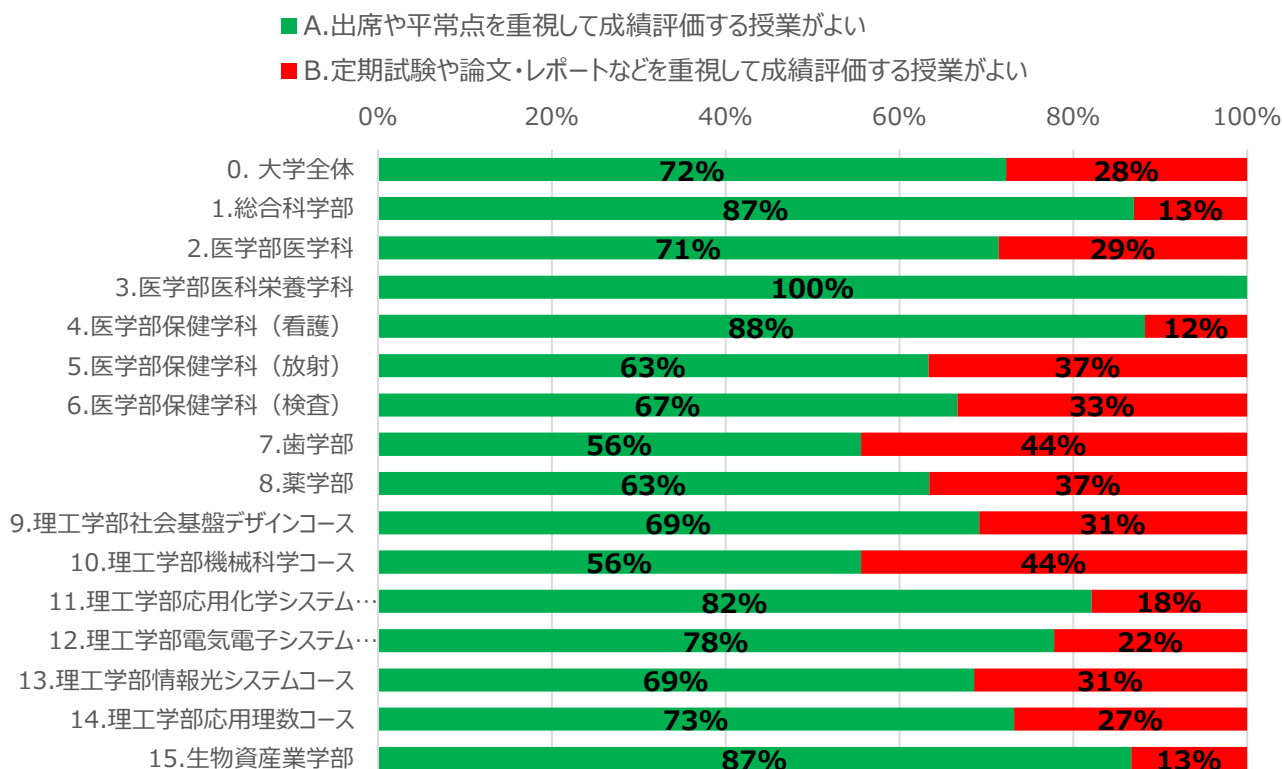
これらの結果から、学生たちが大学の授業を通じて、SIH 道場で学んだラーニングスキルを実践する機会を重ねており、授業を受講する中でその能力を伸ばしていることが明らかとなった。一方で、自由記述の結果を眺めると、「機会が少ない」「指導を受ける機会が少なかった」といった教育の機会の少なさを指摘する意見や、「消極的であった」「参加の仕方がわからない」など、学生自身の意識姿勢に関する課題が挙げられていた。来年度はこの結果をSIH 道場授業設計コーディネーターに共有する形で授業改善につなげていきたい。

問 1. 大学教育について、あなたは次にあげる A、B のどちらの考え方に近いですか？

1-1. 大学教育について、あなたは次にあげる A、B のどちらの考え方に近いですか？



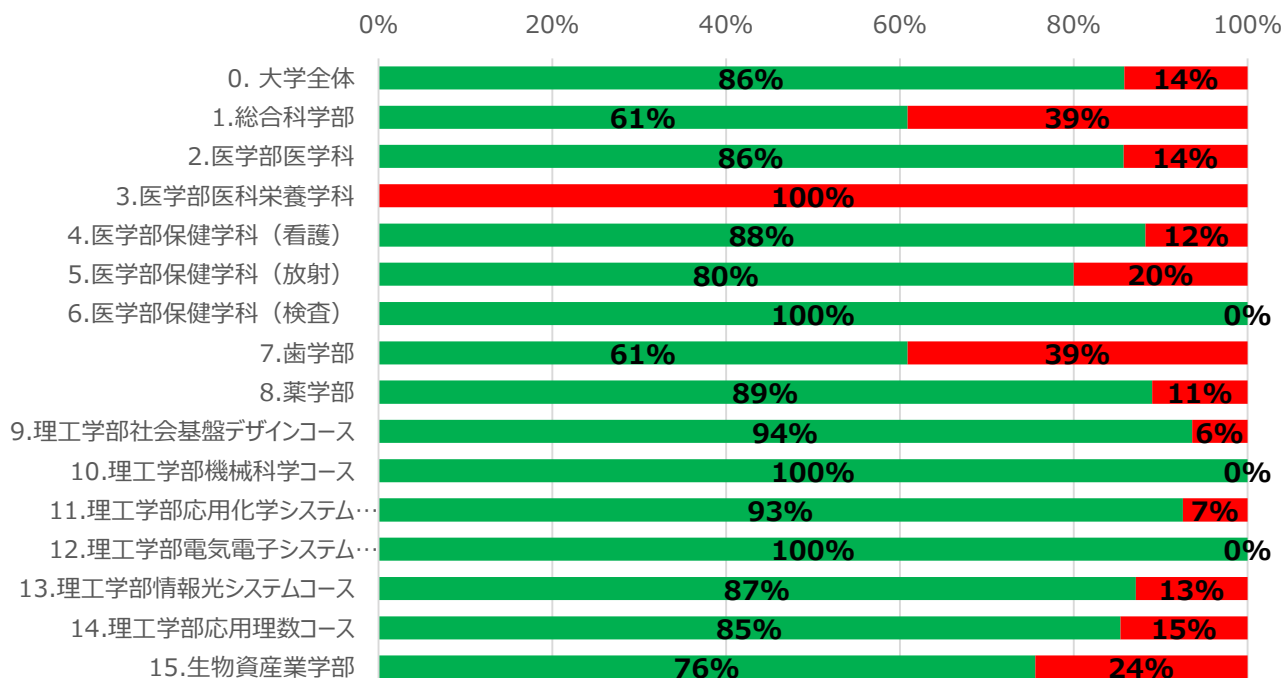
1-2. 大学教育について、あなたは次にあげる A、B のどちらの考え方に近いですか？



1-3. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

■ A. 応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本が中心の授業がよい

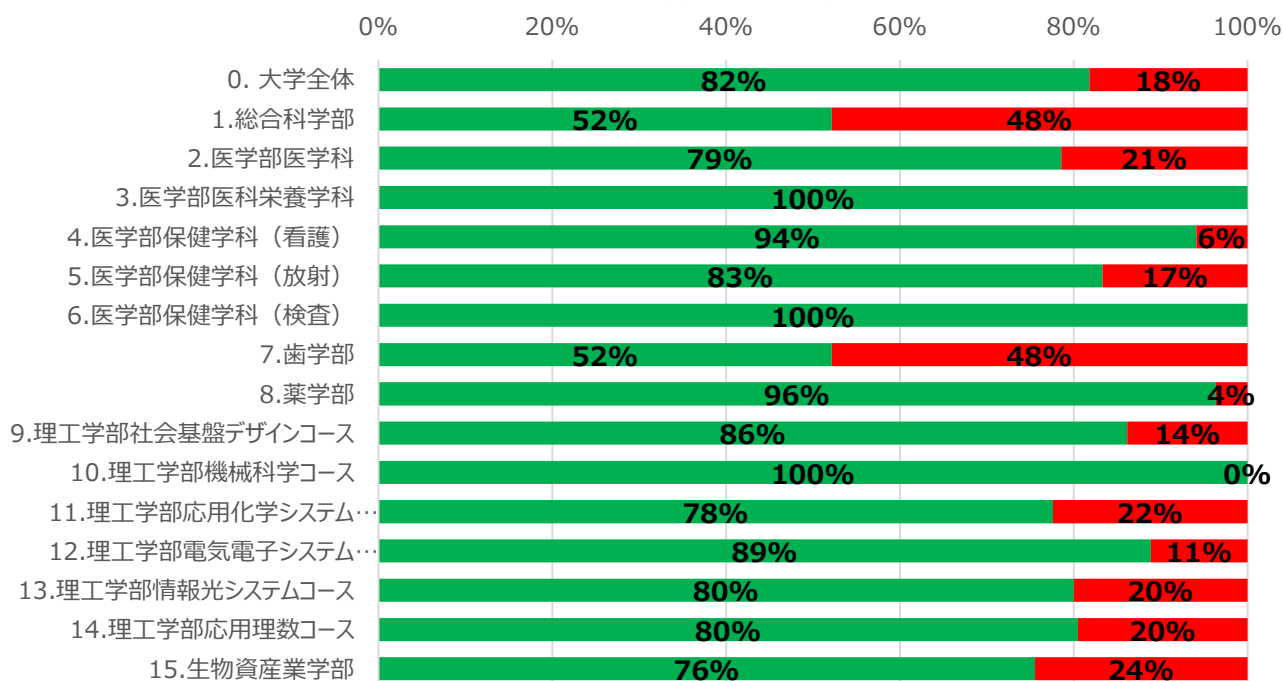
■ B. 基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容の授業がよい



1-4. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

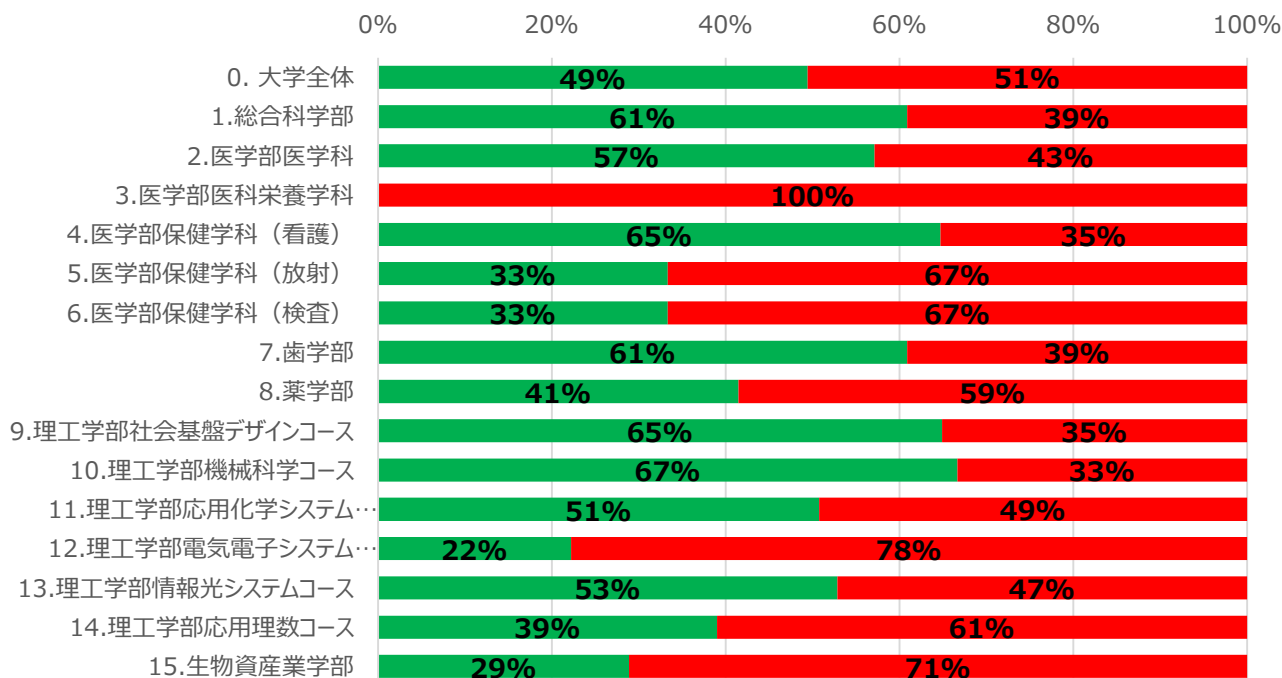
■ A. 教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい

■ B. 学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい



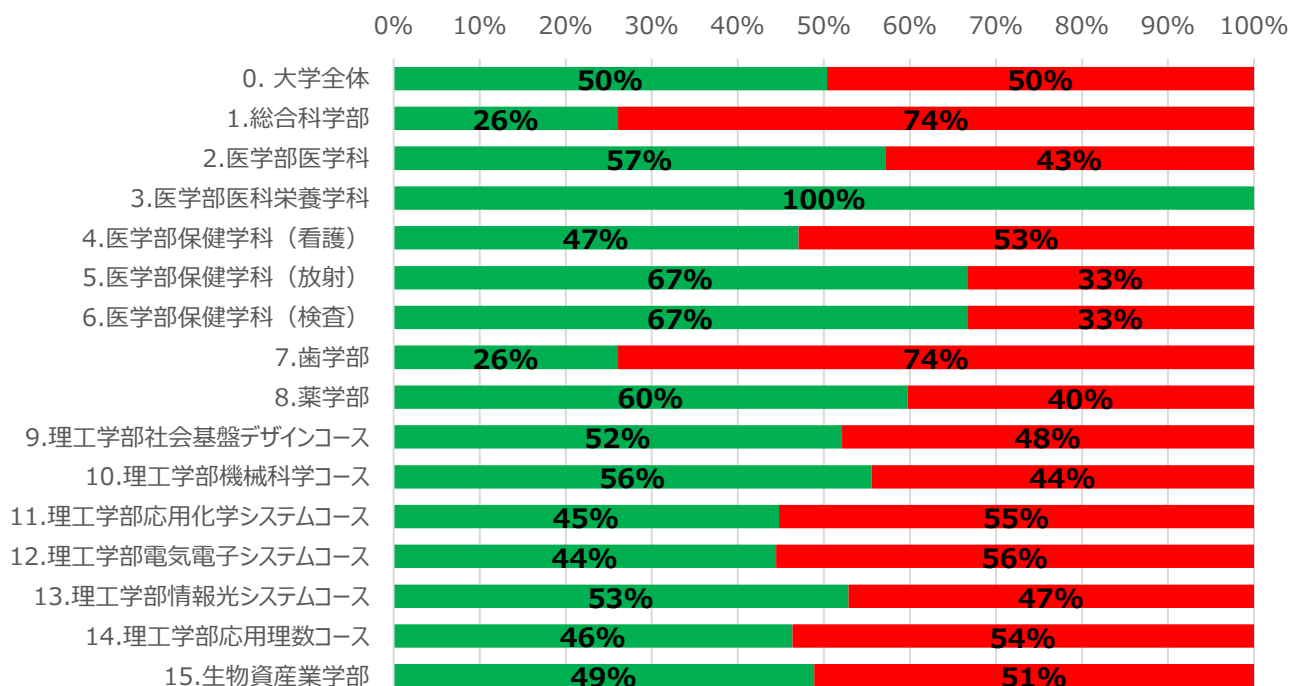
1-5. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

- A.大学では幅広い分野の知識や技術を身につけたほうがよい
- B.大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい



1-6. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

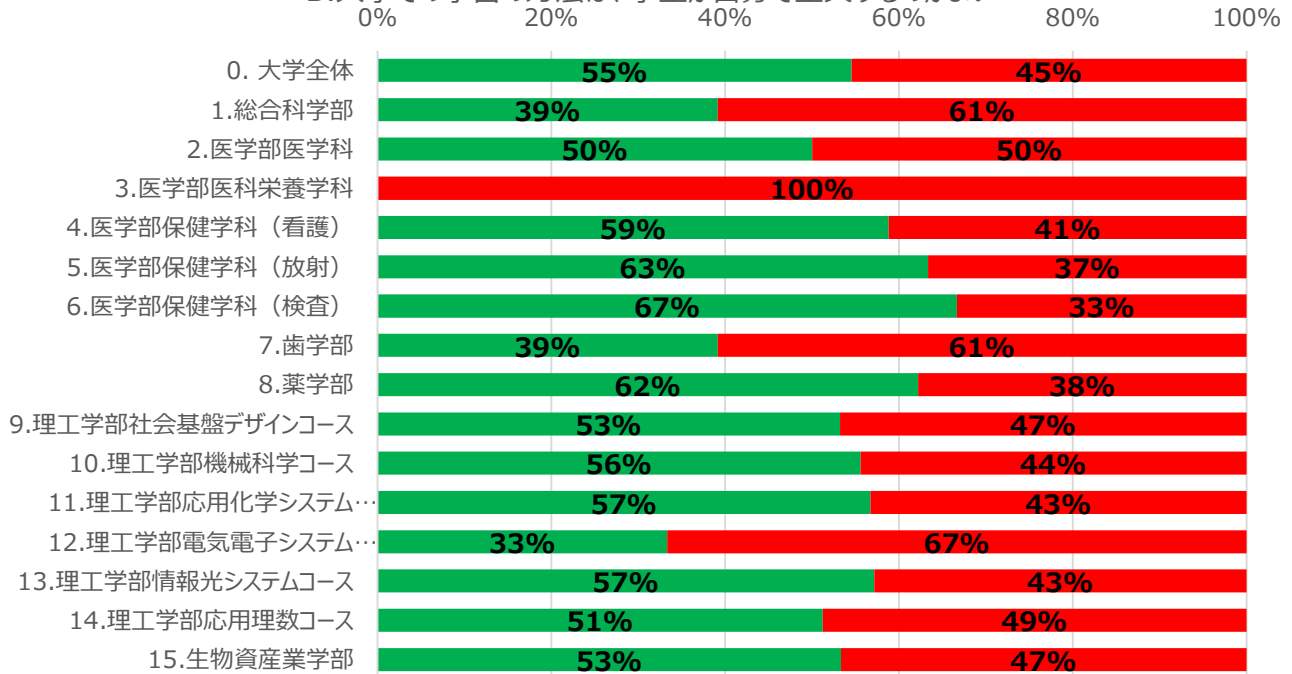
- A.あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい
- B.あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい



1-7. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いのです

■ A. 大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

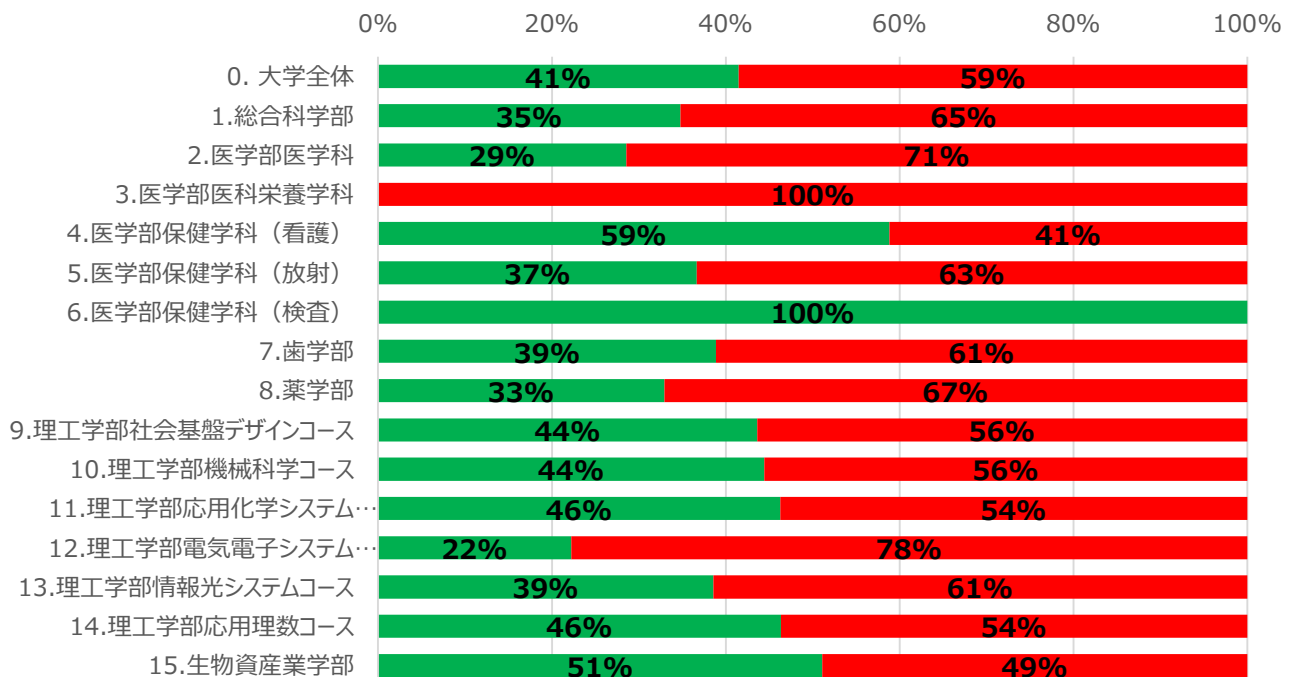
■ B. 大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい



1-8. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いのですか？

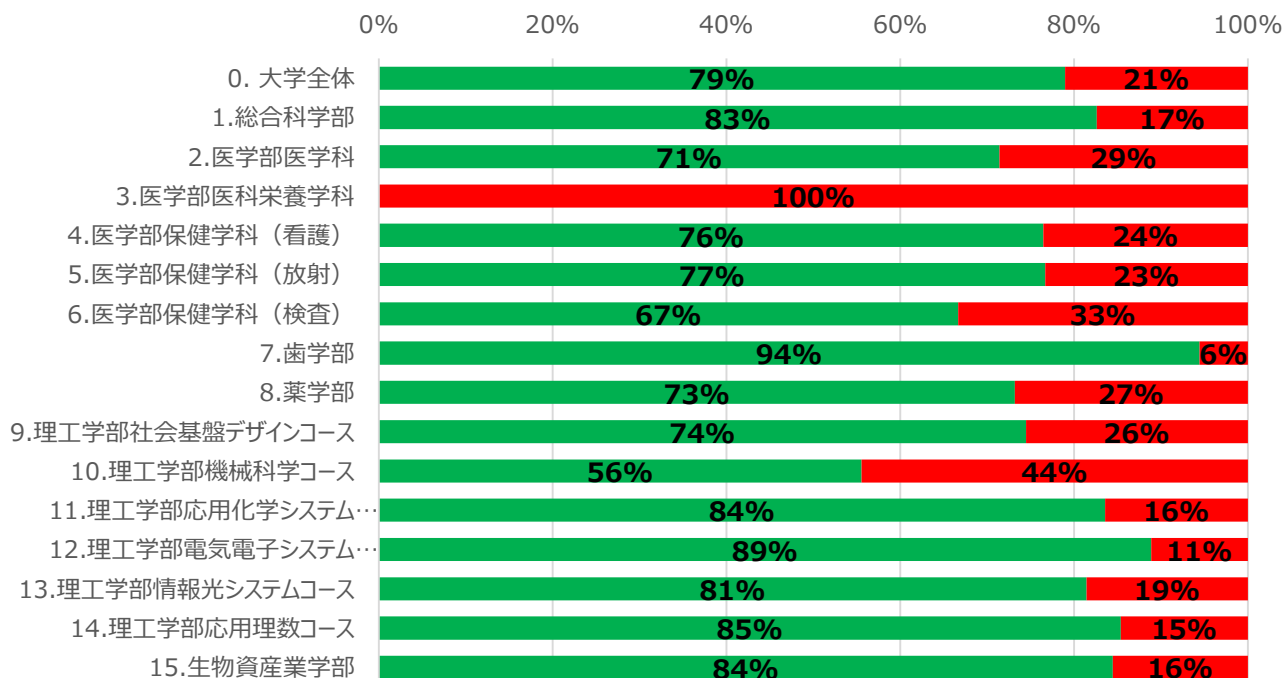
■ A. 学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい

■ B. 学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい



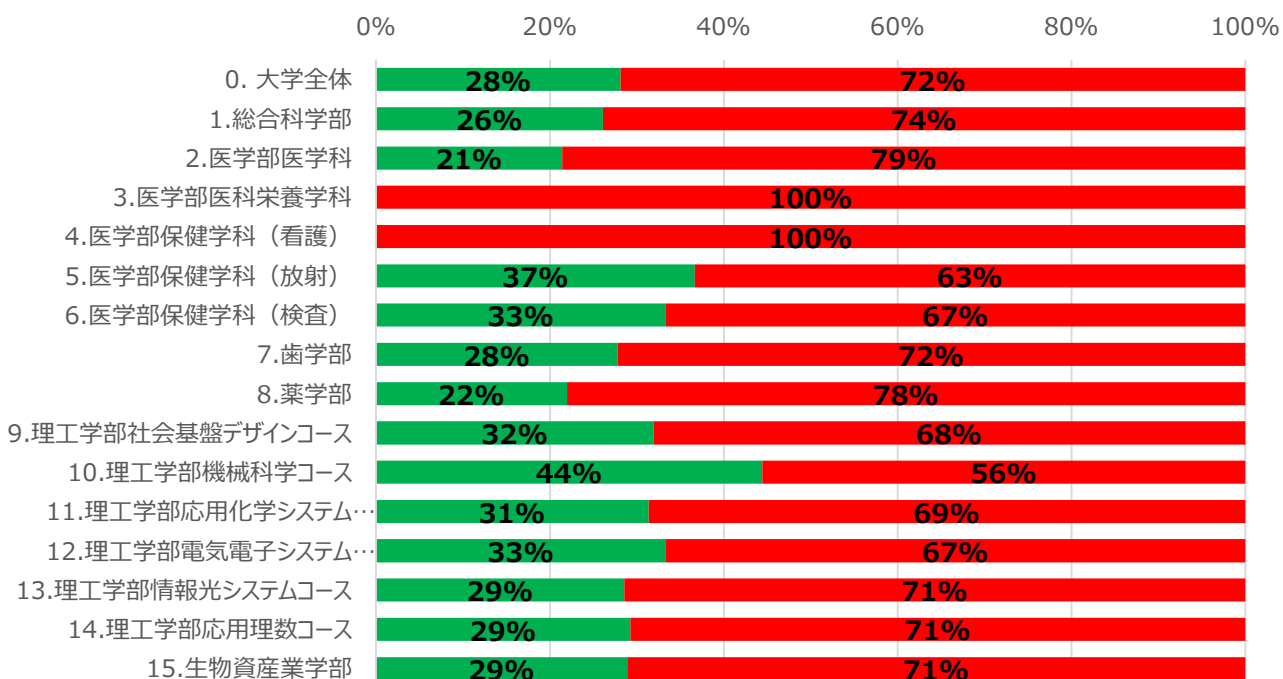
1-9. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

- A. 授業以外でも、大学の教員は積極的に学生と交流するほうがよい
- B. 授業以外では、大学の教員は必要以上に学生と交流しなくてもよい



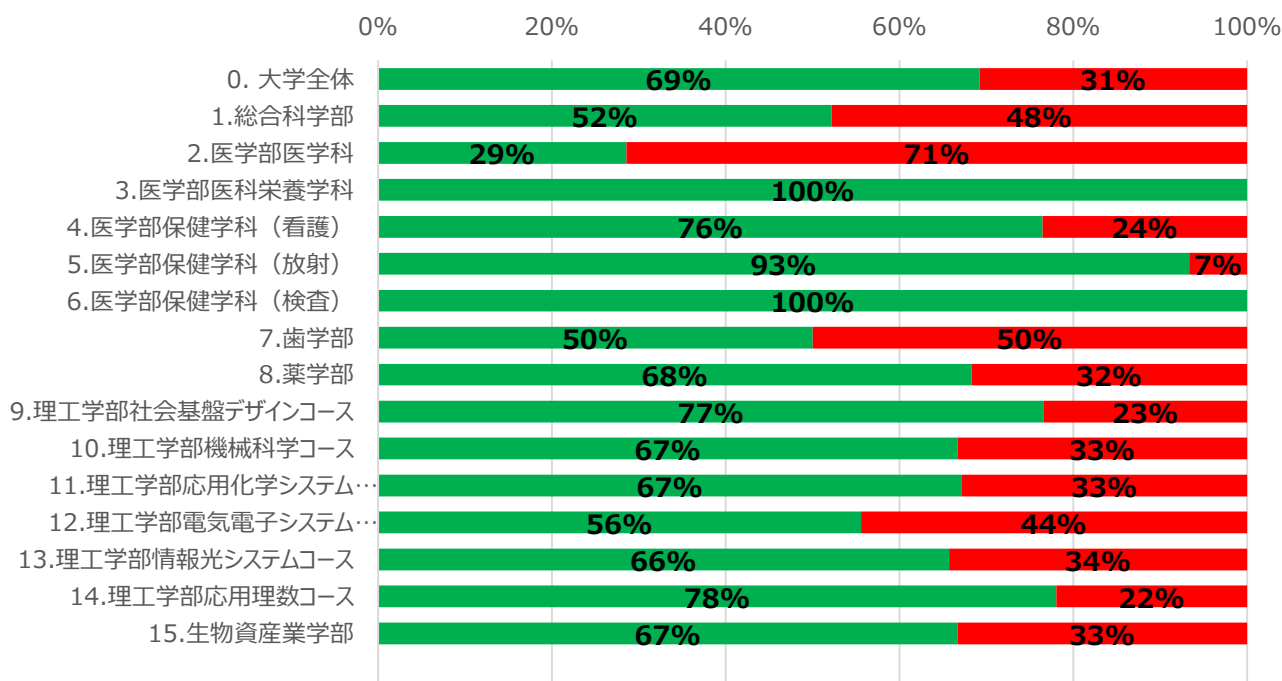
1-10. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

- A. 学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい
- B. 学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい



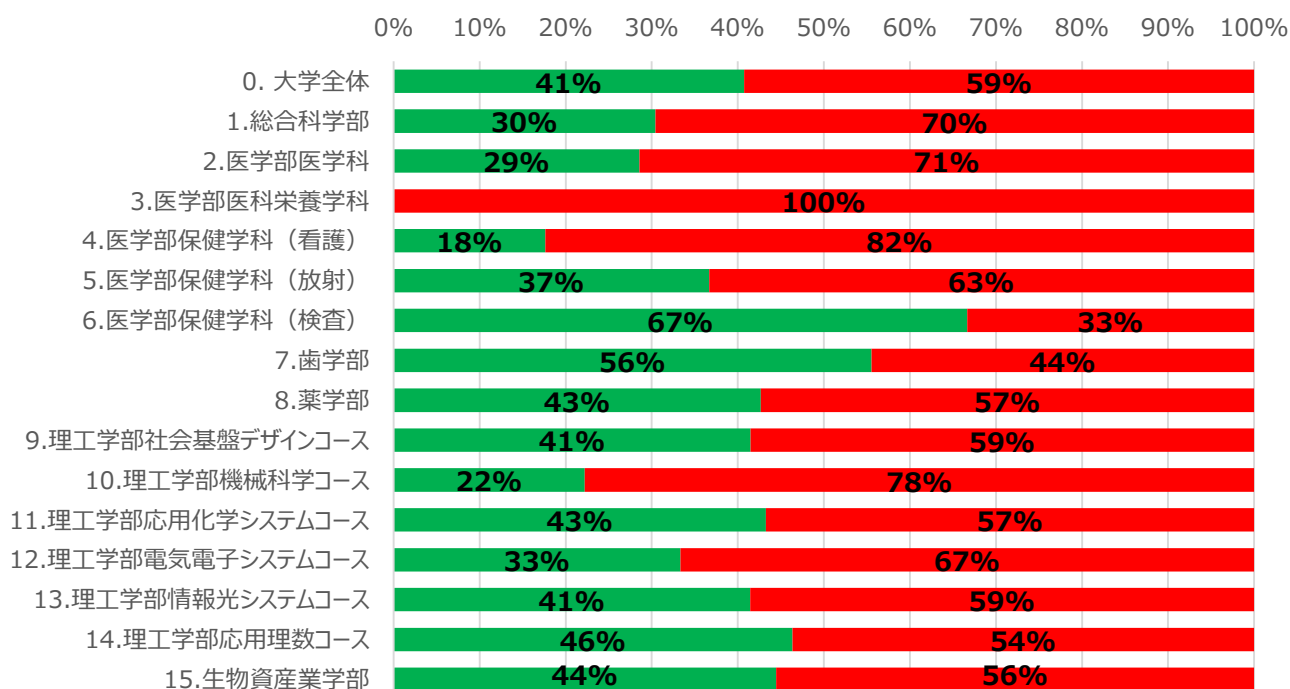
1-11. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

- A.就職については、大学の指導・支援にもとづいて活動する方がよい
- B.就職については、学生の自主性にもとづいて活動する方がよい

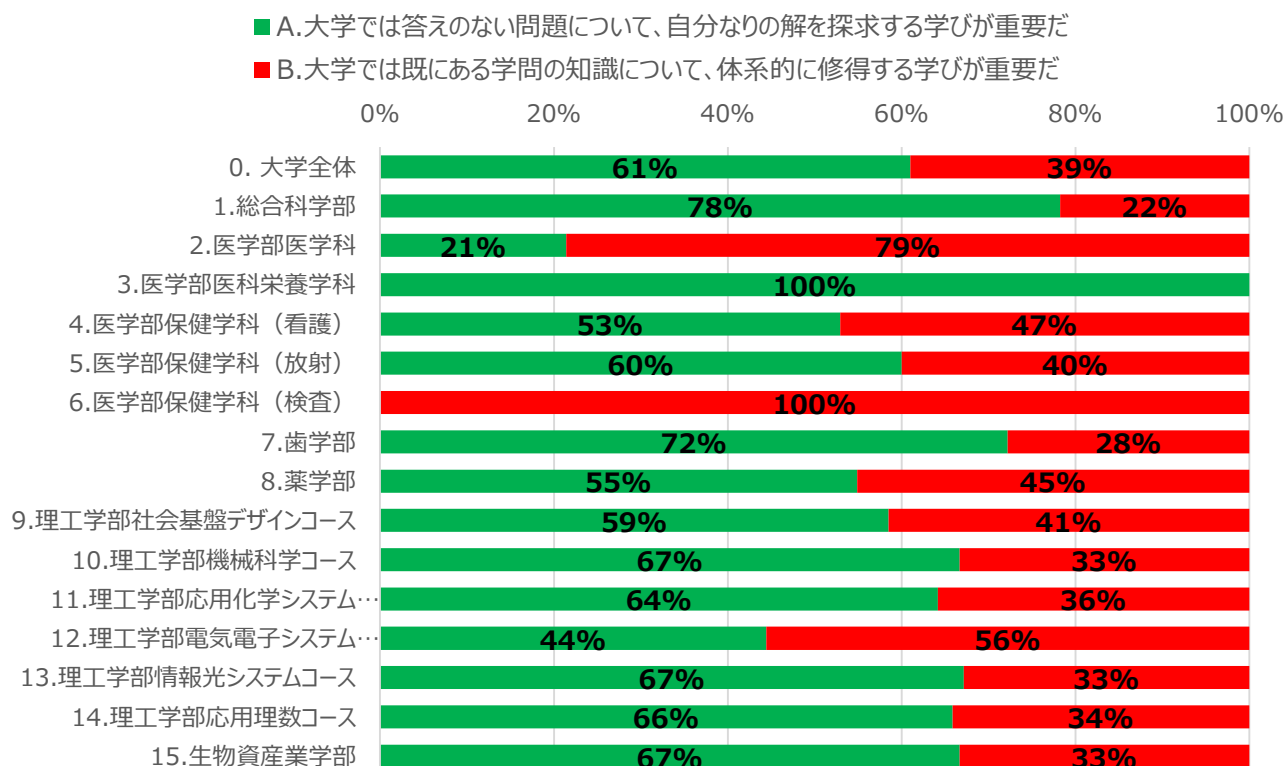


1-12. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？

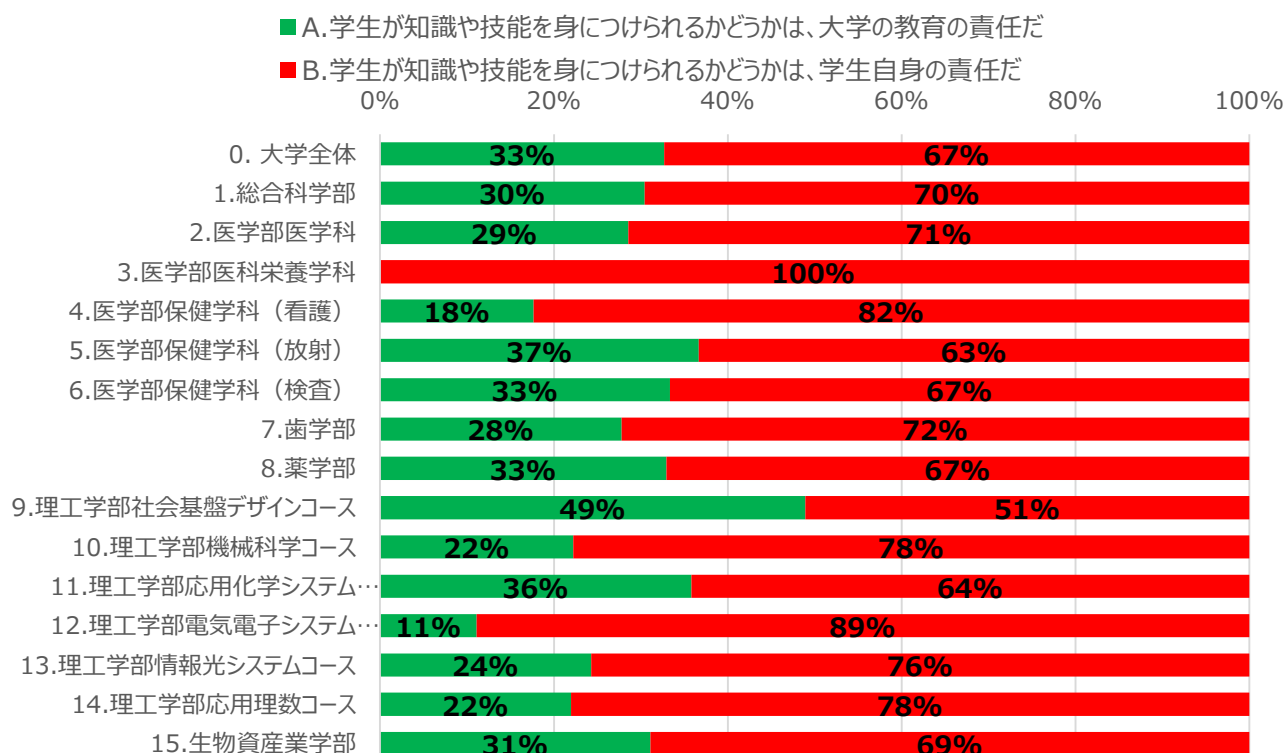
- A.高校までに習得すべき基礎学力の不足は、大学が授業で指導すべきだ
- B.高校までに習得すべき基礎学力の不足は、学生が自主的に補うべきだ



1-13. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？



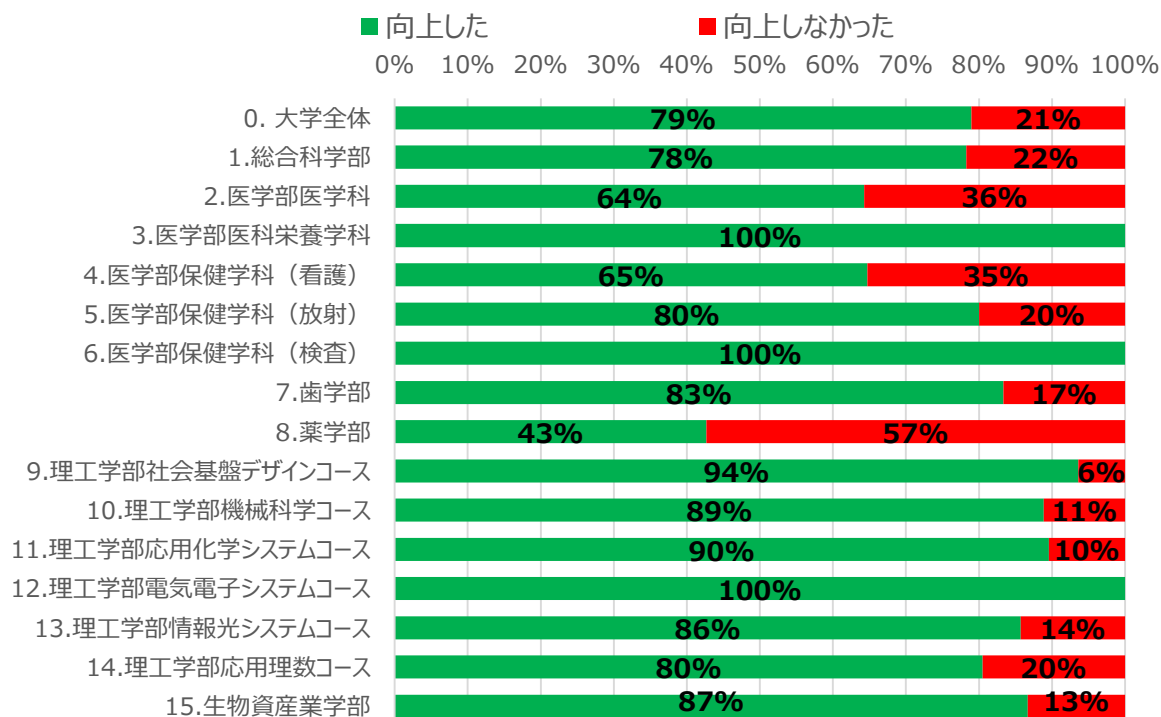
1-14. 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか？



問 4. 3つのラーニングスキルについて

大学生1年生の前期と比べて、プレゼンテーション力・文章レポートを書く力・協働力（コミュニケーションを通じて、複数人で課題に取り組む能力）に関するスキルは向上しましたか？ 「向上した」又は「向上しなかった」のいずれかに○を記し、その理由について自身の経験を交えながら具体的に記入して下さい。また、今後それぞれのスキルを向上させるために必要な取り組みについて具体的に記入して下さい。

4-1: プレゼンテーション力について



4-2. プレゼンテーション力が向上した理由または向上しなかった理由

1. 総合科学部

【向上した理由】

- ・ 回数を重ねた。
- ・ やり方さえ分からなかったから。
- ・ 機会があったから。
- ・ 英語の授業でプレゼンをする機会があった。
- ・ 授業で何度かプレゼンする機会があったから。
- ・ グループでプレゼンテーションを行う機会があったから。
- ・ 授業でプレゼンテーションをする機会があったから。
- ・ 授業を通して何度かプレゼンをする機会があったから。
- ・ 英語で発表する機会が何度かあったから。
- ・ 英語の授業でプレゼンする機会があった。
- ・ 複数のプレゼンテーションを行ったから。
- ・ 英語のプレゼンを経験したから。
- ・ 実際にプレゼンできたから。
- ・ プレゼンテーション。
- ・ 課題発見ゼミナールでプレゼンをする機会があったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 話すのが難しい。
- ・ いまいちプレゼンの具体的なやり方がわからない。
- ・ 高校の時の方がより高いレベルで学んでいた。
- ・ 1年生にしたことなので覚えていない。
- ・ 覚えていない。
- ・ 毎日しないから。

2. 医学部医学科

【向上した理由】

- ・ 一般教養の英語の講義でプレゼンする機会があったから。
- ・ 普段経験できないプレゼンの機会があるから。
- ・ 研究室配属などでプレゼンする機会が多くあったから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 発表する機会があったから。
- ・ 機会があったから。
- ・ プレゼンなら機会があったから。
- ・ 大学までの授業でプレゼンの経験が殆ど無かったから。
- ・ 機会が多々あったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 日頃実践する機会がない。
- ・ わざわざ授業でやらなくてもできることだから。
- ・ 向上を実感できなかった。
- ・ あまり機会がなかった。

3. 医学部医科栄養学科

【向上した理由】

- ・ 他人と共同して何かを行ったり、それを発表したりする機会が大学に入ってから多くなったから。

4. 医学部保健学科（看護）

【向上した理由】

- ・ 回数が多いから。
- ・ プレゼンテーションの回数が多かったから。
- ・ 授業で何回かしたから。
- ・ グループワーク授業が多いから。
- ・ グループワークの発表の機会が多いから。
- ・ いっぱい発表したから。
- ・ グループワークの結果をプレゼン。
- ・ 授業などで発表する機会が多いから。
- ・ グループでのプレゼン活動の機会が多いから。
- ・ 高齢者看護学概論のグループワークの結果をプレゼンする機会があったから。
- ・ 授業でさんざんしてきたから。
- ・ いくつかの講義で数名でプレゼンする機会があったため。

【向上しなかった理由】

- ・ 方法を忘れたから。
- ・ あまり実感がなから。
- ・ 元々、人前では緊張するから。
- ・ プレゼン自体は他メンバーがしてくれたから。

5. 医学部保健学科（放射）

【向上した理由】

- ・ グループ発表などで発表したから。
- ・ 適切な方法を学べたから。
- ・ 自分で作って発表する機会があったから。
- ・ 結果をプレゼンする機会があったから。
- ・ 一年次のプレゼンをする授業で積極的に取り組むことが出来たから。
- ・ プレゼンがあったため。
- ・ 協力してプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンテーションをする機会が何回かあったから。
- ・ スライドを用いて発表する機会があったため。
- ・ 実習の結果をプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンテーションの機会があったため。またそこで具体的に褒めてもらったので自信がついて堂々と発表できるようになった。
- ・ プレゼンの機会が多かったから。
- ・ なにかしら発表する機会があったから。
- ・ 発表する機会が多かったから。
- ・ 授業で発表する機会が多かったから。
- ・ PowerPointを用いた発表をする機会がたくさんあったため。
- ・ 自分以外の意見を取り入れながら考えることができたから。
- ・ 講義で発表する機会が数回あったから。
- ・ 実習でスライド発表をする機会があり、役割を分担し、協力する機会があったから。
- ・ プレゼンする機会が何度かあったから。
- ・ 電気電子工学などで前で発表することが多かった。
- ・ プレゼンする機会が多いから。

【向上しなかった理由】

- ・ プレゼンの機会があまりなかった。
- ・ プレゼンする機会があまりなかったから。
- ・ 共同発表をおこなうことがおこなかったから。
- ・ あまりプレゼンをする機会がなかったから。
- ・ 機会が少なかった。
- ・ プレゼンの機会が少なかった。

6. 医学部保健学科（検査）

【向上した理由】

- ・ 環境汚染についてプレゼンする機会があったから。
- ・ 学年が進むにつれて発表する機会が増えた、場数を踏んだから。

【向上しなかった理由】

- ・ 話すのが難しい。

7. 歯学部

【向上した理由】

- ・ プレゼンする機会があったため。
- ・ 実習時やサークル活動でプレゼン発表する機会があったから。
- ・ 組織学実習にて何度か発表の機会があったため。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 人前に出る機会があったから。
- ・ 班でプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンの機会が多かったから。
- ・ プレゼンを行う機会がたくさんあったから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 機会あり。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 高校までではプレゼンテーションをしたことがなく大学が初めてだった。
- ・ プレゼンをする機会が定期的にあったから。
- ・ 授業でプレゼンをした。
- ・ 発表する機会があったから。
- ・ 回数を重ねたから。
- ・ 機会。
- ・ プレゼンテーションをする機会が増えたから。
- ・ 何度かプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンする機会が増えたから。
- ・ プレゼンの機会が多いから。
- ・ プレゼンする機会が増えた。
- ・ プレゼンテーションをする機会が多かったから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンをする機会が増えたから。
- ・ パワーポイントなどを使って、プレゼンする機会がたくさんあったから。
- ・ 少人数なのでプレゼンをする機会が多いから。

【向上しなかった理由】

- ・ 機会がなかったから。
- ・ 機会が少なかったから。
- ・ その場しのぎのプレゼン。

8. 薬学部

【向上した理由】

- ・ 人前でのプレゼンが増えた。
- ・ 発表する経験を得れたから。
- ・ 作り方ややり方を学べた。
- ・ プレゼンした。
- ・ 発表がそこそこあったから。
- ・ 自分想像した薬のプレゼンがあったから。
- ・ プレゼンをする機会が多かったため。
- ・ 今までプレゼンするようなことがなかったから。
- ・ 高校まではそのような機会がなかったから。
- ・ 物理化学実習の時に自分の班で発表する機会があったから。
- ・ グループで発表。
- ・ 医歯薬合同ワークショップにてkj法でプレゼンを行った。
- ・ 医薬品の合成経路について調べ、教授や大学院生の前でプレゼンする機会があったから。
- ・ 発表する機会があったから。
- ・ プレゼンを通じて向上した。
- ・ 自分で調べたことをプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 実習では手順を話し合っただけで問題があった時に確認し合うことがあったから。
- ・ 英語でプレゼンする機会があった。
- ・ プレゼンを行う機会が何回もあったから。
- ・ 授業でプレゼンテーションを行う機会があったため。
- ・ 先輩のプレゼンを聞く機会があったから。
- ・ 授業でプレゼンする機会があったから。
- ・ 他の人のプレゼンを見れたから。
- ・ 実習で調べた内容を発表する場があった。
- ・ プレゼンをする機会を設けてくれたから。
- ・ グループでのプレゼンをする機会があったから。
- ・ プレゼン。
- ・ 班で調べて話し合ったことを模造紙にまとめて発表する機会があったため。
- ・ プレゼンの機会が増えたから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 大学1年生の時から複数人での発表があったため。

【向上しなかった理由】

- ・ 機会がなかった。
- ・ プレゼン。
- ・ あまりプレゼンをする機会がなかった
- ・ 機会が特になかった。
- ・ プレゼンしたからといってその力紙上がるわけではないから。
- ・ プレゼンの機会があまりなかったため。
- ・ 機会がなかったから。
- ・ 機会が少なかった。
- ・ なにもした記憶がない。
- ・ プレゼンテーションをする機会があまりなかったから。
- ・ 発表などを行っても、技術の向上には繋がらないから。
- ・ プレゼンする機会がなかった。
- ・ 覚えてないだけかもしれないけど自分自身で人前に立って説明する機会がなかったように思うから。
- ・ プレゼンテーションの機会がなかったから。
- ・ 作業としてこなしてしまったため。
- ・ プレゼンを行う機会が無いから。
- ・ プレゼンをする機会があまりなかった。
- ・ プレゼンの機会などなかった。
- ・ プレゼンを行う機会がなかった。
- ・ 機会がなかったから。
- ・ あまり行っていない。
- ・ やる気がなかったから。
- ・ あまり機会がなかったため。
- ・ プレゼンする機会があるにはあった。が、どう伝えれば効果的に相手に伝えられるのかあまりまだよく分かっていないから。
- ・ プレゼンに積極的に参加できなかったから。
- ・ もともとプレゼン力が高すぎた。

- ・ 班で不明点について話し合う機会があった。
- ・ プレゼンする機会がなかった。
- ・ 機会が無かった。
- ・ 機会がない。
- ・ プレゼンを行ってもやりっ放しであり、フィードバックを受けていないのでどの点がどう評価されているか分からないから。
- ・ なかったから。
- ・ プレゼンをする機会があまりなかったから。
- ・ プレゼンする機会が少なかったため。
- ・ プレゼンした記憶がないから。
- ・ プレゼンテーションする機会がなかった。
- ・ 実感していない。
- ・ プレゼンテーションは1年の頃にすることが多く、2年になってあまりしなくなったから。
- ・ 発表の機会があまりなかった気がするから。
- ・ あまり機会がなかったから。
- ・ 発表がほとんどなく、あったときもうまくできてたとは思えない。
- ・ あまりプレゼンする機会がなかったから。
- ・ プレゼンする機会があまりなかったから。
- ・ ほとんどプレゼンしなかったから。
- ・ 覚えていないから。
- ・ プレゼンする機会がなかった。
- ・ 特にプレゼンの機会がなかった。

9. 理工学部社会基盤デザインコース

【向上した理由】

- ・ レポート課題があるから。
- ・ レポートを書く回数が多い。
- ・ レポート課題がたくさんでたから。
- ・ 練習した。
- ・ 回数を重ねたから。
- ・ 沢山レポートを書いた。
- ・ 授業でレポートを書く機会が多かったから。
- ・ 機会が多いから。
- ・ レポートの提出がたくさんあったから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを課す科目があったため。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポートを提出する機会が多かったから。
- ・ レポートをこなすから。
- ・ 数をこなしたから。
- ・ 何が求められているのかを考えて記載する必要があるから。
- ・ レポートを書いたから。
- ・ レポートを多く書いたから。
- ・ レポートを書く機会が増えた。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業で毎週レポートがあったから。
- ・ レポートが多かった。
- ・ 実験や講義でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 実験などでレポートする機会が多くあるから。
- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ レポートを書く機会が多々あったから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポートを作成する機会が多かったから。
- ・ レポートが多かったから。
- ・ 実験レポートなどで何度も文章を考える機会があったから。
- ・ 実験が多くあったため。
- ・ プレゼンと同時平行で独学で本を読んでいたため。
- ・ レポートを書く課題が多いから。
- ・ 実験レポートを提出する機会が多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 数をこなしたから。
- ・ 数を踏んだから。
- ・ 実験レポートを書く機会が増えたから。
- ・ ほぼ毎週、実験レポートを書いていたため。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポート課題を課されることが多くなったため。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートを書く機会が多くあったから。
- ・ レポートの課題が出る度、レポートの書き方をググって実践したから。
- ・ レポート課題が出されることが多いから。
- ・ 先生にたくさん指導してもらったから。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 授業でレポート課題が出されるから。
- ・ レポートが多かった。
- ・ レポートを書く機会が増えたから。
- ・ レポート課題が多いため。
- ・ さまざまな授業でレポートを作る機会があった。
- ・ レポートを課される授業や実習などが多かったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 努力を怠ったから。
- ・ あまりレポート課題がない。

10. 理工学部機械科学コース

【向上した理由】

- ・ プログラミングなどでプレゼンの機会があったから。
- ・ 英語でプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンしたから。
- ・ プレゼンする機会が何度かあったため。
- ・ 英語のプレゼンなどがあったから。
- ・ 授業で行ったため。

【向上しなかった理由】

- ・ あまり回数が多くなかったから。
- ・ プレゼンはしていないから。

11. 理工学部応用化学システムコース

【向上した理由】

- ・ プレゼンをする機会があったから。
- ・ 発表の機会が多くあったから。
- ・ プレゼンする機会がたくさんあるから。
- ・ 様々な授業で発表する機会があった。
- ・ 化学実験の成果をプレゼンする機会があったから。
- ・ サークルや授業でプレゼンする機会があった。
- ・ 講義での発表の機会が多かったため。
- ・ なかなかない。
- ・ かがくじっけん。
- ・ 人前で話す機会が何度かあったから。
- ・ プレゼンをする機会が豊富にあったから。
- ・ 実験のプレゼンをする機会があったから。
- ・ プレゼンの機会があったから。
- ・ プレゼンをする機会が多かったから。
- ・ 実験結果を発表する機会があったから。
- ・ 実験で発表する機会があり場数を踏めたから。
- ・ ペアでの実験演習、成果のプレゼンの機会があったから。
- ・ 授業でやったから。
- ・ パワーポイントを用いての発表の機があったから。
- ・ 英語や実験のプレゼンをしたから。
- ・ 実験でプレゼンテーションする機会があったから。
- ・ 化学実験の成果をプレゼンする機会があったから。
- ・ 実験のプレゼンをする機会があったから。
- ・ 物理、化学実験のプレゼン機会があったから。
- ・ プレゼンを何回もしたから。
- ・ 1年のときから複数回に渡って授業でプレゼンの機会が用意されていたから。
- ・ 授業でプレゼンをする機会があったから。
- ・ プレゼンがいっぱいあるから。
- ・ 色々な講義でプレゼンをしたから。
- ・ 人との交流によりコミュニケーション能力が向上し、またプレゼンを実際に行うことにより経験を積んでいるから。
- ・ 様々な授業においてプレゼンする機会があったとき、力を試すことができたから。
- ・ 機会が多々あったから。
- ・ 発表機会が多かった。
- ・ いろんな場所でプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンをする機会があったから。
- ・ 自分で考えて発表する機会があったから。
- ・ プレゼンの方法についての解説があったため。
- ・ プレゼンをする機会が増えたから。
- ・ 実験を成果をプレゼンする機会があったから。
- ・ スライドを作りながら頭の中である程度発表の構成ができたから。
- ・ プレゼンする機会があった為。
- ・ プレゼンを行ったから。
- ・ 体験するとしないとでは大きく違うから。
- ・ プレゼンを何度か経験したから。
- ・ プレゼンを複数回重ねてきたから。
- ・ プレゼンに対しての評価や意見を自分で知ることができたから。
- ・ プレゼンの機会が何度かあったため。
- ・ 実験やその他授業でのプレゼンがあったから。
- ・ プレゼンの機会があったから。
- ・ プレゼンの機会が得られたから。
- ・ プレゼンを実際に行う機会があったから。
- ・ 実験の発表をする機会があったから。
- ・ プレゼン発表の機会が多かったから。
- ・ 実験のプレゼンがあったから。
- ・ プレゼン機会が増えたから。
- ・ 学生間で話し合い、プレゼンを見せ合ったりする機会があったから。
- ・ 発表に向けて試行錯誤したから。
- ・ 実験やstem演習で発表する機会があったから。

【向上しなかった理由】

- ・ レベルが低い。
- ・ 慣れていない。
- ・ 指導が少なかつたから。
- ・ プレゼンしたから。
- ・ もともと低くないため。
- ・ 苦手意識があるため。

12. 理工学部電気電子システムコース

【向上した理由】

- ・ 授業中にプレゼンの機会があったから。
- ・ 発表をする機会が多かったから。
- ・ プロジェクトマネジメントの講義で発表を行ったから。
- ・ 発表する機会が複数あったから。
- ・ 英語でのプレゼンをする機会が数回あったから。
- ・ プレゼンの機会があったから。
- ・ 何回かプレゼンをする機会があったから。
- ・ プレゼンの機会やグループワークの機会があったから。
- ・ 人と一緒にプレゼンする機会があったから。

13. 理工学部情報光システムコース

【向上した理由】

- ・ プレゼンをした。
- ・ プレゼンを行う授業をいくつも受けたから。
- ・ 色々な場所でプレゼンをする機会があったから。
- ・ マイクロソフト社等学内でなく学外でもプレゼンする機会があったから。
- ・ 経験回数が増えたため。
- ・ プレゼン機会が多くあったから。
- ・ プレゼンする機会を得て、慣れたから。
- ・ 実験の発表する機会があったから。
- ・ イノベーションプラザの活動で報告会等の発表の場を経験したから。
- ・ 自身の開発の内容などをプレゼンする機会があった。
- ・ 実験の成果をプレゼンする機会があったから。
- ・ 機会が多いとは思わなかったが、成果を発表することがあったから。
- ・ 様々な形態でプレゼンする機会があったから。
- ・ 発表する機会が多かったから。
- ・ 様々な授業でプレゼンする機会があったから。
- ・ 高校よりもたくさんプレゼンする機会があったから。
- ・ 人前で発表することに抵抗を感じにくくなったので自分の思うようにトークができるようになったから。
- ・ 授業でプレゼンをする機会があったため。

- ・ 発表の場がいくつかあったため。
- ・ プレゼンの機会が多かったから。
- ・ プレゼンを行う機会が増えたから。
- ・ プレゼンする際に緊張しなくなった。
- ・ 外部での発表の機会が多かったから。
- ・ 講義で何度かプレゼンする機会があったので。
- ・ プレゼンをする機会が増えたから。
- ・ 実験でプレゼンする機会があったから。
- ・ 様々なところでプレゼンを聞く機会があったため。
- ・ 実験結果を発表する機会があったから。
- ・ 複数の授業でプレゼンをする機会があった。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンの機会があったから。
- ・ 授業でよくやるから。
- ・ 基礎的なコツが身についたから。
- ・ 何回もプレゼンをしたから。
- ・ プレゼンをするが多かった。
- ・ 英語のプレゼンや実験のプレゼンをする機会があったから。
- ・ プレゼンの機会があった。
- ・ 自分の書いたプログラムについてのプレゼンをする機会があったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 特に前と変わらなかったから。
- ・ プレゼンの機会があっても実践とは程遠かったため。
- ・ 大学以前にもプレゼンテーションを行う機会はある程度あったため、大学に入ってから具体的にプレゼンスキルが上がったという実感はないから。
- ・ 実際にするようなプレゼンをする機会がなかったから。

- ・ 機会があった。
- ・ 授業内でプレゼンする機会が多かったから。
- ・ プレゼンについては機会が多いから。
- ・ いろんな授業でプレゼンをする機会があったから。
- ・ 単純な経験回数が増えるから。
- ・ プレゼンの機会があったから。
- ・ 実験等でプレゼン発表する機会があったから。
- ・ 機会があったから。
- ・ 複数回やる機会があったから。
- ・ 幾度か多人数の前でプレゼンする機会があったから。
- ・ その後プレゼンをする機会が増えたから。
- ・ 機会があった。
- ・ プレゼンの機会が多くあったから。
- ・ プレゼンの参加。
- ・ 講義中にプレゼンをする機会が多かったため。
- ・ プレゼンをする機会が多かったから。
- ・ サークル活動などで人前で話すことが多かったため。
- ・ システム実験の成果をプレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンテーションをする機会がそれまでに比べて増えたから。
- ・ プレゼンをする講義が多々あったから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンの機会があったため。

- ・ 自分自身で作ることが大切と考える。
- ・ プレゼンをする機会がそこまでなかったから。
- ・ ちゃんとした機会がなかった。
- ・ プレゼンする機会が少なかったから。
- ・ プレゼンの機会があったが向上は見られなかったから。

14. 理工学部応用理数コース

【向上した理由】

- ・ プレゼンする機会があった。
- ・ 人前に出る機会があったから。
- ・ ウェルネスでプレゼンする機会があったから。
- ・ 自分で考えながらやったから。
- ・ 研究室訪問して学んだことをプレゼン機会があったから。
- ・ 留学などを体験して人前で話すことに抵抗が少なくなった。
- ・ 授業でプレゼンする機会があった。
- ・ 発表を一人一人したから。
- ・ 英語でプレゼンする機会があったから。
- ・ 何回かプレゼンをおこなう機会があったから。
- ・ 以前より前で発表する機会が増え、どのようにすればうまく伝わるかを考えるようになったから。

【向上しなかった理由】

- ・ プレゼンしてないのでわからない。
- ・ 発表をしていない。
- ・ 機会が少ない。
- ・ 機会がないから。
- ・ 機会がなかった。

- ・ プレゼンする機会が増えた。
- ・ パワーポイントを作成しプレゼンする機会や、グループワークの時間が多くあったから。
- ・ 実際、プログラミングを自作し、発表する機会があった。
- ・ 授業で発表する機会がよくあるから。
- ・ 数をこなしたから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ プレゼンをする機会があったから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 実験系はプレゼンテーションの機会があるから。
- ・ プレゼンする機会があったから。
- ・ 受けた英語の授業のうち2つが、プレゼン形式で進んだから。

- ・ プレゼンする機会がなかった。
- ・ プレゼンをする機会がなかったから。
- ・ 実習の成果をプレゼンする機会があったが、質疑応答を他人に任せてしまった。
- ・ 発表回数が少なすぎて、成果が実感できなかったため。

15. 生物産業学部

【向上した理由】

- ・ レポート課題がたくさん出るから。
- ・ レポートが多いから。
- ・ 実習で書くときに理解しやすかった。
- ・ レポートが多いから。
- ・ レポート課題。
- ・ レポート課題の量がふえているから。

- ・ レポート課題が多い。
- ・ 課題で何度も書いたから。
- ・ レポート課題。
- ・ 実験レポートの課題が多かった。
- ・ 講義などでレポート課題を課される機会が多かったため。
- ・ レポート課題のある授業が多かったから。

- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題が多かったため。
- ・ レポートを何度も書いたから。
- ・ たくさん書いた。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 色々な授業で行なった。
- ・ 機会が増えたから。
- ・ レポート課題のある授業をたくさん受けているから。

【向上しなかった理由】

- ・ 難しい。
- ・ あまり機会がなかった。
- ・ 実感がない。
- ・ あまりまだプレゼンをしたことがないから。
- ・ あまり機会がなかった。
- ・ あまり機会がなかった。
- ・ あまりプレゼンをする機会がなかったから。

- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポート課題を出される機会が多いから。
- ・ レポートの書き方を学んだため。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題がたくさん授業で課されたから。
- ・ レポート課題を何度もした。
- ・ 課題でレポートをよくしていたから。

- ・ 小中高のほうが様々なプレゼンやグループワークが多かった。
- ・ 自信がない。
- ・ プレゼンする機会がなかったから。
- ・ プレゼンする機会があまりなかった。
- ・ あまり機会がなかった。
- ・ 高校の時の方がプレゼンの機会が多かったから。

4-3. プレゼンテーション力を向上させるための今後の取り組み

1. 総合科学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ これからも頑張っていきたいです。
- ・ 授業において積極的に時間をかけ取り組む。
- ・ 積極的に他人のプレゼンを見る。
- ・ プレゼンテーションを工夫する。
- ・ 英語を使ったプレゼンもできるようにする。
- ・ 授業やその他において積極的にプレゼンテーションを行う。
- ・ プレゼンの教育の場を設ける。
- ・ 要点をまとめる力を身につける。
- ・ 機会があれば積極的に参加する。
- ・ 発表する。
- ・ いろいろな人のプレゼンをよく見る。
- ・ パワポの作り方を学ぶ。
- ・ 積極的に知識を取り入れる。
- ・ 場数を多く経験する。
- ・ プレゼンに積極的に参加する。
- ・ 入念に準備する。
- ・ プレゼンに対して苦手意識を持たない。
- ・ 経験する。
- ・ 積極的に発表があるのをとる。

2. 医学部医学科

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 経験を積む。
- ・ 学術講演会に積極的に参加する。
- ・ 授業でやる必要はない。
- ・ 発表の場を与える。
- ・ 発表機会を増やす。
- ・ 色んなことに積極的に参加する。
- ・ 人のも参考にする。
- ・ 上手だとおもう人を参考にする。
- ・ 積極的にいろんな発表を行う。
- ・ 積極的に取り組む。
- ・ 毎回のプレゼンを頑張る。
- ・ 練習する。
- ・ 機会があれば検討したい。

3. 医学部医科栄養学科

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 他の人のプレゼンを見て学んだり、実際にプレゼンを行う際に分かりやすく伝えられるよう意識する。

4. 医学部保健学科（看護）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ やれることがあればやる。
- ・ 復習する。
- ・ 発表会などにも参加する。
- ・ 講演会を聴く。
- ・ 回数をこなす。
- ・ 慣れ。
- ・ より伝えようと意識する。
- ・ 上手い人の良い点をしっかり見ておく。
- ・ 積極的に自分の意見を述べられるようにする。
- ・ プレゼン発表の練習を積極的にする。
- ・ 今後も気になる講義に参加したい。
- ・ プレゼンの仕方を勉強する。
- ・ 他者発表をみる。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。

5. 医学部保健学科（放射）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 発表に積極的に参加する。
- ・ 研究室にて効率的に学んでいく。
- ・ 発表に積極的にさんかする。
- ・ 学術発表に参加する。
- ・ 学会、授業などで他者のプレゼンの違いを学ぶ。
- ・ プレゼンの機会があった際練習をよくする。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 学会等に積極的に参加し、他のプレゼンテーションを見聞きする。
- ・ 研究内容の発表。
- ・ 学会発表等に参加する。
- ・ 積極的に話し合いに参加する。
- ・ さらに多くのプレゼンの機会を増やす。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 卒業研究をしっかりとやる。
- ・ 論文紹介など自分の意見を他人に伝える機会を増やす。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 頑張る。
- ・ 例に同じ。
- ・ うまくプレゼンできている人を参考にする。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 上手い方の発表をみる。
- ・ 学会などに挑戦する。
- ・ 褒めてもらえるとうやる気につながりやすいと思う。だめな場合も具体的にもっとこうしたらよくなるなどがあれば力になると思う。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 色々な人の話をきく。
- ・ もっと少人数でのプレゼン発表をおこなう。
- ・ 授業で積極的に発表する。

- ・ 今後の卒業研究の発表に生かしたい。

6. 医学部保健学科（検査）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 論文を読む。
- ・ 人の発表を観察する。
- ・ tedなどを参考にする。

7. 歯学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 練習時に多くの人にプレゼンを見て、発表内容やスライドを評価してもらう。
- ・ 発表する機会を逃さない。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ 積極的に発表者を担当する。
- ・ 系統的なプレゼン作成の授業。
- ・ 積極的に研究を行い、成果を発表する。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ あれば参加。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 学んだことを生かせるように心掛ける。
- ・ 学会などで発表。
- ・ 頑張る。
- ・ クラスでの発表に積極的に活動する。
- ・ 参加。
- ・ 他の発表をみて学ぶ。
- ・ プレゼンテーションが上手な人をよく見て学ぶ。
- ・ 積極的にセミナーなど行ってみる。
- ・ 練習する。
- ・ 個人でのプレゼン、グループでのプレゼンをそれぞれ増やす。
- ・ 発表を聞く、行う。
- ・ 積極的に発表を行う。
- ・ 学術発表に参加する。
- ・ 他者の発表の良い点を取り入れる。
- ・ クラスメイトの発表などを踏まえてを改善していく。
- ・ いろんな人の発表のいいところを探し身につける。

8. 薬学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 色々調べる。
- ・ 色々参加する。
- ・ 発表の機会を増やす。
- ・ みんなのやり方ややり方を聞く。
- ・ 学会に行く。
- ・ 毎日の積み上げ。
- ・ 積極的に発表する
- ・ プレゼンが上手い人をよく観察する。
- ・ 予習復習する。
- ・ がんばる。
- ・ 学会に多く参加する。
- ・ 頑張る。
- ・ 様々な内容の発表をきく。
- ・ 発表に参加する。
- ・ 発表に積極的になる。
- ・ 積極的に取り組む。
- ・ プレゼンテーションを聞く、またはする機会を増やす。
- ・ グループワークを行う。
- ・ 発表の機会があれば積極的に参加する。
- ・ 発表などの際に積極的に参加する。
- ・ 積極的に人の前に立って説明する練習をする。
- ・ グループワーク。
- ・ プレゼンを行う。
- ・ 機会を多くする。
- ・ 発表の場を設ける。
- ・ 発表会を見に行く。
- ・ 色々な発表を聞き、上手い所を学ぶ。
- ・ 喋る。
- ・ 努力。
- ・ 講演会に参加する。
- ・ 学術発表会に参加する。
- ・ 学んだことを実験などに生かしたい。
- ・ 積極的にそのような場に参加する。
- ・ 機会があれば、他の人の発表などを見て参考にしたい。
- ・ 講演会に出席したり、自分から積極的に発表する。
- ・ 講演会などに参加してプレゼンを見て勉強する。
- ・ 積極的に行う。
- ・ 日々のレポートなどをがんばる。
- ・ 学会への参加する機会を増やす。
- ・ 講演を聞く。
- ・ 授業に集中する。
- ・ 話し合いの場で自分の意見をしっかりと告げる。
- ・ プレゼンに積極的に参加する。
- ・ 講演会に自主的に参加する。
- ・ 他人の発表を参考にする。
- ・ 機会を生かす。
- ・ プレゼンする機会を増やす。
- ・ 積極的に学習する。
- ・ 発表をみる。
- ・ 他者の発表を聴く機会を得る。
- ・ プレゼンをきく。
- ・ 自主学習。
- ・ 先輩方の発表などを見て学ぶ。
- ・ 上手い人のプレゼンをたくさん聞く。
- ・ プレゼンを行う。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 積極的に取り組む。
- ・ 分からないので教えてほしい。
- ・ 機会を大切にする。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ これから学年が上がるにつれて発表する機会は出てくると思うので普段の生活から分かりやすい話し方を意識する。
- ・ 症例サークルに参加する。
- ・ 学術等の発表で良さそうだと感じたところを把握する。
- ・ 講演会などに積極的に参加する。
- ・ 自分の考えをまとめる。
- ・ 講演会に参加する。
- ・ いつも通り過ごす。

- ・ 学術発表に参加する。
- ・ 講演会などに参加する。
- ・ 努力する。
- ・ 自主的な行動。
- ・ 発表会に積極的に参加する。
- ・ プレゼンを重ねる。
- ・ 緊張しないようにする。
- ・ プレゼンを積極的にする。
- ・ 機会があれば積極的に参加する。

9. 理工学部社会基盤デザインコース

【向上のための今後の取組】

- ・ 語彙力を上げる。
- ・ プレゼンテーションの機会があれば真剣に取り組む。
- ・ 毎日の勉強習慣の定着。
- ・ TOEIC の勉強。
- ・ 練習する。
- ・ より授業であるときに真剣に取り組む。
- ・ 本を読む。
- ・ TED を見る。
- ・ プレゼンの機会を増やす。
- ・ 経験をえる。
- ・ 機会を増やす。
- ・ 様々なプレゼンに参加する。
- ・ レポートの作成。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 発表する機会があるときに参加する。
- ・ 色々な方のプレゼンを参考にする。
- ・ プレゼンの機会があれば積極的に参加する。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ プレゼン等の場に出ていく。
- ・ 発表とかに真剣に取り組む。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 発表を積極的に行う。
- ・ 発表の機会がある授業をとる。
- ・ プレゼンの機会があれば積極的に発言する。
- ・ 発表する。
- ・ 今後も数をこなす。
- ・ 他人の発表から学習する。
- ・ プレゼンを聞く。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 英語の学習に努める。
- ・ 人との関わり。
- ・ 色々な人にコツなどを聞いて取り組む。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 授業を観察する。
- ・ 積極的に何事にも取り組む。
- ・ 発表会に参加し、他の人の発表を参考にする。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 積極的にプレゼンの練習をする。
- ・ 発表を積極的に行う。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ プレゼンに参加する。
- ・ 発表していく。
- ・ インターンなどへの参加。
- ・ 一回一回のプレゼンを大切にす。
- ・ 発表を積極的に行う。
- ・ プレゼンをする機会を作る。
- ・ 他の人からの指摘を受ける。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 上手な人のプレゼンをよく見る。
- ・ 先輩に聞く。
- ・ 発表する機会を増やす。
- ・ 学外かイノベにてプレゼンの経験を積む。
- ・ プレゼンをする機会を増やす。
- ・ 多くの経験を積む。
- ・ まよぶれ等への参加。
- ・ プレゼンを聞く機会があったら内容だけでなく発表の仕方を見ておく。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 講義を自学する。
- ・ プレゼンに参加する。
- ・ プレゼンの多い授業(工学英語など)を受ける。
- ・ もっと数をこなす。
- ・ 大学生として、勉強をする。
- ・ 大学以外の場所で、自分のことを知らない人を相手にプレゼンを積極的にする。
- ・ 発表の機会があれば積極的に参加する。
- ・ 卒論発表をより良いものにする。
- ・ 発表のコツかなんかを調べる。
- ・ 効果的なプレゼン方法等をしっかりと勉強する。
- ・ プレゼンの機会を積極的に求める。
- ・ 学術発表の知識をつける。
- ・ インプット同様にアウトプットする。
- ・ 発表の時間や目線などを意識する。
- ・ プレゼンを見る。
- ・ 他者のプレゼンテーションを参考にする。
- ・ パワーポイントの作成に取り組む。
- ・ 様々な人と交流する。
- ・ する機会が少ないので増やす。
- ・ 研究室配属後に学会に多く出る。
- ・ 緊張感ある発表をする。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ グループワークのような講義に積極的に参加する。
- ・ 自分からどうすれば上手く発表できるかを考えて話す。
- ・ グループワークでの発信をもっと積極的に行う。
- ・ 他の方の良いところを参考にす。

10. 理工学部機械科学コース

【向上のための今後の取組み】

- ・ 積極的に参加する。
- ・ インターンに参加する。
- ・ 練習をこなす。
- ・ すずんでプレゼンする。
- ・ 他人のプレゼンテーションの良いところを学ぶ。
- ・ 発表に参加する。
- ・ 他の講義でなんとかする。
- ・ 積極的にプレゼンに関わる。

11. 理工学部応用化学システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 意見を通しての課題解決。
- ・ 多くの発表を見る。
- ・ 学術発表に積極的に取り組む。
- ・ 研究発表会のようなものを意識する。
- ・ 積極的に発表していく。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ プレゼンの機会を増やす。
- ・ プレゼンを行う回数を増やす。
- ・ 要点をまとめたスライド作りを心がける。
- ・ 専門分野についてもっと調べる。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 学術。
- ・ 質問をたくさんする。
- ・ 発表会に参加する。
- ・ プレゼンをもっとする。
- ・ 発表の機会を積極的に作る。
- ・ プレゼンを頑張る。
- ・ 教授らの発表を見る。
- ・ 講話の機会を増やす。
- ・ 探究心を持って取り組む。
- ・ 意見を積極的に発信する。
- ・ 他人の発表をもっと積極的に聞く。
- ・ 学術発表への参加。
- ・ 練習する。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ 教授のプレゼンを聴く。
- ・ 文書などを読み、スキル向上に役立てる。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 他人の発表を見て技術を学ぶ。
- ・ レポートやプレゼンの指導を参考にする。
- ・ 質を毎回高める。
- ・ 例え小さなイベントでも発表するようなことがあるなら参加してプレゼン力を磨く。
- ・ プレゼンする機会を増やす。
- ・ 何回も経験する。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 発表準備を怠らない。
- ・ 積極的な学びを心がける。
- ・ プレゼン講習などに参加する。
- ・ 本物の学術論文の発表を見る。
- ・ レポートを真剣に書く。
- ・ プレゼンの練習をする。
- ・ 発表を積極的に行う。
- ・ プレゼンを聞く機会を増やす。
- ・ いろんなところでプレゼンを行う。
- ・ 聞き手が理解しやすいように工夫する。
- ・ もっと多く発表の場に参加したい。
- ・ 発表機会を多くする。
- ・ インターンシップに参加する。
- ・ 伝わりやすい方法を考える。
- ・ 自分に足りない技術を自覚する。
- ・ 発表のある講義に積極的に参加すること。
- ・ 他の人のプレゼンも注意して見る。
- ・ プレゼンを行う授業に意欲的に取り組む。
- ・ 他者からの評価を参考にして、プレゼンのスキルを向上させる。
- ・ プレゼンから改善点を見つけて次に生かす。
- ・ 積極的に活動する。
- ・ 準備をしっかりする。
- ・ 積極的にプレゼンに参加する。
- ・ グループでの発表などにも積極的に参加する。
- ・ 自主学習。
- ・ 学術発表に参加。
- ・ 学会発表に参加する。
- ・ 発表のための準備を予行などして取り組む。
- ・ プレゼンできる機会があれば、積極的に参加する。
- ・ 悪い所を見つける。

12. 理工学部電気電子システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ スライド作成技術を向上させる。
- ・ 課題をしっかりこなす。
- ・ 人前に出る機会を活かす。
- ・ 発表の機会をふやす。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ 本を読み知識を広げる。
- ・ 場数をこなす。
- ・ 人との集まりにもっと積極的に参加する。
- ・ もっと推敲することに力を注ぐ。

13. 理工学部情報光システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 発表をする。
- ・ 様々な発表を見る。
- ・ 様々な人の前で発表する。
- ・ 積極的にイベント等に参加。
- ・ 自分で調べ、学ぶことを増やす。
- ・ 研究を頑張る。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 論文発表に参加する。
- ・ 研究室の勉強会に真摯に取り組む。
- ・ 興味のある分野は自主的に取り組む。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ とにかく学習時間を増やす。
- ・ わかりやすく伝えられるように意識する。
- ・ 発表の回数を増やす。
- ・ 発表を聞く。
- ・ 授業のプレゼンで工夫をする。
- ・ 積極的に発言をしていく。
- ・ 英語でのプレゼンのための勉強、練習。
- ・ 他人のプレゼンの良い点を探し、吸収する。
- ・ プレゼンの経験を増やす。
- ・ プレゼンする機会を増やす。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 興味あることは調べていく。
- ・ 多様な人々との積極的な交流。
- ・ 上手な人の取り組みを学ぶ。
- ・ 指導を受ける。
- ・ プレゼンの機会を増やす。
- ・ 日常的にプレゼンを意識して練習する。

- ・ 論文発表などに向けての効果的な発表方を学ぶこと。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 学術発表に積極的に参加する。
- ・ 英語のプレゼン映像を観る。
- ・ 上手い人の構成を真似する。
- ・ プレゼンをする機会をより実践的なものにする。
- ・ 自主的に教授に質問に行く。
- ・ うまい人の発表の仕方や構成を参考にする。
- ・ いろいろ調べる。
- ・ プレゼンの機会を増やす。
- ・ 論文発表を聞く。
- ・ オーディエンスに目を向ける。
- ・ 積極的にプレゼンをする。
- ・ 発表の機会があれば参加する。
- ・ 厳密に”アカデミックな発表”というものをした覚えがないためそういった発表に慣れていきたい。
- ・ 発表会に積極的に参加する。
- ・ プレゼンができる機会のある場所に積極的に参加する。
- ・ 良いプレゼンを聞く。
- ・ 何回かプレゼンを行う。
- ・ 国際発表など色々参加したい。
- ・ 積極的に発表していく。
- ・ たくさん人前で発表する。
- ・ もっと練習する。
- ・ 研究室の発表に積極的に参加する。
- ・ 発表会に参加する。
- ・ 学術発表には積極的に参加する。
- ・ 良いプレゼンをする人を見て学ぶ。
- ・ プログラミング言語の学習。
- ・ 発表に力を入れる。
- ・ 機会の増加。
- ・ 学会発表などに積極的に参加する。
- ・ 練習する。
- ・ 練習する。
- ・ プレゼンする機会があれば十分な準備を欠かさない。
- ・ 発表に積極的に参加する。
- ・ 発表に参加する。
- ・ 積極的に学ぶ。
- ・ 学びを深く。
- ・ プレゼンテーションの機会を増やす。
- ・ 研究室での発表に積極的に参加する。
- ・ 人の発表を見聞きして自分なりにそれを取り込む。

14. 理工学部応用理数コース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 機会があればプレゼンに参加する。
- ・ 自信を持ってハキハキと。
- ・ わかりやすい説明の仕方を学ぶ。
- ・ もっと機会を増やす。
- ・ 積極的にプレゼンする人～？の時に手をあげる。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ 専門的な学習を深める。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ プレゼンに積極的に参加する。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ 機会を作る。
- ・ 沢山の本を読みたい。
- ・ 積極的にプレゼンをおこなう。
- ・ 発表する機会があれば積極的に手をあげる。
- ・ プレゼンする機会を増やす。
- ・ 他人の発表を積極的に見ていい所を学ぶ。
- ・ 発表の機会があればしてみる。
- ・ 発表できる機会を無駄にしない。
- ・ 自分の意見を持って授業を受ける。
- ・ プレゼンする機会を見つける。
- ・ 積極的に発表する。
- ・ 人の前で話す機会を多くもつ。
- ・ 学術発表に参加する。
- ・ 学術論文を読む。
- ・ 悩んだら率先して行動する。
- ・ 先生方の学会発表などから真似できるところを取り入れていく。
- ・ 学術発表会に参加する。
- ・ 発表の経験を積む。
- ・ 英語での発表には慣れたが、逆に日本語だと緊張してしまうので、日本語での発表機会をもっととる。

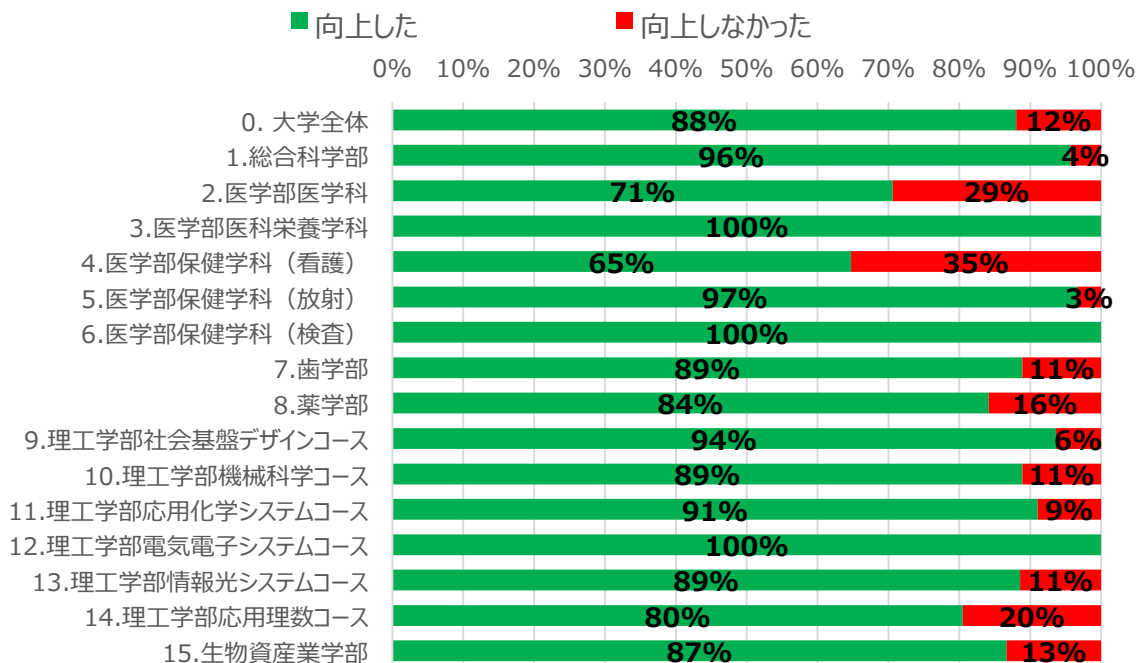
15. 生物資産業学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 積極的に取り組む。
- ・ 論文を読む。
- ・ 積極的な参加。
- ・ 日本語力を高めたい。
- ・ 実験のプレゼン。
- ・ 積極的に取り組む。
- ・ プレゼンをする機会があれば積極的に参加する。
- ・ 工夫して発表する。
- ・ 論文をみってみる。
- ・ 学会を見に行く。
- ・ 発表前に友達とリハーサルをする。
- ・ 繰り返しプレゼンを行う。
- ・ 課外活動に参加する。
- ・ 様々なことに積極的に参加する。
- ・ 自分の意見を伝えることを意識する。
- ・ プレゼン発表会に参加する。
- ・ 自分で答えを導いていく。
- ・ プレゼン資料を工夫してつくる。
- ・ もっと積極的に行う。
- ・ 構成を考えて当てはめていく。
- ・ 自分で調べる。
- ・ 意識高い人に影響を受けていきたい。
- ・ プレゼンの場を作る。
- ・ 教授の講義を通して。
- ・ プレゼンを繰り返し行う。
- ・ プレゼンの体験を積み上げる。
- ・ プレゼンに慣れる。
- ・ 発表に参加する。
- ・ 積極的に学術発表に参加する。
- ・ プレゼンに関する本を読む。
- ・ 何気ない発表にも力を入れること。
- ・ 積極的に取り組む。
- ・ は発表場に多く立つようにする。
- ・ 積極的に発表やプレゼンに取り組む。
- ・ 何度もする。
- ・ 積極的に発表の機会を作る。
- ・ 他人の発表をよく聞く。
- ・ プレゼンの機会を増やす。

- ・ 人前でしゃべる機会を増やす。
- ・ 人に伝わりやすく話せるためにする。
- ・ グループワークで積極的に発言する。
- ・ 準備、練習をしっかりとこなす。

5-1. 文章レポートを書く力について



5-2. 文章レポートを書く力が向上した理由または向上しなかった理由

1. 総合科学部

【向上した理由】

- ・ 回数を重ねた。
- ・ 多くの授業で出されたから。
- ・ 機会が多かったから。
- ・ 回数を重ねたから。
- ・ 授業で出されたレポート課題に多く取り組んだから。
- ・ 書く機会が非常に多くなったから。
- ・ たくさん書いた。
- ・ 試験でレポートを課される授業が多かったから。
- ・ 授業のレポート課題があったから。
- ・ 期末レポート。
- ・ レポート書く機会が増えた。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ いろいろなレポートを書いたから。
- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ 授業の課題でよく出されるため。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポートが多くあったから。
- ・ レポート課題がある講義が多い。
- ・ 多くのレポートを書いたから。

【向上しなかった理由】

- ・ レポートを書く機会が多いが締め切り間近に急いであることが多いから。

2. 医学部医学科

【向上した理由】

- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポートを定期的に出しているから。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ レポートを書く経験を沢山積んだため。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 機会が多いから。
- ・ レポートの書き方を教えてもらう機会があったから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポート提出を通して。
- ・ レポート課題をこなしたから。
- ・ レポートを課す授業があるから。

【向上しなかった理由】

- ・ 元が苦手すぎるので。
- ・ わざわざ授業でやらなくてもできることだから。

3. 医学部医科栄養学科

【向上した理由】

- ・ レポートなど論理的に書かなければならない文章を書く機会が多くなり、

4. 医学部保健学科（看護）

【向上した理由】

- ・ 回数が多い。
- ・ レポートを書く回数が多かったから。
- ・ レポートおおいから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートをたくさん書くから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポート課題をこなしていくうちに書きかたが分かってきたから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業でレポート課題がよく課されるから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ 書くという経験。

【向上しなかった理由】

- ・ レポートが難しく途中で何を書いているかわからなくなる。
- ・ 適当に出している。
- ・ 同じ内容のレポートが多い。
- ・ レポートの終わりにすすむにつれて、自分で何が書きたかったのかわからなくなるときがあるため。
- ・ その日の気分でムラがある。

5. 医学部保健学科（放射）

【向上した理由】

- ・ レポート必須授業が多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業においてレポートを課される機会が多かったから。
- ・ レポートの機会が多かった。
- ・ レポートが多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業でレポート課題を出される機会が多いから。
- ・ 授業でレポートを書く機会が多いから。
- ・ 実験等でレポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを書く機会が多いため。
- ・ 課題でレポートを書く機会が多数あったため。
- ・ レポートが多かったから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポートをかなり書いたから。
- ・ レポートの書き方を教えてくれたから。
- ・ レポートが多かったから。
- ・ 授業でレポートが多かったから。
- ・ レポートを提出する機会が多かったため。
- ・ レポート提出機会が多かったから。
- ・ レポートを書くことが多いから。
- ・ 機会が多かったから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 例に同じ。
- ・ 講義でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 実習のレポートの添削をしてもらったから。
- ・ レポート提出の機会が何度かあったから。
- ・ レポートの書き方などいろいろ教わったから。
- ・ 授業でレポートを書くことが多いから。
- ・ レポートをこなしたから。

【向上しなかった理由】

- ・ レポートはあまりなかった。

6. 医学部保健学科（検査）

【向上した理由】

- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ 授業でよくレポートを出されるから。

7. 歯学部

【向上した理由】

- ・ レポート課題が多く課されていたから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポートは書く機会がかなり多いため。
- ・ レポート課題を提出する機会があったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートをよく書いたから。
- ・ レポートの書き方講座を受けたから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。

- ・ 実習でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 多いから。
- ・ 授業でレポート課題をたくさん出されたから。
- ・ レポート課題をたくさんしたから。
- ・ 機会あり。
- ・ レポートを出される機会が多いから。
- ・ 授業でレポートを書く機会が多かったから。
- ・ 授業でレポート課題が多いから。
- ・ 講義で学んだことは知らないが多かったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 機会がない。

- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 課題。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題が多くあるから。
- ・ 課題で書いたから。
- ・ レポートの機会が多いから。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ レポート課題を出される機会が多いから。
- ・ レポート課題が多いから。

- ・ 文章力がないから。

8. 薬学部

【向上した理由】

- ・ レポートが多かった。
- ・ レポートの課題で書き方が分かったから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポートが多い。
- ・ レポートが出されるから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポートを書く機会が多かった。
- ・ レポート多過ぎ。
- ・ レポートの課題が非常に多かったため。
- ・ 授業でレポート課題が出るから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポートを書くことが多いから。
- ・ レポートが多かった。
- ・ レポートが多い。
- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ レポートを多く。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ 2年生になってから実習で毎日のようにレポートを書いているから。
- ・ 本を読むようになったから。
- ・ レポートを書いた。
- ・ レポートを書くとき、どう書いたら伝わりやすいか考えた。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ レポートばかりだから。
- ・ レポートがたくさんあったから。
- ・ 実習をまとめるレポートを多く書いたため。
- ・ レポートの機会が多いから。
- ・ 実習レポートを何十枚も書いたから。
- ・ 実習ごとにレポートの提出があったから。
- ・ 実習で多くのレポートを書いたから。
- ・ 授業、実習でレポートを書く機会が多かったため。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。

【向上しなかった理由】

- ・ まだやっていないから。
- ・ 実習に対して興味がなかったから。
- ・ 毎回おなじようなことを書いているから。
- ・ レポートを色々書いたが、何が良くて何が悪いかの判断ができないから。
- ・ レポート課題の点が低いから。
- ・ 実感していない。
- ・ レポートがうまくかけてるかわからない。
- ・ そういう課題をしなかったから。

- ・ 実習でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 実習レポートを書く機会が多かったから。
- ・ たくさん課題をこなしたため。
- ・ 実習レポートが多かったため。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 毎回レポートがあるため。
- ・ 実習毎にレポート等を書く機会があったから。
- ・ レポート。
- ・ レポート課題を提出する機会が多いため。
- ・ 実習のレポートをたくさん書いたから。
- ・ 多くのレポートを書いたから。
- ・ 多くのレポートを書いてきたから。
- ・ レポート課題が多い。
- ・ レポートが多いから。
- ・ たくさんレポートを書く機会があったため。
- ・ 実習や期末レポートなどで書く機会が多かったから。
- ・ 数多くの実習レポートを書く機会があったから。
- ・ 実習レポートを多く課されたから。
- ・ レポート課題が出される機会が多かったから。
- ・ レポートを何枚も書く機会があったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートをたくさんしたから。
- ・ レポート書く機会が多かったから。
- ・ 実習のレポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを提出する機会が沢山あったため。
- ・ 授業で出したから。
- ・ レポートを書く機会があるから。
- ・ レポート課題が多いため。
- ・ レポートが多いから。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを出す機会が多かったから。
- ・ レポートの提出が必要だったから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ 膨大な量のレポートを課されるから。

- ・ レポートがめんどくさい。
- ・ やりっ放しでフィードバックを受けていないのでどの点がどう評価されているか分からないから。
- ・ レポート課題を出される機会はかなり多かったが、何をどう書けば伝わりやすいのかよく分からないままだったから
- ・ もともと書く力が高すぎた。
- ・ レポート課題は取り組んだものの、明確な書き方の指導がされたわけでもなく、正しい書き方は修得できていないと思う。

9. 理工学部社会基盤デザインコース

【向上した理由】

- ・ レポート課題があるから。
- ・ 論理的思考が身に付いたから。
- ・ レポートを書く回数が多い。
- ・ レポート課題がたくさんでたから。
- ・ 練習した。
- ・ 回数を重ねたから。
- ・ 沢山レポートを書いた。
- ・ 授業でレポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートなどで読み手が読んで分かる文章を心掛けた。
- ・ 何度も再提出を指示された。
- ・ 機会が多いから。
- ・ レポートの提出がたくさんあったから。
- ・ レポート課題があったから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポート提出の機会が多かったから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを課す科目があったため。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポートを書かされる機会が多いから。
- ・ レポートをまとめる機会があったから。
- ・ レポートを提出する機会が多かったから。
- ・ レポートについて細かく指摘してくれたから。
- ・ レポートをこなすから。
- ・ 数をこなしたから。
- ・ 何が求められているのかを考えて記載する必要があるから。
- ・ レポートを書いたから。
- ・ たくさん添削してもらえたから。
- ・ レポートを多く書いたから。
- ・ レポートを書く機会が増えた。
- ・ レポートを書くから。
- ・ 機会が多かったから。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業で毎週レポートがあったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートが多かった。
- ・ 実験や講義でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 実験などでレポートする機会が多あるから。
- ・ 実験レポートなどで何度も文章を考える機会があったから。
- ・ 実験が多くあったため。
- ・ プレゼンと同時平行で独学で本を読んでいたため。
- ・ レポートを書く課題が多いから。
- ・ いろいろな種類のレポートを作成したから。
- ・ 実験レポートを提出する機会が多いから。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 機会が多いから。
- ・ 実験内容や仕様書が難しい。
- ・ レポートいっぱい出たから。
- ・ レポートの書き方について厳しめの先生が多いため。
- ・ 数をこなしたから。
- ・ 数を踏んだから。
- ・ 実験レポートを書く機会が増えたから。
- ・ ほぼ毎週、実験レポートを書いていたため。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 幾らかの機会があったため少しは向上したかなと。
- ・ レポート課題を課されることが多くなったため。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートの課題が出る度、レポートの書き方をググって実践したから。
- ・ レポート課題が出されることが多いから。
- ・ 先生にたくさん指導してもらったから。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 授業でレポート課題が出されるから。
- ・ 授業でレポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートが多かった。
- ・ 実験レポートをたくさん書いたから。
- ・ レポートを書く機会が増えたから。
- ・ レポート課題が多いため。
- ・ さまざまな授業でレポートを作る機会があった。
- ・ レポート課題は嫌という程あったから。
- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ 回数をこなしたから。
- ・ レポート課題の機会が増えたから。
- ・ レポートを課される授業や実習などが多かったため。
- ・ 毎年実験がありレポートの提出があったため。
- ・ レポート課題が頻繁にあったから。
- ・ 全ての実験においてレポートを作成した。
- ・ レポートを書く機会が多々あったから。
- ・ レポート課題が多かった。
- ・ レポートを作成する機会が多かったから。
- ・ 色々指摘があったから。
- ・ レポートが多かったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 努力を怠ったから。
- ・ 文章を深く考えなかったから。
- ・ 返却されなかったから。
- ・ あまりレポート課題がない。
- ・ レポートに何を書いていいかわからなかった。

10. 理工学部機械科学コース

【向上した理由】

- ・ 書く機会がおおかったから。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ レポートを何回も書かされたから。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ レポート課題の指導が多いから。
- ・ 実験レポートなどを多く書いたから。
- ・ 授業で求められるため。

【向上しなかった理由】

- ・ 改善点多すぎるから。

11. 理工学部応用化学システムコース

【向上した理由】

- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ 書き方を学べたから。
- ・ レポートを書く機会が増えたから。
- ・ 個人的にはもっと指導がほしい。
- ・ レポートめっちゃくちゃ書いたもん。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題などで。
- ・ レポート課題の数をこなしたため。
- ・ レポートがあったから。
- ・ なかなかない機会。
- ・ レポート。
- ・ 書き方を学ぶことが多かったから。
- ・ レポートを書く機会があり、書き方を学ぶことが出来た。
- ・ 実感できた。
- ・ 実験レポート提出の機会が多いから。
- ・ 例と同じ。
- ・ 沢山レポートを書いたから。
- ・ レポート課題が出される機会が多かったから。
- ・ レポート課題。
- ・ いっぱいレポートを書いたから。
- ・ レポート課題の機会が多く、教員から詳しい指示があったから。
- ・ 授業でやったから。
- ・ レポートの課題が多くあったから。
- ・ レポートが多かったから。
- ・ 課題でレポートをする機会が多くあったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題を行う機会がよくあるから。
- ・ レポートが多いから。
- ・ レポートがたくさん出るから。
- ・ レポートを実際にすることにより。
- ・ 1年のときから数々の授業でレポート課題が出されているため。
- ・ レポート課題が出される機会が多かったから。
- ・ レポート多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題に取り組む機会が多かったから。
- ・ レポートを提出する機会が多々あったから。
- ・ 実験などで繰り返しレポートを書いたから。
- ・ レポート課題があるから。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 機会が増えた。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題が度々出されたため。
- ・ 習慣になっていたから。
- ・ 何度か授業で経験したから。
- ・ レポート課題が多くなってきたから。
- ・ 実際にレポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポート課題を書く機会が何度かあったため。
- ・ 実験レポートを書くことが多かったから。
- ・ レポート課題が多くあったから。
- ・ レポートを書く機会があるため。
- ・ レポートを書く機会おおかつたから。
- ・ レポートの書き方を学ぶことができたから。
- ・ 授業でのレポートを通して書き方を学んだ。
- ・ たくさん書いたから。
- ・ レポートを書く機会があったから。
- ・ レポートの機会が増えたから。
- ・ 課題としてレポート提出を行うから。
- ・ 毎回アドバイスもらったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 書き方をいまいち理解していない。
- ・ レポート課題に真剣に取り組まなかったから。
- ・ レポートが返却されず自分にとってどこが不十分かが不明瞭だから。
- ・ 元々のスキルがある程度高いため。
- ・ まだまだ分からない点が多くあると感じたから。
- ・ あんまり関係ないと思ったから。

12. 理工学部電気電子システムコース

【向上した理由】

- ・ 実験等で多くのレポートを作成したから。
- ・ 実験のレポートを書いたから。
- ・ 実験レポートを2年後期書き続けたから。
- ・ 実験レポート。
- ・ たくさんレポートを書く機会があったから。
- ・ 機会が多いから。
- ・ 実験レポートを通じて向上した。
- ・ レポートは多い。
- ・ 何度もレポート課題を出したから。

13. 理工学部情報光システムコース

【向上した理由】

- ・ レポート課題をした。
- ・ 知識が増えたから。
- ・ 課題でレポートをやることが多かったから。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ 経験回数が増えたため。
- ・ 書くことが多かったから。
- ・ 機会が多いため。
- ・ レポート課題に真面目に取り組んだから。
- ・ 自分の言葉でまとめるレポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題を沢山こなしたから。
- ・ レポート課題を提出する機会が増えたから。
- ・ レポート課題をする機会が多かった。
- ・ レポートを作ることが多かった。
- ・ レポート課題が課される度に熟考して取り組んだため。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 授業レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 各講義でレポートの書き方指導があったから。
- ・ レポートが多いから。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いため。
- ・ レポート。

- ・ 毎週レポートを提出するので。
- ・ 授業や外部での書類作りを多く行ったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題を提出する機会が増えたから。
- ・ 毎週、実験でレポートを提出する時期があったから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 授業でレポートが出される機会が多いから。
- ・ 実験で定期的にレポートを書くから。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 課題のレポートが多いから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ 何回もレポートを書いたから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 無駄な記述を省いて結果だけを明確に示すことが昔よりできてきている気がする。
- ・ レポート課題が多いから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポートを書く機会が多いため。
- ・ レポートの書き方は練習できた。
- ・ レポート提出がおおかったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 他コースと比較して書く力問われる事が非常に少なかった。
- ・ 苦手は苦手だから。
- ・ レポートを出す機会が少なかった。
- ・ 文章レポートを書く機会が少なかったから。

- ・ レポート提出する機会が多かったから。
- ・ レポートの機会が多いから。
- ・ レポートを毎回出される授業があったから。
- ・ 研究室の毎回のレポートで先輩にチェックをしてもらえたから。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。
- ・ 機会があったから。
- ・ 授業でレポート課題が多いから。
- ・ ほぼ毎回レポート課題が出されたから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポートがあるから。
- ・ レポートを書く機会があるから。
- ・ レポートの量。
- ・ レポート課題が出されることが多かったため。
- ・ レポートを作成する機会が多かったから。
- ・ 授業でレポート課題が出されるから。
- ・ 授業でレポート提出の機会が多かったから。
- ・ レポート提出の機会が多かったため。
- ・ 授業でレポートを課される機会が多いから。
- ・ レポート課題が出される回数が多いから。
- ・ レポートを書く機会が多かった。

- ・ 授業でレポートを書いたが苦手意識が取れなかったから。
- ・ レポートが少ないから。
- ・ 文章レポートを書く機会がない。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が少ないから。

14. 理工学部応用理数コース

【向上した理由】

- ・ 文章レポートをたくさん書いた。
- ・ たくさんのレポートをしてきたから。
- ・ 毎回レポートばかりだから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ 授業終わりのレポートがあったから。
- ・ 回数が多いから。
- ・ レポート課題を書く機会が多くなった。
- ・ レポート点が上がった。
- ・ レポート課題があったから。
- ・ レポート課題で点数取れた。
- ・ 授業のレポートで書いたから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多かったから。
- ・ レポート課題が出される機会が多いから。

- ・ レポートを書く機会が増えた。
- ・ レポート提出が多かった(説明などの)。
- ・ レポートだらけ。
- ・ 毎回の授業でレポート課題があったから。
- ・ いかに簡潔にまとめるかを考えたから。
- ・ 毎回レポートがあるため。
- ・ レポートの機会が多いから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 授業でレポートを出す機会が多いため。
- ・ レポートで課題が多い。
- ・ レポート課題があったから。
- ・ 2年次まではレポートが多かったので、また、力学の授業のレポートでは自分の考えをまとめる訓練になったと思います。

【向上しなかった理由】

- ・ レポート課題がないから。
- ・ 機会が少ない。
- ・ 文章レポートを書く機会が少ないため判定出来ない。

- ・ 未だにどういう表現で書けば良いか分からなくなる。
- ・ 実験でレポート課題を出される機会が多かったが、あまり精練されたように感じられなかったため。

15. 生物産業学部

【向上した理由】

- ・ レポートが多いから。
- ・ 実習で書くときに理解しやすかった。
- ・ レポートがおおいから。
- ・ レポート課題。
- ・ レポート課題の量がふえているから。
- ・ レポート課題が多いため。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 実験レポートが多い。
- ・ 短い考えのものを膨らませることができるようになったから。

- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題が多い。
- ・ レポートをたくさん書いたから。
- ・ 課題で何度も書いたから。
- ・ レポート課題。
- ・ 実験レポートの課題が多かった。
- ・ 講義などでレポート課題を課される機会が多かったため。
- ・ レポート課題のある授業が多かったから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポートを書く機会が多いから。

- ・ レポート課題が多かったため。
- ・ レポートを何度も書いたから。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多かった。
- ・ レポート課題が多い。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ レポートを書く機会が多かったから。
- ・ 機会が多かった。
- ・ たくさん書いた。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ 色々な授業で行なった。

【向上しなかった理由】

- ・ 難しかった。
- ・ 難しい。
- ・ 最近、書き方を知ったため。
- ・ 採点されても返ってこないから。フィードバックがない。

- ・ レポート課題を出される機会が多いから。
- ・ レポートの書き方を学んだため。
- ・ 授業でレポート課題が出される機会が多いから。
- ・ レポート課題がたくさん授業で課されたから。
- ・ レポート課題を何度もした。
- ・ 課題でレポートをよくしていたから。
- ・ 機会が増えたから。
- ・ レポート課題が多かったから。
- ・ レポート課題のある授業をたくさん受けているから。
- ・ レポート課題がたくさん出るから。

- ・ 最近、書き方を知ったため。
- ・ 採点されても返ってこないから。フィードバックがない。
- ・ もともと苦手だから。

5-3. 文章レポートを書く力を向上させるための今後の取り組み

1. 総合科学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 回数を重ねる。
- ・ 多くの本を読み知識を広げたい。
- ・ 誰にでもわかる文章を書くよう心がける。
- ・ もう少し余裕を持って課題に取り組みたい。
- ・ 論文をもっと読む。
- ・ 多くの文献を読み知識を蓄える。
- ・ 本を読む。
- ・ レポートの内容についてよく調べたり、準備をしたりする。
- ・ レポートをできるだけ書く。

- ・ 自身のレポートについてフィードバックを得る。
- ・ レポートのどこが悪いかなどを指導して欲しい。
- ・ 調べたり聞いたりしてかきたかたをまなぶ。
- ・ 本を読んで語彙を増やす。
- ・ レポート書いたら見直したい。
- ・ 読みやすい書き方を意識する。
- ・ レポートをかけるように知識を身につける。
- ・ 書き方を工夫して、練習してみる。
- ・ 書き方を見直す。
- ・ レポートを書く。

2. 医学部医学科

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 経験を積む。
- ・ レポート点を導入する。
- ・ 授業でやる必要はない。
- ・ 自分で調べる。
- ・ もっと教授の指導を受ける。
- ・ これからも色々なレポートを読んだら書いたりする。
- ・ 論文なども参考にする。

- ・ 数をこなす。
- ・ レポートの書き方に今後も注意する。
- ・ 真面目にする。
- ・ 毎回のレポートを頑張る。
- ・ 書き方を調べて実践する。
- ・ 他者のものを参考にする。

3. 医学部医科栄養学科

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 様々な論文を読む。

4. 医学部保健学科（看護）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 本などで学習。
- ・ 系統的に書く。
- ・ 論文などに目を通す。
- ・ レポートの書き方を最初に詳しく教える。
- ・ 回数をこなす。
- ・ 慣れ。
- ・ 書き方を学ぶ。
- ・ レポートのみについて点数評価してほしい。

- ・ これからもいっぱい書く。
- ・ 様々な文献を参考にして自分の考えをまとめられるようにする。
- ・ 求めている文献を見つけられるようにする。
- ・ 論文を参考文献に使うように心掛ける。
- ・ レポートの書き方について自己学習を行う。
- ・ 先輩にレポートの書き方を聞く。
- ・ 他の人のレポートを読んでみる。

5. 医学部保健学科（放射）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ レポートの体裁を工夫する。
- ・ 教えてもらう。
- ・ 研究室において教授に積極的に質問をする。
- ・ 日頃から論理的な事を考える。
- ・ 論文を書く。
- ・ がんばる。
- ・ 自分で試行錯誤してレポートを完成させる。
- ・ 論文を読む。
- ・ レポートの出来について教授に聞く。
- ・ 説明会等に積極的に参加する。
- ・ 他の学生と議論しながらレポートを書く。
- ・ 論文を読んで自分のレポートと比較する。
- ・ 色々なレポートを読む。
- ・ 論文などを読み、プロの書き方を学ぶ。
- ・ 論文を読むことで論文の書き方を学習する。
- ・ より端的に表現できるようにする。
- ・ 今後の卒業論文に生かしたい。
- ・ 論文などを見て良いところを取り入れる。
- ・ レポートの質をあげる努力を自主的に行う。
- ・ 他人に伝えるつもりでレポートを書く。
- ・ 教授のアドバイスをもとにする。
- ・ 論文を読む。
- ・ 例に同じ。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 教員に質問しに行く、論文を読んで理解する。
- ・ 数多くの論文を読む。
- ・ 多くの論文を読み学ぶ。
- ・ 図書館など書籍で調べたり、過去の論文など参考にできそうなものの書き方を参照する。
- ・ レポートの書き方を自主的に学ぶ。
- ・ レポートの書き方を改めて学ぶ。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 何が足りないかその都度理解する。
- ・ 本を読む。
- ・ 友達と話し合う。
- ・ 新聞などを読み、語彙力を増やす。
- ・ 慣れていく。
- ・ レポートの書き方を工夫する。
- ・ 復習。
- ・ SIH 道場で習ったことを参考にレポートを書いてみる。
- ・ レポートの書き方を自主的に学ぶ。

6. 医学部保健学科（検査）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 教授に指導を受ける。
- ・ 書きたいことをメモしてレポートを書く。
- ・ レポートを教員に提出し、採点を受けそれを学生が受け取る体系を作る。

7. 歯学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ レポートを書く機会を増やし、添削してもらう。
- ・ 先生方に添削していただく。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ たくさん書く。
- ・ 書き方の本を読んで学ぶ。
- ・ 特に考えていない。
- ・ ほかの人の書いたレポートを見ていいところを真似る。
- ・ レポートの書き方を聞く。
- ・ 教授に聞く。
- ・ 教授に聞きに行く。
- ・ がんばる。
- ・ 特に考えていない。
- ・ 先生に指導してもらう。
- ・ 頑張る。

8. 薬学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 自主的に参加。
- ・ わからないことは聞く。
- ・ たくさんレポートを書く。
- ・ 書き方の本や、ほかの人に書き方を聞く。
- ・ 分量を書く練習をする。
- ・ 自分の力でまとめる。
- ・ 自分の提出したレポートの評価について教授に聞く。
- ・ 他人のレポートを参考にする。
- ・ もう少し真面目になる。
- ・ もう書きたくない。
- ・ 世に出されているレポートの内容を見る。
- ・ 自分で考えて書く。
- ・ 自分で考える。
- ・ レポートを多く読む。
- ・ 自分で色々調べてまとめる練習をする。
- ・ 数こなす。
- ・ 一から自分で書き上げられるようにする。
- ・ 上手いレポートを読んでいく。
- ・ 他人のレポートを見て、良いと感じた部分を取り入れて行く。
- ・ 友人にもきいて書き方の幅を広げる。
- ・ 自主的に書く。
- ・ 日々のレポートなどをがんばる。
- ・ レポートをどのように書いたら分かりやすいかを指導してもらう。
- ・ 上手い人を見る。
- ・ 授業に集中する。
- ・ 読み手がわかりやすいようなレポートづくりを心がける。
- ・ 時間をかけて自分で調べて理解する。
- ・ レポートの書き方講座に参加する。
- ・ 先輩からレポートの書き方などを教えてもらう。
- ・ 本を読む。
- ・ 丁寧なレポートを書く。
- ・ 書き方を勉強する。

- ・ もっと考えてレポートを書く。
- ・ レポートを書いて教授にコメントをもらう。
- ・ 分からないところを自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 書き方について調べたり聞きに行ったりする。
- ・ 引き続き簡潔でありながらしっかり考察されたレポートを目指して書いていく。
- ・ 本、新聞を読む。
- ・ レポートを書く。
- ・ 新しい試みをすることで、自分で考えて書く機会を多くする。
- ・ いいレポートを見る。
- ・ レポートをもっときちんと本などを調べて書く。
- ・ 他の人のものと評価で学ぶ。
- ・ 人のレポートを見る。
- ・ 努力。
- ・ 本を読み、レポートの書き方を向上させる。
- ・ レポートの書き方を調べる。
- ・ レポートの考察を自分なりにもっと考えて書く。
- ・ レポートを書く際に様々な参考文献などを用いてよく考察する。
- ・ word や Excel の使い方を学んで、より分かりやすくまとめられるようにしたい。
- ・ わかりやすく読みやすいレポートを書くことを心がける。
- ・ 全てのレポートをしっかりと推敲する。
- ・ 努力。
- ・ わからないことは誰かと確認する。
- ・ 全てを丁寧に行う。
- ・ 学術論文などを積極的に読み参考にする。
- ・ レポート読む。
- ・ 自主学习。
- ・ レポートのより良い書き方を学ぶ。
- ・ 上手い人のレポートの書き方を真似る。
- ・ 学ぶ。
- ・ 他社のレポートも見る。
- ・ 授業でやって欲しい。
- ・ 先駆者に質問する。
- ・ レポートの書き方を学ぶ。
- ・ 自分が読んで分かりやすく、また自分以外の人が読んで理解できるように書く。
- ・ より適切な文献引用の技術を身につける。
- ・ 教授に聞きに行く。
- ・ レポートの上手な人のものを見て、自分のレポートに活かせる点を得る。
- ・ レポートの書き方の基本を本などで調べる。
- ・ さらにレポートに取り組み。
- ・ いつも通り過ごす。
- ・ レポートの書き方を指導してほしい。
- ・ レポートの書き方の本を読む。
- ・ レポートの仕方を他の人に聞く。
- ・ レポートの書き方を調べる。
- ・ レポートの書き方を様々な人に聞く。

9. 理工学部社会基盤デザインコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 相手に伝わるようにわかりやすく書く。
- ・ 多様な観点から書く。
- ・ 積極的に教授に聞きに行く。
- ・ 練習する。
- ・ 一回一回を丁寧にしていく。
- ・ 本を読む。
- ・ 先生によるレポートの書き方講座に参加する。
- ・ より読みやすい文章を書く。
- ・ 教をこなして公の場での発表経験をえる。
- ・ 特になし。
- ・ 機会を増やす。
- ・ 本を読む。
- ・ がんばる。
- ・ レポートを書く機会が多いから。
- ・ 他人が見てもわかりやすいようなレポートを心がける。
- ・ 自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 書き方を学ぶ。
- ・ 図書館で行われる、レポートの書き方講義的なものに参加する。
- ・ 書籍などを参考により系統立てられたレポートを作成する。
- ・ 本を読む。
- ・ よいレポートを意識しながら作成する。
- ・ レポートの書き方を先輩とかに聞く。
- ・ 疑問に思ったところは積極的に教授に聞きに行く。
- ・ 今後もレポートをまとめる機会をもうける。
- ・ レポートの本を読む。
- ・ レポートの書き方などを本で調べる。
- ・ レポートの書き方を考えていく。
- ・ 数をこなす。
- ・ 出来るだけ多くのレポートを作成する。
- ・ よりよいレポート作成に取り組む。
- ・ 教授に教えてもらう。
- ・ 自分で調べて書く。
- ・ 書き方を調べる。
- ・ レポート書く。
- ・ もっと回数をこなす。
- ・ 自主的に調べる。
- ・ 企画などに参加してみる。
- ・ レポートの細かい部分の指導もしてもらう。
- ・ レポートの書き方について調べてみる。
- ・ 論文の書き方を学ぶ。
- ・ 他の人からの指摘を受ける。
- ・ 考察でそれっぽいことを書く。
- ・ レポートの書き方の指導書をよく読む。
- ・ 教授に教えて頂く。
- ・ 頑張る。
- ・ わからないところはわかるまで考える。
- ・ 問題に対して常に問いを投げかけられるようにする。
- ・ 論文を読む。
- ・ 参考する数を増やす。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 考察をしっかり書く。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 自分で理解できるまで読むしかない。
- ・ 自主的に教授に注意されないようなレポート作成ができるようになるために勉強する。
- ・ 発表する。
- ・ 数を更に踏む。機会があるなら、先輩方のレポートを見て参考にする。
- ・ 失敗を繰り返す。
- ・ 全てにおいて本などで調べてより詳しく書く。
- ・ 本などを読んで文章力を身につける。
- ・ 例に同じ。
- ・ 添削された点などをまとめ、二度と間違えないようにする。
- ・ レポート作成におけるテクニックを、友人や教授に聞く。
- ・ 知識不足を補えるよう、得られる知識があれば積極的に吸収するようにする。
- ・ ググる。
- ・ レポート指導された部分を銘記しておく。
- ・ もっと指導してもらう。

- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ 自分で調べる。
- ・ レポートの書き方を勉強する。
- ・ レポートの書き方を図書館にある教本を読む。
- ・ もっと時間的余裕をもってレポートを書く。
- ・ 今後ともレポートに力を入れる。
- ・ 他の人が書くレポートを見て、プラスになるところを吸収する。
- ・ 先輩、教授などから積極的にアドバイスをもらう。
- ・ レポートの書き方をネットで調べる。
- ・ レポートを綺麗に書けるよう調べたりする。
- ・ まだ足りない部分を補強できるようにする。

- ・ レポートの書き方を教授に聞きに行く。
- ・ レポートに取り組む。
- ・ 書き方を自主的に調べる。
- ・ 多くの文章をわかりやすくかけるようにする。
- ・ 研究室配属後に自身の研究を進めていく上で身につけていく。
- ・ がんばる。
- ・ レポートごとの教授のアドバイスをきちんと学習していく。
- ・ レポートを書くための知識を増やす。
- ・ 自分でよく考えて書く。
- ・ 論文を読んでみる。
- ・ 論文を読む。

10. 理工学部機械科学コース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 枚数書く。
- ・ 調べる。
- ・ レポートの書き方を本などで学ぶ。
- ・ 考察の仕方を学ぶ。
- ・ 指南書等を参考にする。
- ・ 今後ともレポートの質を高めていく。
- ・ 論点がまとまっていて読みやすいレポート作成を意識する。
- ・ 数をこなす。

11. 理工学部応用化学システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 学んだ反省を生かす。
- ・ より正確な書き方を。
- ・ レポートの書き方を教授に評価してもらう。
- ・ 指導してもらう。
- ・ 隙のないレポート、論文をつくる。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ レポートの書き方を自主的に先生に聞きに行く。
- ・ 何度も練習する。
- ・ テキストを写すだけではなく、自分で調べた内容も書くようにする分です。
- ・ 教員に質問する。
- ・ 機会をふやす。
- ・ レポート。
- ・ 自分の意見を大切に書く。
- ・ 先生に質問する。
- ・ 教授に聞きに行く。
- ・ レポートの書き方を工夫する。
- ・ 例と同じ。
- ・ レポートの書き方を勉強する。
- ・ もっと書き方の説明などをする。
- ・ 反復して行いいつも改善する。
- ・ 正しい書き方で書く。
- ・ レポートの書き方について、先輩や教員に聞いたり、参考書を読んだりする。
- ・ 学術論文を読む、レポートの書き方についての本を読む。
- ・ 本を読む。
- ・ レポートの書き方を学ぶ。
- ・ 先輩や教授に聞く。
- ・ 教授に積極的に質問しに行く。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ レポートの書き方講座に参加する。
- ・ レポートの書き方を本などで調べる。
- ・ ネットで書き方を調べる。
- ・ レポートの書き方を見直して直す。
- ・ いっぱい描く。
- ・ レポートの書き方を自分で調べる。
- ・ 参考文献などから知識を得てレポートを書く。
- ・ 自主的に教授に聞きに行き、スキル向上を図る。
- ・ 先輩や教授やどに書き方を学ぶ。
- ・ レポート返却ないし、教員による個人個人のコメント。
- ・ 学術論文などに触れてみる。
- ・ レポート課題に熱心に取り組む。
- ・ 教授に聞きに行く。
- ・ 教授の助言をもらう。
- ・ 積極的に調べる。
- ・ 正しいレポートの書き方を学ぶ。
- ・ 見本を見つけて良いところをまずは真似する。
- ・ レポートをたくさん書く。
- ・ 過去のレポートの添削をしっかりと受け止める。
- ・ 先輩からも教わる。
- ・ 本を読んで勉強する。
- ・ 要点をまとめて書く。
- ・ 評価を見る。
- ・ レポートの書き方を調べる。
- ・ それぞれのレポートの改善点を見つけて、直していく。
- ・ レポートで訂正されている点を見直す。
- ・ 先生の評価を参考にする。
- ・ 本を読む。
- ・ 添削された点を改善できるようにする。
- ・ 考察をもっと時間をかけて良いものにする。
- ・ 文献で調べる。
- ・ レポートの書き方を本を見て勉強。
- ・ 自主的に聞く。
- ・ 時間をかけて行う。
- ・ レポートを添削してもらう。
- ・ 提出したレポートを見て直されてるところを見る。
- ・ 提出したレポートの添削などを見直し、自分のレポートには何が足りないのかを考えて改善していく。

12. 理工学部電気電子システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ レポート提出時に指摘された点を見直す。
- ・ 論文などを読んでみる。
- ・ レポートの書き方などの改善点を今後の実験レポートでも教授との諮問で洗い出して頂く。
- ・ 慣れる。
- ・ 調べながら書く。
- ・ 自分の考えをはっきりさせる。
- ・ 再レポートを通して自分に足りないものを学ぶ。
- ・ レポートの書き方をもっと工夫していく。
- ・ その分野でない人が読んで分かるようなレポートを書けるようにする。

13. 理工学部情報光システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 自主学習。
- ・ さらに知識を増やす。
- ・ 文章を考えて書くようにする。
- ・ 読書。
- ・ 自分で調べ、学ぶことを増やす。
- ・ 卒論の執筆。
- ・ 参考資料を見て、レポートの書き方を意識する。
- ・ きちんと調べて出したから。
- ・ 書籍で文章の書き方を勉強する。
- ・ アウトプットの場合積極的に利用する。
- ・ レポートの書き方を自主的に調べる。
- ・ 自己解決しないようにする。
- ・ 相手に伝わるように意識する。
- ・ 調べる。
- ・ 書類を多く書きより良い書類作りを学ぶこと。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ ネットなどでレポートの書き方を調べる。
- ・ レポートの評価を先生に聞きに行く。
- ・ 人に聞く。
- ・ 教授に聞きに行く。
- ・ 自分でレポートの書き方を調べる。
- ・ 構造的なレポートの書き方を学ぶ。
- ・ 自主的に調べる。
- ・ 本やネットで学ぶ。
- ・ レポートを採点してもらう。
- ・ 理系的な書き方のコツを掴むようにする。
- ・ 手を抜かずにこれからも書く。
- ・ 正しいレポートの書き方を調べたり聞いたりして身につける。
- ・ 参考書を読む。
- ・ レポートの書き方について自主的に調べる。
- ・ 良いレポートを参考にする。
- ・ 練習を行う。
- ・ 自主的に教授に聞く。
- ・ 自主的に授業内容をレポートのようにまとめる。
- ・ 自分以外から学ぶ。
- ・ ネットで書き方を調べる。
- ・ 論文を読みながら学んでいく。
- ・ 英語で対応するための勉強。
- ・ 自分のレポートの改善点を探す。
- ・ 他人のレポートや論文などを見て、いいと思ったところを取り入れる。
- ・ レポートの書き方を見本などをみて学ぶ。
- ・ レポートの書き方を自主的に教授に聞きに行く。
- ・ いろんな人の書き方を学ぶ。
- ・ 機会の増加。
- ・ レポートの書き方を経験をこなしている人に教えてもらう
- ・ 他人のレポートを読む。
- ・ 教授からレポートについてフィードバックを貰う。
- ・ レポートの書き方について書籍等を、読む。
- ・ ネットなどで書き方を調べる。
- ・ 苦手意識を取り除くこと。
- ・ よく推敲してレポートを書く。
- ・ レポートの添削を行なってもらう。
- ・ レポート指導を先輩達に教えてもらう。
- ・ 書き方を勉強したい。
- ・ 分かりやすいレポートの書き方を学ぶ。
- ・ 学習。
- ・ レポートの再提出を少なくする。
- ・ 文章レポートを書く。
- ・ レポートの添削を行なってもらう。
- ・ 練習する。
- ・ 教授に聞きに行く。
- ・ よく調べる。
- ・ 場数を踏む。
- ・ 自主的に取り組む。
- ・ レポートをたくさん書く。
- ・ 教授に質問。
- ・ レポートの書き方について書籍で調べる。
- ・ 研究室でレポートの書き方を改めて学ぶ。

14. 理工学部応用理数コース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ レポートの書き方を教授に聞く。
- ・ 正しい書き方を学ぶ。
- ・ もっと本気で取り組む。
- ・ もっとちゃんとする。
- ・ テーマを決めてから書く。
- ・ 書き方を調べる。
- ・ レポートの書き方講座を受講する。
- ・ 良いレポートを見る。
- ・ レポートに関する本を読む。
- ・ 書き方を調べる。
- ・ レポート課題を増やす。
- ・ 本を沢山読む。
- ・ レポートを書く機会を増やす。
- ・ 他人に読んでもらい指摘してもらう。
- ・ レポートの書き方をしらべてみる。
- ・ 友達のを参考に身につける。
- ・ レポートの書き方講習会に参加する。
- ・ 自分なりに工夫していく。
- ・ 様々な人のレポートを参考にする。
- ・ 先生による添削後に再提出。
- ・ レポートの書き方を学ぶ。
- ・ レポートを書いた後、読み返して自分の考えたことが表現出来ているか見直すことを心がける。
- ・ 毎回の実験レポートを丁寧に考察する。

- ・ レポートの書き方を教授に聞きに行く。
- ・ 自分なりに調べたり聞いたりする。
- ・ 今後もレポートに取り組む。

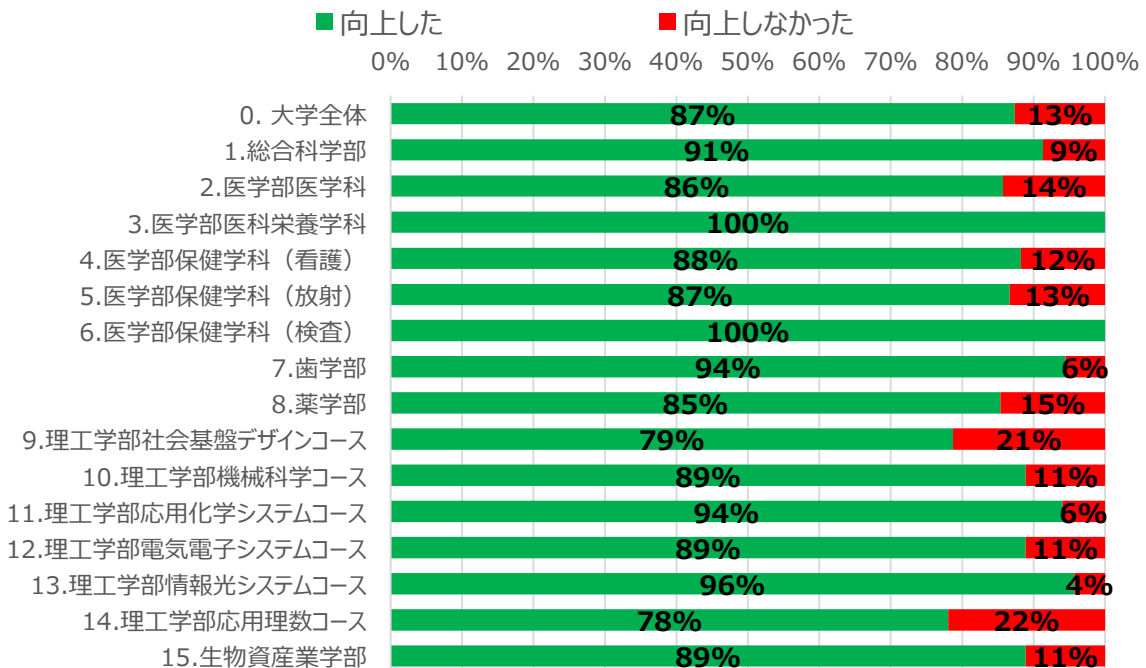
- ・ 教授と積極的にからむ。
- ・ 文章力をあげる(短くても伝わる文章でかけるようにする)。

15. 生物資産業学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 授業レポート中で技術をあげていく。
- ・ 本読み。
- ・ 難しい。
- ・ 日本語力を高めたい。
- ・ 本で調べる。
- ・ 書き方をもう一度考え直す。
- ・ レポート作成にもっと時間をかける。
- ・ 工夫して書く。
- ・ レポートの書き方を学ぶ。
- ・ 本で調べる。
- ・ 友達のレポートを見せてもらう。
- ・ 繰り返し行うこと。
- ・ レポートの書き方をインターネットなどで調べる。
- ・ 教授にアドバイスもらう。
- ・ 今後も継続させる。
- ・ レポートの書き方について先輩や教授に聞く。
- ・ 論文を参考にする。
- ・ もっとする。
- ・ わかりやすいレポートになるようにする。
- ・ 友達や先輩から聞いて行動する。
- ・ レポートを書く機会を増やす。
- ・ 学んだ書き方を定着させる。
- ・ もっとたくさんのレポートを書いて経験を積んでいく。
- ・ 自分で調べる。
- ・ 本を読む。
- ・ 人に見てもらおう。
- ・ 数をこなす。
- ・ 先輩や教授から教わる。
- ・ 英語でレポートが書けるようにする。
- ・ レポート講座を受ける。
- ・ 書いたレポートの添削をしてもらう。
- ・ レポートの書き方を積極的に聞く。
- ・ レポートの書き方について学び直す。
- ・ 数をこなしていく。
- ・ 語彙力を増やす。
- ・ さらに多くのレポートを書いていく。
- ・ 書き方を研究する。
- ・ 書き方を学ぶ。
- ・ レポートの書き方の基礎を自分で調べる。
- ・ 積極的に取り組む。
- ・ 自分の書いたレポートを教授に採点してもらう。
- ・ わからないところはとことん調べる。
- ・ 積極的に調べる。

6-1. 協働力について



6-2. 協働力が向上した理由または向上しなかった理由

1. 総合科学部

【向上した理由】

- ・ 多くの授業でグループワークがあった。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ グループワークをする機会が多いから。
- ・ グループ学習をする機会が増えたから。
- ・ 授業でグループ学習を行う機会が多かったから。
- ・ グループワークをする授業があったから。
- ・ グループ活動が多かったから。
- ・ 協働した。
- ・ グループ活動があったから。
- ・ グループ発表会が多かったから。
- ・ 仕切る場面が多かったため。
- ・ 協働作業をすらすら授業が多かったから。
- ・ プロジェクトで1つのものを作り上げることができたから。
- ・ グループ課題が多く、自分の担当もやり遂げることができたから。
- ・ グループワークをたくさん験したから。
- ・ グループワークがわりとあった。

【向上しなかった理由】

- ・ 共同作業がない。
- ・ どんな発表をしたか覚えてない。

2. 医学部医学科

【向上した理由】

- ・ 実習が多かったから。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ 共同で何かをする機会があるから。
- ・ グループ発表できたから。
- ・ グループや協力して発表したらする機会があったから。
- ・ 共同作業が多かったから。
- ・ 協力しないとできなかったから。
- ・ グループ学習が多かったから。
- ・ グループ学習をこなしたから。
- ・ グループ学習の機会が多いから。
- ・ グループでの活動機会が多々あったから。

【向上しなかった理由】

- ・ わざわざ授業でやらなくてもできることだから。
- ・ しない人がいたら一人であるから。

3. 医学部医科栄養学科

【向上した理由】

- ・ 課題について複数人で取り組むことが多く、慣れたから。

4. 医学部保健学科（看護）

【向上した理由】

- ・ 回数が多い。
- ・ グループ学習の機会が増えたから。
- ・ グループワークで何回か経験したから。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ グループであることが多いから。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ 真面目に話し合った。
- ・ グループワークの授業が多いから。
- ・ グループワークの機会が多かったから。
- ・ 高齢者看護学概論のグループワークでグループとよく話し合え、発表をやり遂げることができたから。
- ・ 授業でグループワークを行う機会が多いから。
- ・ グループ活動をする機会があったため。
- ・ グループワークが多かった。
- ・ みんなと話し合った。

【向上しなかった理由】

- ・ 参加の仕方がわからない。
- ・ グループワークでも意見を述べない人が多い。

5. 医学部保健学科（放射）

【向上した理由】

- ・ グループ作業から発表までできたから。
- ・ 普段話さない人と話すことができたから。
- ・ グループ活動の機会が多かった。
- ・ 班学習が多いから。
- ・ グループ学習が多いから。
- ・ 化学実験をグループでやり遂げレポートをまとめることができた。
- ・ グループ実習が多かったから。
- ・ グループ学習が多かったから。
- ・ たくさんの実習でグループ分けされていたため。
- ・ 多くの授業でグループ活動を行ったから。
- ・ グループでディスカッションを行い実験結果を発表できたから。
- ・ 実習でグループ活動が多かったから。

- ・ グループワークが多かったから。
- ・ 実験等を、グループ単位で行うことが多かったから。
- ・ グループで研究を行ったから。
- ・ 共同で行う実習が多数あったため。
- ・ 実験を協力してたできた。
- ・ 実験が多くなり、他者と共同する機会が多かったから。
- ・ 多くの実習をグループで取り組んできたから。
- ・ グループで実習をしたから。

- ・ 実習時に話し合い、問題解決を行ったから。
- ・ 講義でその機会があったから。
- ・ それぞれの役割を適任し、発表をやり遂げることができたから。
- ・ 班での活動が何度かあったから。
- ・ グループ発表を行ったから。
- ・ 学科の人数も少なく普段から協力したりすることが多く、また実習でも10人組などが多かったため。

【向上しなかった理由】

- ・ 実習においてもやる人がやるみたいな風潮があったから。
- ・ グループ活動はなかった。
- ・ ディスカッションをする機会はあまりなかった気がする。
- ・ 機会がなかったから。

6. 医学部保健学科（検査）

【向上した理由】

- ・ 実験をグループでやり遂げたから。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ 実習の機会が多いから。

7. 歯学部

【向上した理由】

- ・ グループ活動があったため。
- ・ グループワークが増えたから。
- ・ 協働せざるを得ない機会が多々あったため。
- ・ グループでやり遂げ、発表、報告することができたから。
- ・ グループ活動が多いから。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ 協働内容が多いから。
- ・ 他学科との関わりも増えた。
- ・ 知らない人とも協力できるようになった。
- ・ 少人数で自分の意見が言いやすいため。
- ・ 自分の意見を言えたから。
- ・ グループ活動が多かったから。
- ・ グループ発表したから。
- ・ 実習を班のみんなで行ったから。
- ・ グループ課題の機会が多いから。
- ・ グループワークかわ多いから。
- ・ 話し合いが設けられた授業が何度かあったから。
- ・ 発表をグループでしたから。
- ・ 発表した。
- ・ グループワークしたから。
- ・ もともと得意。
- ・ グループで行う実験があったから。
- ・ グループでの実習が多かった。
- ・ グループ実習が多いから。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ グループ活動が増えたから。

【向上しなかった理由】

- ・ 機会がない。

8. 薬学部

【向上した理由】

- ・ みんなでできたから。
- ・ グループ活動。
- ・ グループでの実験が多かったから。
- ・ グループで活動することも多かった。
- ・ グループ活動が多かったから。
- ・ 共に活動するから。
- ・ 実習で他者と関わる機会が多かった。
- ・ 共同作業が多かったから。
- ・ 進行を進んでやった。
- ・ グループ内のコミュニケーションを取る機会が多かったため。
- ・ グループで実験をやるが多かったから。
- ・ グループでの活動が多かったから。
- ・ グループで実習をすることが多かったから。
- ・ あまり話したことの無い人と実習のグループになったから。
- ・ グループでの活動が多かったから。
- ・ 実習をグループで行ったから。
- ・ グループ活動が多かった。
- ・ 共同実験する機会が多かったから。
- ・ グループで色々話し合ったため。
- ・ ほとんどの実習がグループワークだったから。
- ・ 実習ではグループでやるが多かったから。
- ・ グループで行う実習が多かったため。
- ・ 実習でグループワークが多かったため。
- ・ グループ学習が多かったから。
- ・ 実習が全てグループで行うものだったため。
- ・ グループ実習が多かったから。
- ・ グループで協力する実験が多かったから。
- ・ 実習を通して。
- ・ 何事にも班員と協力しないと成し遂げられないため。
- ・ 実習はグループでやるが多かったから。
- ・ 実習では1人で行うものはないから。
- ・ 実習で協力することが多いから。
- ・ 協力して実習を行ったため。
- ・ グループでの実験などがあったから。

- ・ こう高校よりグループで活動することが増えたから。
- ・ 実習で協力する機会が多かったから。
- ・ 実験をしたから。
- ・ 実習で協力しながらすすめるものが多かったから。
- ・ レポートの結果を揃える必要があったから。
- ・ 実習があった。
- ・ 実験を協力してすることができた。
- ・ 実習を行ったから。
- ・ グループで実習を行った。
- ・ 実習で多くのグループワークがあったから。
- ・ 班で行ったから。
- ・ 実習をグループで行ったため。
- ・ グループでする作業が多かったので迷惑かけないようにしたから。
- ・ 普段はあまり話さない人とも実習を通して協力して力して実験を行うことができ
- ・ 実習の中にはペアやグループで行うものが多かったから。
- ・ 多数の実習でグループの作業を行ったから。
- ・ 授業でグループワークを行う機会があったため。

【向上しなかった理由】

- ・ 協調する気がなかったから。
- ・ 機会が少なかった。
- ・ 上がるようなことをしなかったから。
- ・ 結局同じ人が前に出るから。
- ・ 特にグループ発表の場がなかった。
- ・ もともとが分からないため比べられない。

- ・ 実験をグループ単位でやり遂げた。
- ・ 実験を多くやったため、最初ほどの戸惑いは無くなったから。
- ・ 普段話さない同級生とも、実習を通じてコミュニケーションをとることができたから。
- ・ グループ活動があったから。
- ・ 人と話す機会が増えてコミュニケーション力が上がったから。
- ・ グループワークで向上した。
- ・ 実習で協働で行う作業が多かったから。
- ・ 化学実験をグループでやりとげたから。
- ・ グループワークが多かったため。
- ・ 実験をしたから。
- ・ グループ作業が多かったから。
- ・ 実習で話したことが無い人とも一緒にやる事が多かったため。
- ・ 実習はグループであることが多かったから。
- ・ 何人かとやることが多かったから。
- ・ みんなで考えて役割分担したから。

- ・ そうは感じなかったから。
- ・ やってないから。
- ・ グループ活動に積極的に参加できなかったから。
- ・ もともと協働力が高すぎた。
- ・ 協同して作業を行ったのは一年の頃が多かったから。
- ・ 実感していない。

9. 理工学部社会基盤デザインコース

【向上した理由】

- ・ グループワークがあるから。
- ・ グループワークで意見を次々言えるようになったから。
- ・ 実験で班の人と協力した。
- ・ 実験があったから。
- ・ 練習した。
- ・ グループで考えたから。
- ・ グループ活動をした。
- ・ 機会実験をグループでやり遂げたから。
- ・ 実験などをグループ単位で行った。
- ・ グループ実験をやりとげた。
- ・ 機会が増えたから。
- ・ 実験結果について相談したから。
- ・ 友達とテスト勉強をしたから。
- ・ 実験などで他人と協力することが多かったから。
- ・ 実験をグループでやり遂げたから。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ グループで発表する機会があったため。
- ・ グループ活動の機会があったから。
- ・ グループワークの機会があったから。
- ・ グループ活動が多かったから。
- ・ 協力してやりとげたから。
- ・ グループ内での連絡が多かった。
- ・ 協力したから。
- ・ 仲良くなったから。
- ・ グループでの発表報告をする機会があったから。
- ・ 実験などで。
- ・ 協力してできた。
- ・ グループ活動で互いに意見を出し合ったから。
- ・ グループでの演習が多かったから。
- ・ 協力して課題をこなす授業が多いから。
- ・ 実験で協力しあったから。
- ・ 機械科学実験でグループで実験を行ったから。
- ・ 実験をグループでやったから。
- ・ グループ活動があった。

- ・ 実験をグループで分担して取り組めた。
- ・ 様々な授業でグループ活動が多かったから。
- ・ 大学に入り、グループワークでの勉強が多くなったため。
- ・ 実験などでグループごとに行動する事が多かったから。
- ・ 授業においてグループでの活動も多くあったから。
- ・ 正直覚えていませんが、向上してないと何のために講義を受けていたのか分からないから。
- ・ 実験の班の人に分からない部分を補ってくれた。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ グループワークがよくあったから。
- ・ グループワークが多くあったから。
- ・ すべきことを見つけられるようになった。
- ・ グループで実験する機会が多かったから。
- ・ 何回もしたから。
- ・ 実験は個人ではなくグループで行うから。
- ・ 実験はグループの人と協力しなくてできなかったから。
- ・ 発表に関してあまり積極的でない人が多く、自分がしなければならぬ感じだったから。
- ・ グループワークが多いため。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ 難しい課題をみんなでやったから。
- ・ グループワークをがんばった。
- ・ チームで話し合いする機会があったから。
- ・ グループワークなどを授業で課せられたため。
- ・ グループで行う実験が多かったから。
- ・ 実験がグループであったから。
- ・ グループで意見をまとめて発表する機会が多かったから。
- ・ グループワークがあったから。
- ・ 授業などでグループワークをする機会が多かった。
- ・ グループ授業があったから。
- ・ イノベでの活動のほとんどがグループワークであるため。
- ・ グループでする課題が多いから。
- ・ 実験をグループでする機会が多いから。
- ・ 実験をグループでやり遂げたから。
- ・ 数を踏んだから。

- ・ 実験をグループでやり遂げ、お互いに協力しながら報告をすることができたから。
- ・ グループ発表があった。
- ・ 実験をグループでやり遂げたから。

【向上しなかった理由】

- ・ 機会がなかったから。
- ・ 消極的だった。
- ・ 他学生のやる気がないから。
- ・ 機会がない。
- ・ そういう機会があまりなかった。
- ・ そんな機会なかった。
- ・ グループで何かをすることがあまりなかったため。
- ・ 毎回同じようなメンバーだったから。
- ・ 大学生活であんまり必要なかった。
- ・ あまりグループワーク的でなかったから。

- ・ グループ活動の実験があったから。
- ・ 学校以外の場所での活動。

- ・ グループで仲良く1つの課題に取り組む機会は無かった。
- ・ 実験のレポート作成が個々で行うものであったため。
- ・ 班にやる気のない人がいたから。
- ・ グループワークの記憶があまり無い。
- ・ 周りの人に楽に単位を取ることが目的の人が多かったから。
- ・ グループで活動することがなかったから。
- ・ 実験班のメンバーの一部にやる気のない人が少なからずいたから。
- ・ 集団で実行する機会が少ないから。

10. 理工学部機械科学コース

【向上した理由】

- ・ がんばったから。
- ・ グループワークを通して身につけた。
- ・ 実験などはグループ活動だったから。
- ・ 実験でグループのメンバーと協力した。

【向上しなかった理由】

- ・ グループで発表することは少なかった。

- ・ 助け合ったから。
- ・ 実験をグループ単位で行ったから。
- ・ 分担しないと実験時間が延びるから。
- ・ 実験で求められるため。

11. 理工学部応用化学システムコース

【向上した理由】

- ・ 人と実験するから。
- ・ 話したことない人と行えたから。
- ・ グループワークが増えたから。
- ・ 工夫して作業ができたから。
- ・ グループとかペアでする活動めっちゃ多かったから。
- ・ 化学実験をグループでやり遂げ発表・報告することができたから。
- ・ サークルでチームを作って活動したから。
- ・ グループ活動が多いから。
- ・ 多くの講義でグループワークがあったため。
- ・ なかなかない機会だから。
- ・ やりとげた。
- ・ グループで実験をおこなったり話し合ったりしたから。
- ・ グループワークをする機会が豊富にあったから。
- ・ 共同実験できたから。
- ・ 実験をグループで行うので協力する機会が多い例と同じ。
- ・ グループ内で意見を交換しより良い発表ができたから
- ・ グループで考えることが多かったから。
- ・ 発表。
- ・ ペアの人と一緒に頑張ったから。
- ・ グループ研究、実験、発表の授業があったから
- ・ グループで実験したから。
- ・ 実験を共同で行ったから。
- ・ 実験をペアでしたから。
- ・ グループ活動の実験などが多かったから。
- ・ 化学実験をグループでやり遂げ、発表・報告することができたから。
- ・ グループワークをやり遂げることができたから。
- ・ 英語や実験でグループワークが多かったから。
- ・ グループ活動が多いから。
- ・ 実験では協力する機会が多々あったから。
- ・ 班員が協同的だった。

- ・ 実験で協力の重要性を学んだから。
- ・ 話し合う機会が多いから。
- ・ グループで活動する機会があったから。
- ・ ペアになって実験をしたため。
- ・ グループで実験を行う機会が増えたから。
- ・ 発表する機会があったから。
- ・ グループで実験をやり遂げたから。
- ・ グループで活動する時間が多いため。
- ・ グループでの活動があったため。
- ・ 実験を共同者とやりきったから。
- ・ グループワークがあったから。
- ・ グループで協力して実験したから。
- ・ グループワークが多くあったから。
- ・ 実験やその他授業を通して、班活動が多かったから。
- ・ 化学実験においてグループ活動をやり遂げたから。
- ・ 機会があったため。
- ・ グループで練習、制作、調査をおこなったから。
- ・ グループで協力してできたから。
- ・ グループで行う授業をいくつも受講したから。
- ・ 班活動が多いから。
- ・ 協力したから。
- ・ 発表できたから。
- ・ 話し合う機会があったから。
- ・ グループで協力して適切な実験を行えたから。
- ・ お互いに情報を交換することが出来たから。
- ・ SIHだけでなく、他の授業でもグループワークをする機会が多くあり、それらでの発表や報告またはレポート提出などを共にやり遂げることができたから。
- ・ グループ活動があったから。
- ・ 複数人で行うことが多いから。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ stem 演習でグループ発表をしたから。
- ・ グループ実験などが多かったから。

【向上しなかった理由】

- ・ ほとんど同じメンバーだったから。
- ・ もともと高いため。
- ・ 自分から積極的にグループワークに取り組めなかった。

12. 理工学部電気電子システムコース

【向上した理由】

- ・ グループ授業があったから。
- ・ プロジェクトマネジメントやニュービジネスなどグループでの講義があったから。
- ・ 実験をグループでやったから。
- ・ 機会があったから。
- ・ グループ授業をしたから。
- ・ グループワーク。
- ・ プレゼンの資料などを一緒に作る機会があったから。
- ・ 実験でも上手くコミュニケーションを取ることが出来たから。

【向上しなかった理由】

- ・ グループで協力して行う活動があまりなかったから。

13. 理工学部情報光システムコース

【向上した理由】

- ・ グループ活動。
- ・ グループワークをやる機会があったから。
- ・ グループ課題が学外でも多かった。
- ・ 経験回数が増えたため。
- ・ グループワークが多くあったから。
- ・ グループで行動する機会が多いため。
- ・ グループ活動が多かったから。
- ・ 実験やイノベーションプラザでの活動はグループで動くことが多かったから。
- ・ グループでやり遂げる必要がある状況多かったため。
- ・ グループでの授業が多かったから。
- ・ グループ課題が増えたから。
- ・ 実験で班長などを務めたため。
- ・ プロジェクト活動について学ぶ事ができたから。
- ・ 実験をグループでやり遂げ、発表・報告することができたから。
- ・ グループ課題が増えたから。
- ・ 実験でグループワークを行ったから。
- ・ 実験で培った。
- ・ グループワークを長期的に行ったため。
- ・ システム実験でグループ活動を行ったから。
- ・ 実験や授業のグループワークで長期間同じメンバーでの活動があったから。
- ・ グループで発表・報告することがあったから。
- ・ グループ作業が多かったから。
- ・ グループワークをする機会が多いから。
- ・ グループワークをやる機会が多いから。
- ・ グループワークをたくさんしたから。
- ・ システム実験でグループ活動があったから。
- ・ プログラムを分担して作るということは大学に入ってから初めてやったので確実に伸びているとおもう。
- ・ グループ行動が多かったから。
- ・ 実験においてグループで良い成績を残したから。
- ・ チームで自主的に行うようにできた。
- ・ グループ発表が多かったから。
- ・ グループでの活動を半年ずつ行ったため。
- ・ グループでの活動をする機会があったから。
- ・ 実験では、あまり喋ったことがない人とグループを組んだから。
- ・ グループ実験を半年行ったから。
- ・ グループ活動する機会が多かったから。
- ・ グループで動くことが多かったから。
- ・ 実験はほとんどグループで行うものが多かったから。
- ・ グループ課題が多かったから。
- ・ 授業でグループワークが多かったため。
- ・ 機会。
- ・ グループ課題が多かったから。
- ・ グループで発表することの喜びを実感したから。
- ・ グループ活動がよくあったから。
- ・ 機会がおおいから。
- ・ グループで実験開発をやり遂げたから。
- ・ グループでの実験があるから。
- ・ システム実験・ソフトウェア実験でグループでやりとけたから。
- ・ 機会があったから。
- ・ システム実験をやり遂げたから。
- ・ ロボット実験をグループで行ったから。
- ・ グループでやり遂げる作業が多かった。
- ・ 発表報告できたから。
- ・ グループワークが多くあったから。
- ・ 発表会の多さ。
- ・ グループワークをこなす機会が多かったため。
- ・ グループワークをする機会が多かったから。
- ・ グループで行う課題が多かったから。
- ・ 共同作業の場が多かった。
- ・ グループでの課題が多かったため。
- ・ グループで話し合いプレゼンする機会が多かったから。
- ・ グループワークの多さから。
- ・ システム実験でのグループ活動が多かったから。
- ・ グループ活動が多いから。
- ・ グループ活動する機会が多かった。
- ・ 実験をグループでやり遂げ、発表・報告することができたから。
- ・ グループの実験では協力的にできた。

【向上しなかった理由】

- ・ グループ活動に積極的ではなかったから。
- ・ グループで何かをやり遂げるような機会が基本的に少ないから。

14. 理工学部応用理数コース

【向上した理由】

- ・ 協力して勉強する機会があった。
- ・ グループ活動が多い。
- ・ 話し合いの場がたくさんあったから。
- ・ グループ活動がいろいろな授業でやたらあるから。
- ・ グループワークがあるから。
- ・ グループで協力をしたから。
- ・ 楽しく会話出来てるため。
- ・ グループ活動が増えた。
- ・ 協力して結論まで出すことができたから。
- ・ みんなで話し合ったから。
- ・ グループワークが捗った。
- ・ 友と共に考えたから。
- ・ 班になって課題を決め、課題作成に取り組んだから。
- ・ グループで活動する機会が増えた。

【向上しなかった理由】

- ・ 実習の成果をプレゼンする機会があったが、プレゼン資料作成の際に協働出来ていたか疑問を感じているから。

- ・ グループワークが多かった。
- ・ 皆でプログラミングの内容を考えた。
- ・ グループでの取り組みが多いから。
- ・ 仲間同士で教えあった。
- ・ グループで問題解決をした。
- ・ グループで話し合ったから。
- ・ 協同で実験を行ったから。
- ・ 2人で分担する実験が多かったから。
- ・ がんばったから。
- ・ グループで実験した。
- ・ 実習でグループ活動を行ったため。
- ・ 授業中に体験できたから。
- ・ グループ活動が多く、その中でも自分の意見を積極的に出せるように意識したから。

- ・ 一年前期と比べ、グループ活動の量はさほど変わらないため。
- ・ やる気ない人が多いから。

15. 生物資産業学部

【向上した理由】

- ・ グループ活動。
- ・ グループワークが多いから。
- ・ グループで協力できた。
- ・ 実験はグループで行われたから。
- ・ 実験のプレゼンをグループで行った。
- ・ 知らない人とのグループワークが増えた。
- ・ グループで行う授業があったため。
- ・ 実験をしたから。
- ・ 創り出す機会が多い。
- ・ みんなでグループになって協力しあったから。
- ・ グループ発表が多かったから。
- ・ グループでの行動があったから。
- ・ グループ活動が多かったから。
- ・ グループワーク多かった。
- ・ グループワークが何度かあったから。
- ・ 機会が多かった。
- ・ グループワークが多かった。
- ・ グループワークが多かったから。
- ・ 実験などから身についた。
- ・ 講義の中でグループ作業が多かった。
- ・ たくさんのグループ活動があったから。

【向上しなかった理由】

- ・ 難しい。
- ・ そんなにグループワークをする機会がなかった。

- ・ グループで活動することが多いため、コミュニケーション力もついた。
- ・ グループ活動があったから。
- ・ 例と同じ。
- ・ 実習。
- ・ グループでの実験、発表。
- ・ グループでの授業があった。
- ・ 化学実験において、グループ内で役割を分担してこなしたため。
- ・ 化学実験をグループでやり、話し合いができたから。
- ・ グループでスムーズに実験を行えた。
- ・ 有機の実験で、発表をやり遂げることが出来たから。
- ・ グループでの活動が多いから。
- ・ グループでのプレゼンが多かったため。
- ・ グループでする機会があまりないから。
- ・ 実験をグループでやる機会が多かったため。
- ・ グループ活動する授業が多かったから。
- ・ グループ学習をした。
- ・ 実験などでグループで活動する機会が多かったから。
- ・ 機会が増えたから。
- ・ 実験などグループで作業することが多いから。

- ・ 高校の時のほうが、グループ発表の機会が多かったから。
- ・ グループでやることがあまりなかったから。

6-3. 協働力を向上させるための今後の取り組み

1. 総合科学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ グループワークを多くする授業をとる。
- ・ 考えを共有する。
- ・ ワークショップに参加。
- ・ イベントに参加し経験を積む。
- ・ 積極的に人との会話をする。
- ・ ワークショップのようなクラスを増やす。

- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ チームワークをあげるためにどうすべきか学ぶ。
- ・ グループ活動で積極的に発表する。
- ・ 自己主張性をあげる。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ グループワークに積極的に参加する。

- ・ 大学内外を問わず、他者と関わる機会を持つ。
- ・ 協力するイベントに参加する。
- ・ 頑張る。

- ・ グループ活動がある授業も積極的に受ける。
- ・ 興味のある活動やイベントに参加する。
- ・ グループでいるときも自分の考えを持つ。

2. 医学部医学科

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 様々な人とグループワークを重ねる。
- ・ 他学部の学生と交流する機会を増やす。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ たくさん発表する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ グループワーク。
- ・ 定期テストの際は何人かで教え合って勉強する。

- ・ 積極的にワークイベントに参加する。
- ・ あれば参加。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ がんばる。
- ・ 今後もグループでも活動時に積極的にする。
- ・ 頑張る。

3. 医学部医科栄養学科

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 特になし。

4. 医学部保健学科（看護）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ コミュニケーションを多くとる。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ ワークショップなどに参加する。
- ・ 講演会に参加する。
- ・ 回数をこなす。
- ・ 積極性。
- ・ 自分の意見を積極的に言う。
- ・ 下調べをきちんとしていく。

- ・ 積極的にグループワークに取り組む。
- ・ 自分の意見を積極的に述べる。
- ・ 話し合いに積極的に参加する。
- ・ 協調性を持って、討論が深めるように努力する。
- ・ ワークショップのイベントに参加してみる。
- ・ 話し合いを積極的にする。
- ・ ワークショップイベントの情報を貰う。

4. 医学部保健学科（放射）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ グループでのイベントに参加する。
- ・ 積極的に実習への参加。
- ・ 積極的は姿勢を忘れない。
- ・ ワークショップに参加。
- ・ コミュニケーションをとる。
- ・ 先生（頼らず学生で問題解決する機会を増やしていく）。
- ・ グループ活動で積極的に仕事をする。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ イベントに積極的に参加する。
- ・ 研究。
- ・ ワークショップイベント等に参加する。
- ・ 様々なイベントに参加し、他者との交流を多くする。
- ・ グループ学習を行う。

- ・ 病院実習も集中してやる。
- ・ 研究室の他の学生や先生と協力しながら研究を進めたい。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ 学外イベントに自主的に参加する。
- ・ 友人同士で課題について話し合う機会を作る。
- ・ グループでの実験を増やす。
- ・ 機会を増やす。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ イベントなどに参加して経験を積む。
- ・ 研究室などで話し合いながら行う。
- ・ 病院実習などさらに話し合いの場を深めていく。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。

6. 医学部保健学科（検査）

【向上のための今後の取り組み】

- ・ ワークショップイベントに参加する。
- ・ 人と話す。

- ・ 積極性を持つようにする。

7. 歯学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 様々な人とグループワークを重ねる。

- ・ 頑張る。

- ・ 他学部の学生と交流する機会を増やす。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ たくさん発表する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ グループワーク。
- ・ 定期テストの際は何人かで教え合って勉強する。
- ・ 積極的にワークイベントに参加する。
- ・ あれば参加。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ がんばる。
- ・ 今後もグループでも活動時に積極的にする。
- ・ 今後も授業を通してグループワークに積極的に参加する。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ さらに仲間と交流を増やす。
- ・ 積極性をもつ。
- ・ 話し合い積極的に参加する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ 積極的に発言する。
- ・ 授業内で積極的に行動する。
- ・ 専門性を磨き協働が必要な場面で他者の良いところをいかに。
- ・ 積極的に自分からグループメンバーに話しかけていく。
- ・ 積極的に学ぶ。

8. 薬学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 積極的になる。
- ・ グループワークに積極的に参加する。
- ・ グループワークをする授業をうける。
- ・ 授業に集中する。
- ・ 普段から周りの人に質問をしたり意見を言う。
- ・ いつも通り過ごす。
- ・ ワークショップを行なう。

9. 理工学部社会基盤デザインコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ いろんな環境へ出て行く。
- ・ ワークショップなど知らない人とどんどん交流する。
- ・ セミナーに参加する。
- ・ 練習する。
- ・ 自分の意見をしっかり発言する。
- ・ 本を読む。
- ・ ボランティア活動などに参加する。
- ・ 講演会などにいきたい。
- ・ 機会を増や。
- ・ イベントに参加する。
- ・ このまま継続する。
- ・ 機会を自分からつくる。
- ・ 他人の考えを理解する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ イベントに参加する。
- ・ たくさん経験する。
- ・ 友人らと共同で課題に取り組む。
- ・ 積極的になる。
- ・ グループワークがあるときは積極的に発言していく。
- ・ イベントに積極的に参加する。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ ワークショップイベントに参加する。
- ・ いろいろなことでグループワークを行う。
- ・ 多くの人と積極的に会話する。
- ・ 協力していく。
- ・ 数をこなす。
- ・ 他人の発表をよく観察する。
- ・ 積極的に関係をつくる。
- ・ 積極的に様々なことに参加する。
- ・ イベントに参加する。
- ・ 自ら勉強するように心掛ける。
- ・ イベントに積極的に参加する。
- ・ 積極性を上げる。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ 友達と仲良くする。
- ・ 積極的にグループワークをする。
- ・ グループでの活動をする時、積極的にメンバーと関わり、やり遂げる。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ グループ学習を積極的に行う。
- ・ インターンなどのグループ企画への参加。
- ・ インターンに参加する。
- ・ グループワークを積極的に参加する。
- ・ インターンシップに参加。
- ・ 色々な人と関わる。
- ・ 自分が下のレベルになるグループに参加する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ インターンに参加。
- ・ イベントに参加する。
- ・ 自分の趣味の中でさらに伸ばす。
- ・ グループで協力して課題に取り組む際、率先してリーダーシップをとる。
- ・ 数を増やす。
- ・ ボランティアなどへの参加。
- ・ コミュニケーション力を高める。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ 協調性のない班員を淘汰する。
- ・ ワークショップに参加している。
- ・ 協力の必要な短期バイトなどをこなす。
- ・ やる気のないやつを消す。
- ・ 数を踏む。
- ・ 自分を知らない人しかいないところで、立場を持たずに協働する。
- ・ グループワーク等に積極的に参加する。
- ・ コミュニケーション能力を身につける。
- ・ 例に同じ。
- ・ 初対面の人も対等に話せるように、人見知りをしないように改善して行く。
- ・ グループワークを行える場に積極的に参加する。
- ・ 他の人の意見を活かす意見を言えるようになる。
- ・ インターンに参加する。
- ・ インターンに参加する。
- ・ いっぱい話す。
- ・ 積極的に発言する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ ワークショップイベントに参加する。
- ・ まとめられる存在になれるようにする。
- ・ 研究室配属後にディスカッションイベントなどに積極的に参加する。
- ・ 何回もする。

- ・ グループワークで積極的に発言する。
- ・ 色々な人と交友を深める。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ インターン シップ。
- ・ 積極的に行動する。
- ・ 協働性が必要な講義に積極的に参加する。
- ・ やる気のない人にどうやって作業を振るかを考える。
- ・ グループワーク。

10. 理工学部機械科学コース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ コミュニケーションをよりとっていききたい。
- ・ イベントに参加する。
- ・ グループで行うイベントに参加する。
- ・ さまざまなイベントに参加する。
- ・ 今後のグループでの発表・報告に積極的に関わる。
- ・ 一つのテーマについてグループ単位で取り組む。
- ・ 積極性を身につける。
- ・ より積極的に協力する。

11. 理工学部応用化学システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 多くの人。
- ・ ワークショップイベントに参加する。
- ・ 初対面の人とも協力的になれるように。
- ・ グループないで積極的にまとめ約などをする。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ ワークショップイベントに参加する機会を増やす。
- ・ イベントに参加する。
- ・ コミュ障を治す。
- ・ 教員に質問する。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ やりとげた。
- ・ 先輩などにもつながりを広げる。
- ・ コミュニケーション能力を身につける。
- ・ ワークショップに参加。
- ・ より多くの人とコミュニケーションをとる。
- ・ 例と同じ。
- ・ 社会経験をつむ。
- ・ 積極的に情報交換す？。
- ・ 様々な人と交流する。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 同じ班の人に頼りすぎない。
- ・ インターンシップに参加する。
- ・ コミュニケーション力をたかめり。
- ・ 人と関わることをする。
- ・ 能動的に動く。
- ・ イベントに積極的に参加する。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ 今後もグループ学習や発表の機会に参加する。
- ・ 普段から時事問題のような社会問題についてグループメンバーだった人と話すなどして話し合いスキルを磨く。
- ・ グループねの話し合いなどに積極的に参加する。
- ・ 経験する。
- ・ 自主学习。
- ・ グループ発表で積極的に発言しメンバーの話もよく聞く。
- ・ 積極的に何事にも参加する。
- ・ グループワークには積極的に参加する。
- ・ 参加する。
- ・ インターンシップに参加する。
- ・ 話し合いに積極的に参加する。
- ・ インターン活動に積極的に参加する。
- ・ 様々な機会を参加。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ グループを組むことがあれば積極的に発言する。
- ・ 積極的にグループワークをする。
- ・ グループワークにおいて積極的に話し合いに参加する。
- ・ 実験を復習する。
- ・ 自分に足りないものを自覚する。
- ・ 部活動でリーダーシップを磨く。
- ・ グループワークに意欲的に取り組む。
- ・ 積極的に班での活動に関わる。
- ・ 予習をしっかりする。
- ・ インターンなどで機会を作る。
- ・ ボランティア等色々なことに参加する。
- ・ 積極的に機会に参加する。
- ・ イベントへ参加してみる。
- ・ 自主学习。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ 話し合いの場に積極的に参加する。
- ・ グループ活動をたくさん行う。
- ・ 自分から意見を間違っても言う。
- ・ 積極的にグループ活動に取り組む。

12. 理工学部電気電子システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ グループ活動に積極的に参加する。
- ・ インターンシップに参加する。
- ・ グループ活動の機会に積極的に参加する。
- ・ イベントとかに参加する。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ 積極的に物事を協力する。
- ・ 期限内で達成度を定め、予定を決めて行動したい。
- ・ イノベなどの共同制作の場に参加する。
- ・ ワークショップに行ってみる。

13. 理工学部情報光システムコース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 勉強をさらにする。
- ・ グループ活動にもっと積極的になる。
- ・ グループワークで積極的に行動する。
- ・ 積極的に行う。

- ・ いろんなグループワークをやるイベントに参加する。
- ・ それに関連した本を読む。
- ・ web サービスなどを開発する。
- ・ ディスカッションを多くする。
- ・ イベントに参加する。
- ・ 今後も共同開発など頑張る。
- ・ 他大学との交流の場に足を運ぶ。
- ・ 複数人で何かをやり遂げる状況に積極的身を置く。
- ・ グループ活動に積極的に取り組む。
- ・ とにかく機会を増やす。
- ・ これからも積極的にコミュニケーションを取っていく。
- ・ チームビルディングが必要。
- ・ プロジェクト活動に積極的に参加する。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ イベントに参加する。
- ・ インターンシップに参加する。
- ・ グループワークで積極的に意見する。
- ・ 初対面の人とグループワークできるような機会に参加する。
- ・ ワークショップイベントに参加する。
- ・ 複数のコミュニティに所属していいところを吸収する。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ グループ課題を増やす。
- ・ グループワークを積極的に行う。
- ・ コミュニケーション能力を養うようにする。
- ・ 話し合いに積極的に参加する。
- ・ イベントなどに参加する。
- ・ グループ活動をする。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ 多くのワークショップに参加する。
- ・ チームで活動を行う。
- ・ 色々と積極的に参加。
- ・ 積極的に発言する。
- ・ 積極的に話し合いに参加する。
- ・ 基礎学力から勉強すること。
- ・ 様々な人と交流する。
- ・ 頑張る。
- ・ グループでの活動を増やす。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ 自分から発言する。
- ・ 積極的な交流。
- ・ 自分の意見を明確に相手に伝えられるようにする。
- ・ 積極的に研究に取り組む。
- ・ グループをつくって研究に臨む。
- ・ 積極的にグループ活動を行う。
- ・ グループ活動に積極的に参加する。
- ・ グループ活動に参加する。
- ・ 研究室でグループワークに参加していきたいと思う。
- ・ グループで行うイベントに参加する。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ 協働力が向上する活動に参加する。
- ・ イベントさんか。
- ・ グループワークへの積極的な参加。
- ・ インターンに参加する。
- ・ 練習する。
- ・ グループディスカッションをする。
- ・ 自分から積極的に発言が求められるイベントに参加するようになる。
- ・ グループ活動を積極的に行う。
- ・ イベントに参加する。
- ・ グループワークに取り組む。
- ・ イベント参加。
- ・ 積極的にグループワークで活動を行う。
- ・ グループワークに積極的に参加する。

14. 理工学部応用理数コース

【向上のための今後の取り組み】

- ・ 協力して頑張る。
- ・ 社会イベントにも参加。
- ・ ワークショップに積極的に参加する。
- ・ やる気のある人が多いところに行く。
- ・ 楽しむ。
- ・ 積極的に発言する。
- ・ 積極的に意見を述べる。
- ・ ワークショップイベントに参加する。
- ・ グループ活動に積極的に参加する。
- ・ ワークショップに積極的に参加する。
- ・ グループワークで話を盛り上げるようにする。
- ・ グループワークを多用する講義を増やすこと。
- ・ 沢山のコミュニケーションを取りたい。
- ・ 何か協力してやり遂げることがあれば意見を出して考える。
- ・ グループで活動する機会を増やす。
- ・ 他人と仲良くなる。
- ・ 多人数で課題を協力する。
- ・ 話し合う機会を大切にする。
- ・ スキルあげる。
- ・ ワークショップに参加する。
- ・ 討論会などの自分の意見を言う場に積極的に参加する。
- ・ ボランティアに参加する。
- ・ 学術論文を読む。
- ・ みんなで話し合ったりする。
- ・ 人に積極的に関わっていくようにする。
- ・ 今後も周囲の学生、先生方と協力し実験をすすめていく。
- ・ いろんな人と話す。
- ・ そこまで必要がないと思うので、取り組みません。
- ・ 協力して課題などを成し遂げるよう心がける。

15. 生物資産業学部

【向上のための今後の取り組み】

- ・ コミュニケーションをたてる。
- ・ 授業の中で。
- ・ ボランティア活動に参加する。
- ・ 難しい。
- ・ コミュニケーションをよくとりたい。
- ・ 本で調べる。
- ・ 妥協点を見つける。
- ・ グループ活動の際は積極的に発言する。
- ・ 積極的にグループワークに参加する。
- ・ 今後もグループワークなどに積極的に取り組む。
- ・ イベントに積極的に参加する。
- ・ コミュニケーションをとる。
- ・ イベントに参加。
- ・ 数をこなす。
- ・ 協力して課題に取り組む。
- ・ 相手の意見を理解して活用する。
- ・ 積極的に発言する。
- ・ 共同実験などでがんばる。

- ・ もっと勉強する。
- ・ 積極的にグループワークに取り組む。
- ・ 様々なイベントに参加する。
- ・ 関係する行事に参加する。
- ・ 様々なことに積極的に参加する。
- ・ 積極的にグループワークに取り組む。
- ・ グループワークに積極的に取り組む。
- ・ イベントに参加。
- ・ 発信的な講義をする。
- ・ 協力的な行動を心がける。
- ・ 積極的に行う。
- ・ ワークショップイベントに積極的に参加する。
- ・ 積極的に意見交換を行う。

- ・ グループワークに積極的に参加する。
- ・ グループで何か一つのことを行うプロジェクト等に参加する。
- ・ 数をこなしていく。
- ・ 積極的に参加する。
- ・ グループワークに積極的に参加する。
- ・ 自主的にボランティアやバイトに取り組む。
- ・ 数をこなす。
- ・ 自分の役割を見つける練習をする。
- ・ イベントに参加する。
- ・ まじめにグループワークに取り組める環境をつくる。
- ・ グループワークのとき積極的に発言する。
- ・ 積極的に話し合う。

2-2. AP テーマ I 「アクティブ・ラーニング」 シンポジウム

1. 概要

本シンポジウムは大学教育再生加速プログラムテーマ I (*注1) 及びテーマ I・II (*注2) 複合型に選定された大学の実践例を共有し、その成果と課題について議論を行うことで社会への普及につなげることを目指すものである。AP テーマ I 及びテーマ I・II 複合型、選定校代表 4 校の取組について情報共有し、成果の発信を行うと共に、今後の大学教育改革の方向性とそのための指針について協議した。また、AP テーマ I 及びテーマ I・II 複合型の幹事校に選定されている大学から幹事校の取組を紹介した。注1) テーマ I : アクティブ・ラーニング, 注2) テーマ II : 学修成果の可視化

2. プログラムの概要

2-1. 対象者

大学, 短大, 高等専門学校, 高校の教職員及び学生

2-2. 開催日時

平成30年11月24日(土) 13:00~17:00

受付: 12:30~

2-3. 場所

キャンパスプラザ京都 (〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る)

2-4. プログラム

(1) テーマ I 及びテーマ I・II 複合型共同開催シンポジウム

| 時間 | 内容 | 詳細 |
|-------------|----------|---|
| 13:00-13:05 | 開会挨拶 | 代表校から挨拶 (徳島大学 野地学長) |
| 13:05-13:10 | 企画主旨 | 司会者より趣旨説明 |
| 13:10-13:40 | 幹事校取組紹介 | 徳島大学 登壇者: 川野 卓二 (教授) 発表タイトル: テーマ I 幹事校の取組 京都光華女子大学短期大学部 登壇者: 定松 淳 (講師) 発表タイトル: “チーム AP” としての全選定校の交流の促進 |
| 13:40-14:30 | 選定校事例紹介1 | テーマ I 選定校 県立広島大学 |

| | | |
|-------------|-------------|--|
| | | <p>登壇者：馬本 勉（学長補佐） 発表タイトル：アクティブ・ラーナーの育成を目指す県立広島大学の取組</p> <p>仙台高等専門学校 登壇者：川崎 浩司（准教授） 発表タイトル：仙台高専におけるAP事業への取り組み</p> |
| 14:30-14:45 | 休憩 | |
| 14:45-15:35 | 選定校事例紹介2 | <p>テーマⅠ・Ⅱ複合型選定校 山口大学 登壇者：林 透（准教授） 発表タイトル：総合的な大学教育改革のためのエンジン～山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）の使命～</p> <p>長崎大学 登壇者：若菜 啓孝（教授） 発表タイトル：長崎大学における授業改善への取り組みと学修成果の可視化について</p> |
| 15:35-15:50 | 休憩 | |
| 15:50-16:50 | パネルディスカッション | フロアとの議論 |
| 16:50-17:00 | 閉会挨拶 | 代表校から挨拶 （京都光華女子大学短期大学部 若井副学長） |

6. 主催

徳島大学・京都光華女子大学短期大学部

7. シンポジウムの様子



野地学長挨拶



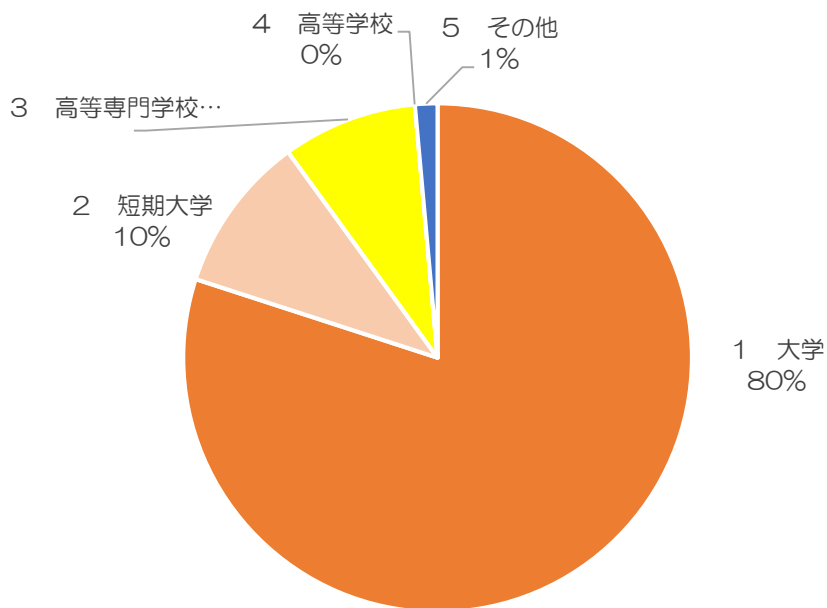
ディスカッションの様子

3. アンケート結果

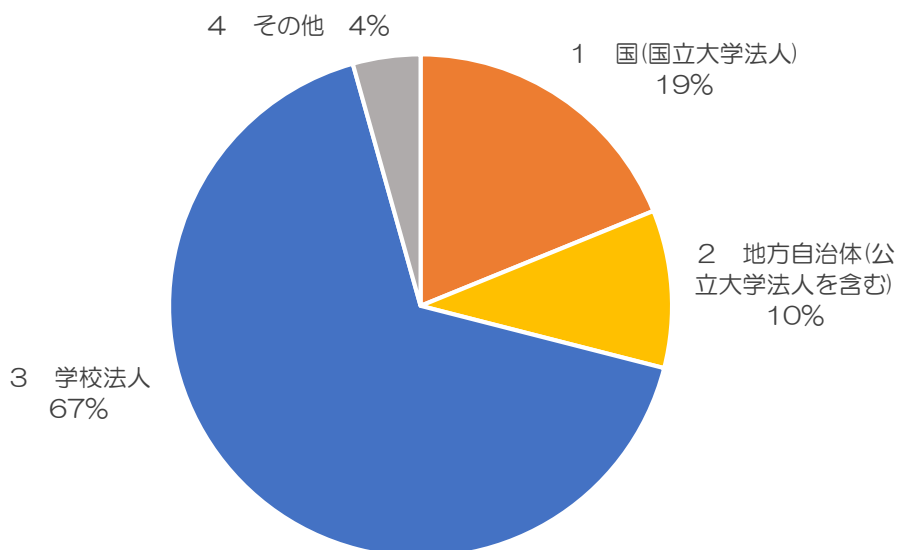
シンポジウム参加者数：109名

アンケート回答者数：70名（回収率：64.2%）

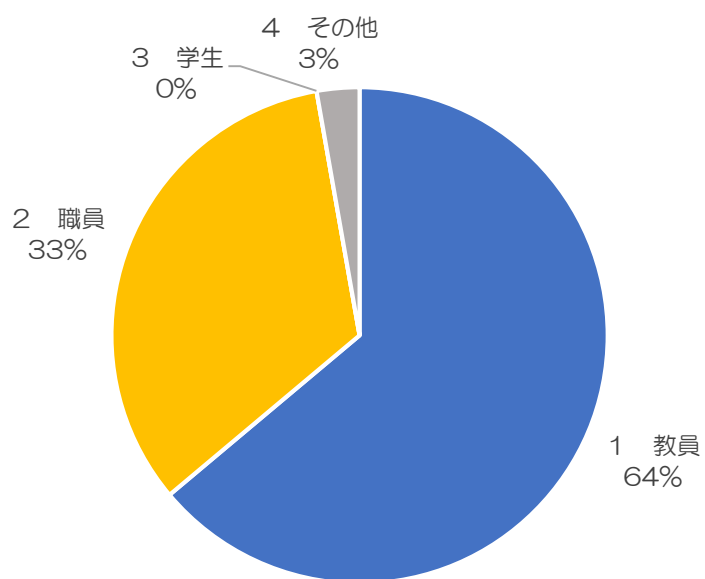
3-1. 所属



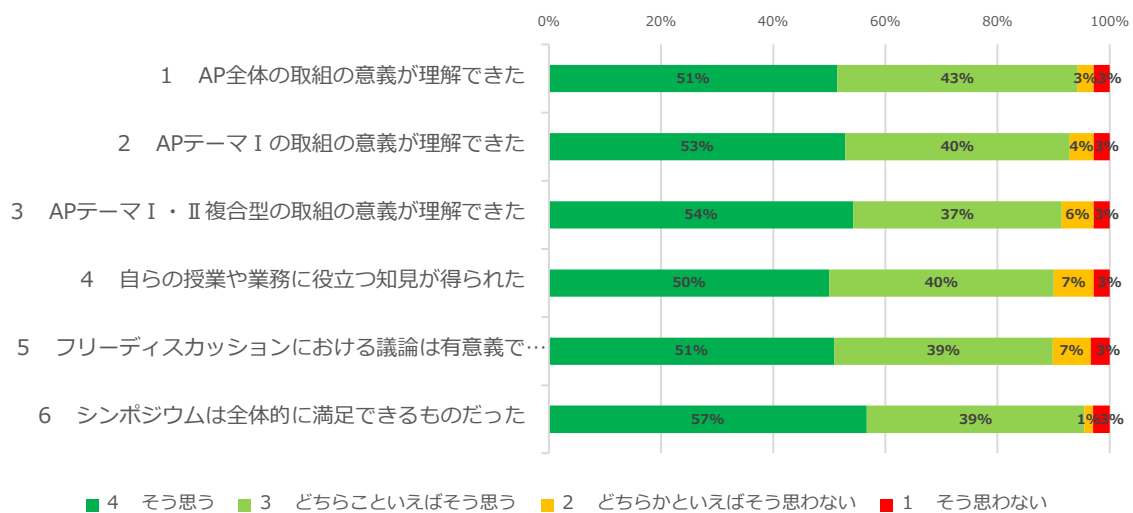
3-2. 所属先の設置者



3-3. 職種



3-4. シンポジウムに対する感想



3. アクティブ・ラーニング調査報告

3-3. アクティブ・ラーニング学内調査

アクティブ・ラーニングを個々の教員の専門科目に普及していくために、さまざまな専門分野におけるアクティブ・ラーニングの取り組みを調査し、教員間で共有できる仕組みの構築を行うことを目的に「学生の学習を促進する授業事例カード」を作成している。平成30年度は新たに10件の事例カードを追加し、合計54件の事例について、学内教職員がweb上で共有できるように公開した。

また、事例カードは学内のFDプログラムなどで活用している。特に、新規採用の教員を対象とした「授業設計ワークショップ」では、授業設計に関わる理論と共に紹介しており、参加者が自身の授業で取り入れることができる具体的な事例として有効活用されている。

1) 学生の学習を促進する授業事例カードリスト


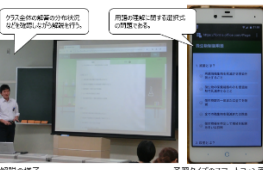
| No | 分野 | 事例名 | 教育的意図 | 所要時間 (分) | クラスサイズ | 担当教員 (所属は事例作成当時) | | | 授業名 |
|--------|----------|----------------------|--------------|-------------|--------|------------------|--------|-----------------|-----------------|
| | | | | | | 氏名 | 大学 | 所属 | |
| SOS-00 | 社会科学 | 予習シートの事前配布と小テスト | 予習促進 | 5 | 小 | 吉田 博 | 徳島大学 | 総合教育センター | 大学教育と学び方入門 |
| SOS-20 | 社会科学 | パネルディスカッション | 複眼的思考促進 | 20~40 | 小 | 吉田 博 | 徳島大学 | 総合教育センター | 大学教育と学び方入門 |
| SOS-21 | 社会科学 | マイクロディベート | 複眼的思考促進 | 25 | 小 | 小田切康彦 | 徳島大学 | 総合科学部 | 公共政策学Ⅱ |
| SOM-00 | 社会科学 | カードを用いてクラス全体の意見を把握する | 注意喚起 | 1 | 中 | 金西計英 | 徳島大学 | 総合教育センター | 情報メディアと教育 |
| SOM-10 | 社会科学 | グループメンバーへのフィードバック | 動機づけ・振り返り | 10 | 中 | 金西計英 | 徳島大学 | 総合教育センター | 情報メディアと教育 |
| SOM-20 | 社会科学 | コースの中間期に実施する振り返り | 振り返り | 20 | 中 | 金西計英 | 徳島大学 | 総合教育センター | 情報メディアと教育 |
| SOM-30 | 社会科学 | マインドマップを用いた概念の整理 | 理解促進・振り返り | 30 | 中 | 小田切康彦 | 徳島大学 | 総合科学部 | 公共政策学Ⅰ |
| SOM-90 | 社会科学 | グループワーク・プレゼン | 複眼的思考促進・理解促進 | 30+90 | 中 | 小田切康彦 | 徳島大学 | 総合科学部 | 公共政策学Ⅰ |
| SOL-00 | 社会科学 | 大福帳による振り返り | 振り返り・動機づけ | 5 | 大 | 金西計英 | 徳島大学 | 総合教育センター | 情報メディアと教育 |
| SOL-01 | 社会科学 | 学生の質問にリアルタイムで答える | 理解促進・動機づけ | 0 | 大 | 田口太郎 | 徳島大学 | 総合科学部 | まちづくり入門 |
| SOL-50 | 社会科学 | スモールグループディスカッション | 複眼的思考促進 | 60 | 大 | 土屋 教 | 徳島大学 | 総合科学部 | 生命倫理と現代社会Ⅰ |
| SOL-51 | 社会科学 | 反転授業・プレゼン・ディスカッション | 複眼的思考促進・予習促進 | 70 | 大 | 金西計英 | 徳島大学 | 総合教育センター | 情報メディアと教育 |
| SCS-10 | 理学(生物資源) | 動画を活用しながら解説する | 理解促進・動機づけ | 10 | 小 | 宇都義浩 | 徳島大学 | 生物資源産業学部 | 創業学 |
| SCS-11 | 理学(生物資源) | web活用した予習クイズと授業での解説 | 予習促進・理解促進 | 10 | 小 | 白井昭博 | 徳島大学 | 生物資源産業学部 | 微生物学 |
| SCM-00 | 理学(自然科学) | 小道具や学生とのやり取りで注意喚起する | 注意喚起・動機づけ | 0 | 中 | 古屋 玲 | 徳島大学 | 教養教育院 | 現代天文学への招待 |
| SCM-10 | 理学(自然科学) | レクチャーとペアによる教え合い・学び合い | 理解促進 | 15~25 | 中 | 榎原暢久 | 芝浦工業大学 | 教育イノベーション推進センター | 微分積分1,2・線形代数1,2 |
| SCM-11 | 理学(自然科学) | レポートの質を高めるためのひと工夫 | 理解促進 | 15 | 中 | 古屋 玲 | 徳島大学 | 教養教育院 | 現代天文学への招待 |
| SCM-20 | 理学(自然科学) | ミニ実験を含めた理論解説 | 動機づけ | 25 | 中 | 渡部 稔 | 徳島大学 | 教養教育院 | 基礎生物学 |
| SCM-30 | 理学(自然科学) | 演示実験を含めた理論解説 | 動機づけ | 35 | 中 | 渡部 稔 | 徳島大学 | 教養教育院 | 基礎生物学 |
| SCM-31 | 理学(生物資源) | 写真を活用して興味を喚起する | 動機づけ・理解促進 | 40 | 中 | 横井川久己男 | 徳島大学 | 生物資源産業学部 | 食品微生物学 |
| SCL-00 | 理学(自然科学) | 実物を用いて複眼的な理解を促進する | 動機づけ・理解促進 | 3 | 大 | 佐藤高則 | 徳島大学 | 総合科学部 | ミルクの科学 |
| SCL-01 | 理学(生物資源) | 授業時間外に学習会を開催する | 理解促進・知識定着 | 0 | 大 | 宇都義浩 | 徳島大学 | 生物資源産業学部 | 基礎有機化学 |
| SCL-10 | 理学(生物資源) | 復習項目の提示と授業冒頭の確認テスト | 理解促進 | 10 | 大 | 向井理恵 | 徳島大学 | 生物資源産業学部 | 基礎食品化学 |
| SCL-20 | 理学(自然科学) | ペア・グループによる課題演習 | 理解促進・動機づけ | 25 | 大 | 佐藤高則 | 徳島大学 | 総合科学部 | 環境とバイオテクノロジー |
| SCL-50 | 理学(自然科学) | 課題を個人で考えグループで議論する | 理解促進 | 60 | 大 | 斉藤隆仁 | 徳島大学 | 教養教育院 | 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 |

| No | 分野 | 事例名 | 教育的意図 | 所要時間(分) | クラスサイズ | 担当教員 (所属は事例作成当時) | | | 授業名 |
|--------|---------|---------------------------|--------------|---------|--------|------------------|------|----------|---------------|
| | | | | | | 氏名 | 大学 | 所属 | |
| ENS-00 | 工学 | 授業内容に関連する実物を見せる | 注意喚起・動機づけ | 2 | 小 | 岡本敏弘 | 徳島大学 | 工学部 | 光デバイス |
| ENS-10 | 工学 | 授業の冒頭で実施する小テスト | 理解促進・予習促進 | 16 | 小 | 岡本敏弘 | 徳島大学 | 工学部 | 光デバイス |
| ENS-30 | 工学 | ペア学習と学生による解説 | 理解促進・予習促進 | 30 | 小 | 押村美幸 | 徳島大学 | 理工学部 | 有機化学5 |
| ENM-00 | 工学 | Moodleを活用した理解度の確認 | 注意喚起・知識定着 | 3~5 | 中 | 伊藤桃代 | 徳島大学 | 理工学部 | プログラミング入門及び演習 |
| ENM-10 | 工学 | 授業の冒頭で予習ノートをチェックする | 予習促進・理解促進 | 10 | 中 | 水科晴樹 | 徳島大学 | 工学部 | 電子回路 |
| ENM-11 | 工学 | 授業の最後に小テストを実施する | 理解促進・注意喚起 | 10 | 中 | 水口仁志 | 徳島大学 | 理工学部 | 機器分析化学 |
| ENM-20 | 工学 | eラーニング教材による事前学習と小テスト | 予習促進・理解促進 | 20 | 中 | 小川宏樹 | 徳島大学 | 理工学部 | 建築構造計画 |
| ENM-50 | 工学 | 学生の板書する解答を活用した演習科目 | 理解促進・予習促進 | 80 | 中 | 吉田 健 | 徳島大学 | 工学部 | 物質機能化学演習 |
| ENL-10 | 工学 | 授業の最後に実施する課題演習 | 知識定着 | 15~20 | 大 | 西出 俊 | 徳島大学 | 工学部 | グラフ理論 |
| ENL-20 | 工学 | 理論解説と直後の課題演習 | 知識定着・理解促進 | 20 | 大 | 大飼宗弘 | 徳島大学 | 理工学部 | 基礎物理学・力学概論 |
| ENL-30 | 工学 | 反転授業 (知識定着のための課題演習) | 知識定着・予習促進 | 40 | 大 | 森賀俊広 | 徳島大学 | 工学部 | 材料物性 |
| ENL-90 | 工学 | ジグソー (協同学習の一技法) | 理解促進・複眼的思考促進 | 90 | 大 | 上月康則 | 徳島大学 | 理工学部 | 環境を考える |
| MES-10 | 医療 | 予習課題を学生に説明させる | 理解促進・予習促進 | 10 | 小 | 櫻井信之 | 徳島大学 | 総合科学部 | 基礎物理学実験 |
| MES-90 | 医療 | 具体的な事例をもとにグループで話し合う | 理解促進・複眼的思考促進 | 60×2 | 小 | 奥田紀久子 | 徳島大学 | 医学部 | 看護概説Ⅱ |
| MEM-00 | 医療 | クlickerを使用した発問とフィードバック | 注意喚起・理解促進 | 3~5 | 中 | 安陸 晋 | 徳島大学 | 歯学部 | 歯科臨床示説 |
| MEM-10 | 医療 | 事例について学生同士で話し合う | 理解促進 | 18 | 中 | 橋本浩子 | 徳島大学 | 医学部 | 小児援助論 |
| MEM-20 | 医療 | 解説の後にグループで具体例を考えさせる | 理解促進・注意喚起 | 25 | 中 | 中尾玲子 | 徳島大学 | 医学部 | 応用栄養学 |
| MEM-30 | 医療 | 最新論文を活用した解説と小レポート | 動機づけ・理解促進 | 40 | 中 | 近久幸子 | 徳島大学 | 医学部 | 生体の統合機能 |
| MEM-31 | 医療 | 授業の冒頭で学生に課題を発表させる | 理解促進 | 30 | 中 | 河野 理 | 徳島大学 | 医学部 | 電気電子工学 |
| MEM-50 | 医療 | グループで体験学習を行う | 理解促進・複眼的思考促進 | 60 | 中 | 岡久玲子 | 徳島大学 | 医学部 | 産業保健・看護論 |
| MEM-51 | 医療 | TBL (Team Based Learning) | 理解促進・予習促進 | 60 | 中 | 大倉一夫 | 徳島大学 | 歯学部 | 歯科補綴学(2)A |
| MEM-90 | 医療 | 具体事例を用いてグループで議論する | 複眼的思考促進・動機づけ | 90×2 | 中 | 土屋浩一郎 | 徳島大学 | 薬学部 | 薬剤師体験演習 |
| MEL-00 | 医療 | 予習課題のミニプレゼンテーション | 理解促進 | 3~5 | 大 | 米村重信 | 徳島大学 | 医学部 | 基礎生物学 |
| MEL-10 | 医療 | 動機づけを促す講義途中の小レポート | 注意喚起・動機づけ | 10 | 大 | 松本高広 | 徳島大学 | 医学部 | 実験動物学・放射線学概論 |
| MEL-11 | 医療 | 授業の最後に実施する理解度テスト | 理解促進 | 15 | 大 | 江川麻理子 | 徳島大学 | 医学部 | ぶどう膜・視神経疾患 |
| LAM-20 | 語学 | 授業冒頭で学生の質問や疑問に答える | 動機づけ・理解促進 | 20 | 中 | 大村和人 | 徳島大学 | 教養教育院 | 中国語入門 |
| LAM-30 | 語学 | 英語の歌を教材として活用する | 動機づけ | 30 | 中 | 宮田政徳 | 徳島大学 | 総合教育センター | 主題別英語 |
| LAM-50 | 語学 | グループで予習課題を話し合わせる | 理解促進・予習促進 | 55 | 中 | 服部恒太 | 徳島大学 | 総合科学部 | 主題別英語 |
| OTS-90 | イノベーション | デザイン思考の体験 | デザイン思考 | 90×4 | 小 | 北岡和義 | 徳島大学 | 教養教育院 | イノベーション思考入門 |

2) 学生の学習を促進する授業事例カード 例

| ◆web活用した予習クイズと授業での解説 | | 事例No. SCS-11 |
|----------------------|---|--------------------------------------|
| 目的 教育的意図 | ◆Key Words< 学習促進 理解促進 > 授業の予習資料を事前に配布し、授業開始までにwebフォームのクイズに解答することで予習を促進。 授業冒頭でクイズの解説を行うことで、授業中の集中を高め、理解を促進する。 | 徳島大学 生物資源学系 生物資源学 生物資源学系実習科目 162019年 |
| 分野 | 理学・生物資源学 (他分野でも利用可能) | |
| クラスサイズ | 小(30名以下) | |
| 所要時間 | 約10分 (授業中での時間) | |
| 学生の事前学習 | 配布された資料を予習し、webフォームの予習クイズに解答する。 | |
| 評価方法 | なし | |
| 準備物 | <ul style="list-style-type: none"> 予習教材 (※この事例では事前配布のPDFファイルによる配布) 予習用紙 (※この事例では事前配布のPDFファイルによる配布) webフォームの設定 (※この事例では事前配布のPDFファイルによる配布) 学生がフォームに入力するためのQRコード (予習教材と共に事前に配布) | |
| 実施のポイント | <ul style="list-style-type: none"> クイズの解答を行う際に、その日の授業の導入が行ったり、関連する点を授業中に集中して聞くように指示することで、学生の授業への集中力を高めたり、動機づけを行うことができる。 学生に授業の内容を予習させることができる。 webフォームを利用することで、学生の解答状況を教員に確認することができ、授業冒頭の解説の際にクラス全体で疑問点を解消することができる。 | |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> 予習クイズにクイズに解答する学生や、クイズ解説に学生が対応を行う必要がある。 ex.成績評価の際に活用する (※成績評価のみに活用) 予習クイズの活用は、授業で学習する内容を事前に配布して行えることで予習ができるというメリットがある。 | |
| デメリット | 学生アンケートでは、「授業で学習する内容を事前に配布して行えることで予習ができるというメリットがある」という意見がいくつか寄せられていた。 | |

事例カード表面 (事例の概要)

| ◆web活用した予習クイズと授業での解説 | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 授業終了時に、次の授業に関する予習資料を配布し、webフォームの予習クイズにアクセスするためのQRコードも添付する。 ※今回の事例では、予習資料は学内のLMSで学生がダウンロードできるように指示している。また、予習フォームは学内で作成されたSoftexJ650Forms機能を使用している。 学生は授業開始までに予習を行い、スマートフォンを活用してクイズ (選択式の問題) に解答する。 授業の冒頭でクイズの解説 (10分程度) を行う。この時に、授業の内容の導入を行ったり、クイズに関連した点などは授業中に注意して解説を聞くように動機づけを行う。 <p>今回の事例では、クイズの解答は無記名で行っているが、記名式にして成績評価の一部として加算することもできる。また、webフォームはGoogleフォームなど活用することもできる。</p> |   |

事例カード裏面 (事例の詳細)

4. FD プログラムの開発

4-1スマートフォンを活用したFD

i.目的

アクティブ・ラーニングを推進するために、「スマートフォンを活用した授業改善ワークショップ」を開催した。本ワークショップは2017年度から実施したFDプログラムである。2018年度も継続してワークショップを実施した。

ワークショップでは、昨今の大学におけるICT機器の導入事例を紹介し、授業改善の中で学生アンケートや理解度テストの重要性について解説した。また、全学的に導入されているOffice365のアプリケーション「Form」を使って授業の中で実施する予定のアンケートや小テストを開発した。

ii.概要

■開催時期・会場

平成30年12月19日（水）17：00～18：30 総合研究棟2階 スキルス・ラボ8A～8D

平成30年12月20日（木）16：30～18：00 地域創生・国際交流会館共用室301

■参加者

7名

■研修の目標

- 1)大学におけるICT機器の導入事例についての解説
- 2)授業改善における学生アンケート・理解度テストの活用方法
- 3)Office365のアプリケーション「Form」を使って授業の中で実施する予定のアンケートや小テストの開発

■内容

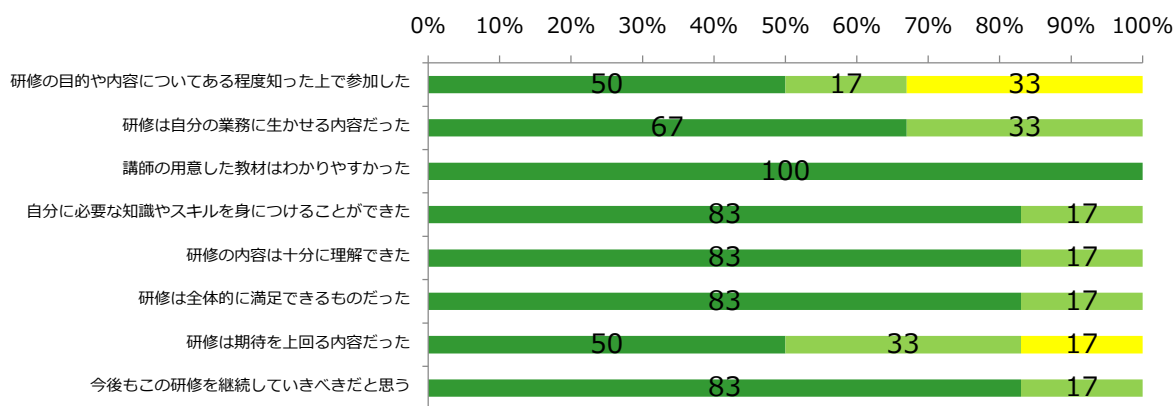
| 時間 | 内容 | 詳細 |
|-----|---------------------|--|
| 5分 | 開会 | 本ワークショップの趣旨 |
| 15分 | 授業におけるICT機器の活用 | 1. 国内外の事例 2. ICT機器の解説 |
| 10分 | 授業における学生とのコミュニケーション | 1. 授業満足度の確認 2. 授業理解度の確認 |
| 50分 | ワークショップ | 1. Officeアプリケーションの使い方 2. 実際にアンケート・理解度テストを作成 3. 作成したアンケート・理解度テストの実演 |
| 10分 | クロージング | 1. 他のICT機器でできること (Mahara・Manaba・Moodleの紹介) |

■担当講師

総合教育センター教育改革推進部門 助教 上田勇仁

iii.成果・課題

アンケートから「研修は自分の業務に生かせる内容だった」「講師の用意した教材はわかりやすかった」「研修は全体的に満足できるものだった」、「今後の研修を継続していくべきだと思う」の項目について参加者全員が肯定的な回答を示した。ワークショップの中でのディスカッションにおいて、参加者から担当している授業で実施しているアンケートやクイズをスマートフォンで回答させたいという意見が多く、今回紹介したアプリケーションが効果的に運用されていくと考えられる。今後も授業改善に繋がるツールを導入できるワークショップを継続的に実施していくべきだと考えられる。



■ とても当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ まったく当てはまらない

本ワークショップ終了後のアンケート (n=6)

3

下の1~4の文は、次の図2中D~G付近のいずれかにおける代表的な植生観と人間活動について述べたものである。Eに該当するものを、下の1~4のうちから選べ。
平成29年センター試験地理A【知識】* (20点)

図 2

- 1. 広大な草原がみられ、砂漠化防止のための取組が行われている。
- 2. 広葉樹を主体とする森林で、甘味料の原料がとれる樹木がある。
- 3. 針葉樹を主体とする森林で、林業が盛んである。
- 4. 草原のなかに樹木が分布し、野生動物が観光資源になっている。

本ワークショップで示したクイズの例